青鞜

新年號

大正三年一月一日發行（毎月一回一日發行）第一號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新年號目次

ぬれ髪（小説）……………………一……水野仙
脱れられぬ人（小説）……………一一……川田よし
父（小説）……………………………三一……荒木郁
風吹く日（小説）…………………四一……加藤みどり
白い火事（小説）…………………五六……安田皐月
戀愛及生活難に對して（感想）…七〇……西崎花世
舞の師匠（詩）……………………八五……茅野雅
孔雀（詩）…………………………八八……望月れい
ソニア●コヴアレフスキー自傳……九〇……野上彌生譯
イワノフ（戯曲）…………………一〇三……瀬沼夏葉譯
夢（歌）……………………………一一九……三ケ島葭
靈に（歌）…………………………一三五……岩淵百合

野枝子の「動搖」に現はれた女性的特徴　一三八……小倉清三郎
編輯室より……………………一四一……………………
嘉悦孝女史に（清）
武者小路氏に（野枝）
こんな頭（らいてう）
野上氏の「指環」（野枝）
其　他

附錄　ウォーレン夫人の職業合評

ヸ、ーとその母の生活…………一……らいてう
ウォレン夫人とその娘…………一一……野枝
ヸ、ーの生活に對する雜感…………一九……花世
ウォーレン夫人の職業を見て…………二七……K　I
挿繪　ヸ、ーとウォーレン夫人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ぬれ髪

—水野仙子—

お榮さんが懐手をしてよつかゝつてゐる障子に、ばつと羽音がして鳥影がさした。窓の閾に腰をかけて、松葉のやうに組んで斜めに投げ出した足に、絹物が裾さばきよく纒はりついてゐる。少しはみ出した襦袢の赤いのを知らん顔でゐる。なんて嬌かしいんだらう。もう三十を越してゐるんだのに、まだかうして赤いものを身につけて、平氣で身の納まりをつけないでゐる。尤も一度は嫁いだのだけれど、嫉妬(やきもち)やの旦那に疑り〳〵して飛び出してからは、窮屈な家持には決してならないといつて、ひとりで自由に、不思議なお榮さんの興味に耽つてゐる。お榮さんの興味とは、男をちよいと釣つてみることとなんだ。そして肝甚なところに行くとどんと投げ出して了ふ。それでさよなら！

「ちよつとまあ、勝負事がいくら止さう〳〵と思つても止せまいやうなものね！情けない生れつきさ！」と投げ出すやうにお榮さんは言つてゐる。全く生きた人間が人形のやうに動くんだから、此上の面白いことはないかも知れない。お榮さんはさうしていろ

〳〵な男を操りながら、お粂さんの一生はそんな風な興味に操られて行く。それだのに――或はそれだから、お粂さんはほんとの戀をしたことがない。ほんとの戀つていつたところで、人によつていろ〳〵その意味が違ふんだらうけれど、少くも犧牲的な心になつたことがないとお粂さんは言つて居る。それはお粂さんにだつて、燃えたことはある。たつた一度、十七の時に初めて人に戀はれて、その人を好きだか嫌ひだかわからないで自分も一緒になつて燃えた。まあ、戀として一番印象の深いのはそれ一つだと言つてゐる。私が若しもほんとの戀を、私が憧れてるやうな戀をすることがあつたら、恐らくそれは私の死ぬ時でせうとお粂さんは言つてゐる。

お粂さんは洗髪を日向にほしながら話した。私はその濡れた髪が黒く艶々として、時々少しのほつれが障子の影になるのを、日向に酔つたやうな氣持でぼんやりと眺めながら聞いた。「ぬれ髪のお粂――」心がこんなことを呟いてゐた。

お粂さんはどうやら洋妾までもしたことがあるらしい、この人の口から話されると、新しくて面白く、そしてもつと體裁のいゝことであるけれど――。次の話はお粂さんが十八の時だつたつていふから、初めてぱあつと燃えた戀の火が、そろ〳〵下火になりかけた頃のことなんだらうと思ふ。なあになんでもない、今からすると、罪のないたわい

のないことなんだけれど、それがそも〳〵お榮さんが男つてものに試みた興味の初めなんださうだから。

私が母の故郷のある海國に、お祖母樣の病氣かなんかで暫く母と一緒にかへつてゐた時のことなんです。その頃父の任地は北國の雪深い小さな都市で、軒の低いやうなそこの官舍に、多勢の兄弟と兩親とがそれは賑かに住んでゐました。私は久し振りでそのたわいもなく賑かで面白い日々から離れて、自分で自分のほんとの息を吸ふことが出來るやうな氣がしました。それに、これがまあおんなし時節かと思はれる程季候の違つた、暖かい南國の海邊なんですから、一日は一日と引締つてゐた私の肉がほどけ、さうして私の血は何かに掻きたてられたやうになつてゐました。なんともいへない明るい色の中に眼覺めて、今まで人の肌に抱かれてゐたやうな溫みをもつた潮風に包まれた私の心は、何か物語に憧れるやうな、譯もない嬉しさやもどかしさに溶けあつてゐました。

或日なんの氣なしに家を出て、松林の中をぶら〳〵歩いて行くと、ふと濱邊の白い砂に足跡をつけて、ゆつくりした足取りで歩いて來る一人の男がありました。繁さん――?

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と私の心は呟きかけたが、立止つて凝乎と見つめてゐると、どうやらさうでもないやうなんです。

私は從兄の繁樹さん――商船學校の生徒だつた――と造作もなく仲善しになつてゐました。私は譯もなく繁さんが好きになつちまつてました。お負にいゝとこどうしといふので、どんなに仲善からうと大びらだし、それに自分達にもさういふ安心はあるからだけれど、二人をもつと一緒に置いたら、きつとどうにか色がついたらうと今から思はれるやうなもんでした。ほんとをいへば私の心はたゞぢやなかつたやうだし、繁さんだつてから私が好きだつてことよりもちつとどうかしてたと思ふ……なにしろまあそんな風だつたんです。

それで私は、繁さんならいゝなあと思つて微かに胸を躍らせながら、猶もぢいつと見てゐると、ふと向ふの人も私を見つけて一寸立止りました。と不用意に微笑みかけてゐた私の顏が急に引締りました。違う〳〵、丁度同じ背格好、同じ年頃だからだけれど、顏が少し生白い。私はつまらなくなつて、そのまゝ引かへさうとしたけれど、向ふで何やらもの言ひたさうにこつちに近づいて來るのをみると、はつきりその顏を見てやりたいやうな氣がして、何氣なく私も歩き出しました。

擦れ違ふ時、私は如何にもその男がもの言ひたさうにしてるのをみました。髮を分けた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

目の涼しい、けれどどつか女性的な顔で、此邊の人らしくはないんでした。

その翌日、そんなことなんかすつかり忘れつちまつて、ほんとに不用意な心で海邊に出て行くと、不意にまたその人に會ひました。そして私に昨日よりも一層親しみあるやうな眼を向けました。それからつてものは、私は出るたんびにその男に會ふんです。丁度、この男は一日中かうして出歩いてるんぢやないかしらと思はれるやうに。かうなつて來るとお互に變で、そんな時は、向ふもだけれど、私は自分の眼や口の始末に困るやうな氣がしました。

それでとう〳〵男から口を切りました。

「お散歩ですか?――」

それは或日のことなんです。男はかういつて私に近づいて來ました。

「えゝ。」

私は困つたやうな、その癖少し可笑しいやうな、それでゝなんとなくどき〳〵するやうな胸を覺えました。

「貴女のお子さんですか?」

「いゝえ。」と、私はとんでもないといつたやうな調子で思はず聲をはづませました。私は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とよつていふ小さな姪をその時おんぶしてゐたんです。

男だつてほんとにまさかさういふ積りぢやなかつたんでせうけれど、思ひ切つてつかまへた話のきつかけを、如何にかしてつなぎとめようとわく〳〵してこんなことが言へたんでせう。

男はそれから少し大膽になつたやうでした。

「ご一緒に散歩しませう。」とひたり寄り添ふやうに一層私に近づきました。と人見知りする背中のとよ子が、私の肩にしがみついてふす〳〵と泣き出します。それに私もなんだか落着のない心でしたから、

「私、もう歸らなけりやなりませんわ。」といふと、おつかぶせるやうに、

「まだいゝぢやありませんか、ね？　も少し歩きませう。」

私はそのまゝだまつて、暫く並んで歩きました。

遙かに沖を行く船の姿に、そろ〳〵夕暮の氣が見え出して來ると、色を増した浪に音までが少し高くなつて行くやうな氣がします。足許を覗つて寄つて來る潮が、さあと引いて行つたあとに、打揚げられた白い貝殼が寂しく光つて居る。ぽつ〳〵と散歩から歸りかける人の姿が、限りもなく積いた砂の上に、或は松林の中にちら〳〵してました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

男はさく／＼と砂を踏んで歩いてゐましたた、一つの小さな乾いた舟の近くに寄つて行つて、そのへりに袂からハンケチを出して敷きました。

「おかけなさいな。」

「ありがたう。」

私はそろ／＼眠りかけたよ子を揺りながら男の前に立つてました。

「貴女はこゝの方ぢやないでせう？」

「えゝ。」

「お國はどこ？」

「…………」

私は默つて笑つてました。もうあたりはほんとに暮れかけて、私のしめた赤い襦子の帯が妙に賴りになるやうな色にはつきりしてゐます。

暫くすると男は、

「貴女今晩こゝまで來て下さいませんか。」と囁くやうに言ふんです。

私は下駄の爪先で足許の砂を堀りながら、

「えゝ。」と小さな聲でいひました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私はあした、暫く親しんだこの海邊にさよならをして、母と一緒にまたあの嬉しい北國に歸らなければならないんでした。なんにも知らぬ男が、その前夜になつて二人が近づけたのを喜んでるらしいのが、私には擽つたく、可笑しくもあれば快くも思はれました。そんな心持を經驗すると、私はもつと〳〵男を安心させて置きたいやうな氣になつて、「ぢやきつとね！」と男の目をぢつと見てやりました。

私はその夜どういふ風にして家を出ようかと頻りに考へました。嚴格な母が、どうして私一人の夜の散歩なぞを許して呉れませう。私が人知れずさま〴〵に心を碎いてゐると、不思議にも母は私にあしたの買物の爲めに町までの使ひを頼みました。私は思はず胸を轟かせました。と母はまた思ひかへしたやうに、私も一緒に行かうといふんです。困つたなあと思ひながら、それでも仕方なしに私は母と一緒に家を出ました。

外は人の世とも思はれないやうな淨い月夜でした。濱邊の砂は丁度白い絹でも敷いたやうに、そこに捨てられた漁船の幾つかゞ、墨繪のやうな影を投げてゐました。磯に添つた少しばかりの町で用を濟した母と私は、お互に何かを考へるやうな風で、默つて松原の中にちら〳〵灯影の見える家の方へと歩いて行きました。

と、ちらと二三軒先の家の脇から、砂濱の方へと消えて行つた人影がありました。その

家の前をやり過して、猶二三歩だまつて母に添つて歩いてゐた私は、とつせん、
「あ、歯磨を買ふのを忘れつちやつた！」と立止つてしまいました。
「まあ！」と母が何の懸念もなさゝうに立止ると、
「私、一走り行つて來ますから、お母さん一足お先に歸つてゝ下さいな。」と、言ひ捨てゝ私はすた〳〵と後に引かへしました。
暫くして一寸振りかへつて見ると、母は格別急ぎもせず、ゆつくりして足取りで、細長い影をひきながら向ふに歸つてゆきます。それを見送ると、私はついと家と家の間に自分の體を隠してしまひました。
俄に潮の香がきつく私の鼻を打ちました。早寢した漁夫の家の屋根に生えた草が、月影を浴びてその葉裏が光つて居ます。此時私の足音にふと振かへつた人影は、暫く立止つて瞳を凝らしてるやうだつたが、家と家の遮りから全く月に現はれた私を見ると、つと寄つて來て、
「よく來て下さいましたね！」
私はその時殆んど本能のやうに男の方の側の手を小八ッ口の中に入れました。
「ほんとによく來て下さいましたね！」と重ねた言葉の息が私の耳近く消えたと思ふ間も

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なく、

「ね！……」

男の手は稲妻のやうに私の首に巻かれようとしました。

「いやですよ！」

私の聲は、私ですらびりつとしたほど疳走つてました。

はつとして水でもかけられたやうにすべての働きをとめた男は、一寸の間意識を失つた人のやうに私を見つめてゐました。やがて男は少し赤くなつて、

「どうも失禮しました………」

「いゝえ、私、母が待つてますからもう歸ります。さよなら！」

私はくるりと踵をかへすと、振り向きもしずに見えなくなつた母の影を追ひました。

ほんとに私の白い顔が、丁度お面のやうに見えるだらうと思はれるほど少しの隅もないお月夜でした。——

そのあした、私はほのかな心を紫さんに殘して、振りかへり〳〵その濱邊を去りました。

（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

脱れられぬ人

――川田よし――

お葉は、魂のぬけた樣な眼付をして、頭をもたげた。弱々しい光りが、障子にたよりなく一杯になつて、雀の聲が、幽に聞える。何を見るでもなく、何を考へるでもなく、障子の方から、亂れてゐる枕元の本のあたり迄見廻して、「すつかり疲れたのだよ。」と胸に云つて、眼を、そつと、閉ぢた。其時澁い眼の痛みと、頭痛とを知つた。

昨夜、一晩中泣きぬれて、今の境遇から、離れることを考へつゞけたことが、もう夢のやうに、他人ごとの樣にさへ思はれるのであつた。でも今の心も解剖すれば、きつと同一問題に苦しめられて居るのであらう。

宿の子供は、今朝は大變におとなしい。いつも朝は、きつと泣いて、「何か!」といつて、おねだりするああちやんも、靜にしてゐる。ほんとにうれしい。この痛む疲れ切つた頭に、強い響きが來れば、とても、たまらない――と思つてお葉は額に手を當てた。そして、は

てな――と思ふほどの熱を感じた。今日は、いつそ休んでしまはうかしらむ、とも思つてゐたけれど、下の柱時計が七時打つと、何かに襲はれでもしたかのやうに、起き上つた。疲れた腦は、その不意の震動に、輕い眩を起した。足をふみしめて、鏡の前に立つた時、こんなに考へつかれたのかと、蒼ざめてほうけた顏が情なかつた。

瞼は、はれぼつたくなつて、一寸押せば、今でも、涙が流れ出しそうである。洗面の水にさへ、ぞつと身慄ひをして、髮をとかしにかゝつた。でも、前髮を梳す時は、疲れてゐることなど、すつかり忘れたひとのやうに、昨日の夫からの手紙を胸にくりかへしてゐた。

「お前の顏には、一番、つめて結つた髮が似合ふ。廂を出すのは、おまへの顏の基調(グランドトーン)をこわしてしまふ。やはりおまへは、東京のひと達のやうに、つめて結つてゐる方がよいやうだ。今日は、そんなこと迄思ふ。」――とあつた。

すると、云ふに云はれない心輕さになつて、前髮を、しぼつた。今日は思ひきりつめて見やう。――と思ひながら結ひ上げると、何だか、額が、廣く高くなつたやうで、妙であつた。それでも幼い時にかへつたやうな邪氣(あどけ)なさが顏に漲つてゐると、思つた。

八時が打つと、無意識に袴をつけて、花崗岩の白砂の道を歩いた。お葉は、中途でそれを意識すると、妙に自分の心を冷笑してやりたいやうな氣分になつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

職員室と思ふと、頑固、冷淡、嘲笑といふ心が、同時に湧いて來る。そして、考へまいとしても、昨日の批評會の、同情のない言葉の一つ一つが浮いて來る。その言葉にお葉は、たまらなくなつて、人中で泣き出した。

「私には、八十人もの子供は、始末出來ません。」筒袖に顏をかくしては居たものゝ、其震えた聲は、一同の視線を集めた。

「それは、無理はないさ。何にしろ大勢なのだから。」

と云はれたのを、同情してといふより、寧ろ、申譯らしく聞えて、猶更お葉の心を苛立たせた。

今朝も、こんなに瞼が赤い。顏を見られるのが苦しいので、簡單に挨拶をして、掛け圖室へ逃れるやうに入つた。そして、今朝の修身の掛ケ圖を見付け出しても、いつ迄もたゞずんでゐた。

始業の鈴を聞いて、よほど經つてから体操場へ行つた。しかし、まだ子供は騷々しくて、他の職員はなか〳〵來なかつた。

整列させて、ふと、夫との別れを思ふと、また、涙ぐんでしまつた。窓から見える高山に、涙の眼をそらして、まぎらそうとした。敎場へ入つた時は、胸がわな〳〵悲しさにふるえ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て、暫くの內は、何も云ひ出せなかつた。默つて、掛ケ圖をかけると、子供は、敎師に對する不審の眼を、でも一樣に掛ケ圖に走らせた。けれどいつものやうに、騷ぎ立てるものは、殆どなかつた、其緊張した瞳に、お葉は、氣をとり直して、話を始めた。「ほんとに、御行儀がよい。」などと讃語を云ひ得るほどに、いつか、子供に、心をすつかり奪られてゐた。他の級がやかましく出て來たので、もう鈴がなつたのかしらんと思ふほどに、とにかく自分を忘れてゐたのを、不思議に思つた。

十五分の休みにも、職員室へも歸らねば、子供とも遊ばうともしなかつた。敎場に、一人殘つて、ほんとに、辭職など出來る程の、斷然たる態度があるか、それを確めやうとした。第二時は、算術だつた。お葉は、物言ふことが苦痛でたまらなかつたので、「九々を一の段から、九の段迄お書き。」と云ひながら、机間を巡視してゐた。お下げにした髮が、漸く肩にとゞく許りの、すみ子は、今日も騷々しい中に、つゝましく、鉛筆を運んでゐる。「私は、これ等の子供とも、お別れしやうと、思ふんだわね。」と心に云ひながら、其子の髮を撫でた。すると、メランコリーになつてゐる今のお葉は、まだ涙ぐんで來た。瞳を返そうとした時、眼の早い光雄は、「や、先生は泣いてるぜ。」と後の子供に、告げてゐた。お葉は、聞えぬ風をして、塗板に向つて、黃なチョークに、——モウ一ド九九ヲ、オカキ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ナサイ。――と書いて、窓によつて、遠く霧につゝまれてゐる南の山々を見てゐた。

お葉は、もう二週間も家へ歸らないから、今日こそ歸らうと思つて、前から美都子と約束をして置いた。しかし、昨夜のために、また、ひどく頭は痛いし、今の心持を、亂されるのも本意ないことであつた。それに道々話をしかけられるといふことを厭はしくなつたので、急に歸らないと云つた。美都子は、つまらなそうに、只「そう!」といつたきりで、かたづけをしてゐた。

「とにかく、私の宿迄一緒に歩きませう。」二人は、連れ立つて、出かけた。冷たい周園から逃れて、漸つとよかつた、といふ風に、お葉は吐息をした。

山はひどく荒れ出して、一體に、濁つた空になつた。處々にそゝけ立つたやうな、いやに蒼い空も見える。

「傘を持つて行く程のことはないでせうね。」

お葉は、諾いた。美都子は、默してゐるお葉の、機嫌をとるらしい調子にいつた。「こんな寒い日に、しかも一人でなどほんとにいやですけれど…………」と。

馬車が來たので二人は左右に別れた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「昨日は、何といふ悲しかつた日でせう。いらいらしてゐる心に、雨は降るし、批評會の時など、滅入つてしまひそうでしたよ。歸つて暗い部屋に据るとはらはらと泣けて困りましたわ。」

「ほんとにね。」

と低く答へながら、心を探られるやうな氣がして、いやだつた。

「山はひどい雪でせうね。」と當然のことを、重々しい口調で云つて、話を避けた。二人は、默つてしまつた。ものたりなさそうに、離れてゐた美都子も、町へ入ると、すれずれに、よりそつて來た。

「私ね、お葉さん。今日は、お歸りだと仰しやつたので道々御相談申したいと、思つてたことがあつたのですよ。……それを、がつかりして。…………………」

妙に、引きつける聲であつた。其時、お葉は、はじめて美都子を、いとしいひとゝ思つた。そして、こんなに他々しくして居るのに、それでも苦しさや、悲しさを分けてくれるのに、感謝したい程の、甘へ心が湧いて來た。

一緒に歸つて、話を聞いてやらうかと、不圖思つた位であつた。

「お家に、また何か問題が起つたのですか。」と聞かねばすまないやうに、お葉は、突

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然の聲を立てた。

「いゝえ。宅からではありませんけれど、…………だめですわ、一寸許りおやお話が出來ませんもの………………………………………………私がほんとに惡いのです。私が、强く、しつかりさへして居れば何んでもないことなのでせうけれど。」

美都子は、深い考へに落ちたらしい。

「あの先生はどうしたんだえ? あんなに下を見てゆくよ。」その子供の聲も、美都子の耳には入らなかつたらしい。

「一寸よつていらつしやい。まだ二時半ですもの。三時迄いゝでせう?」

おやもう此處迄來たのですか。といふ風をして、美都子は圓らな瞳を輝かせた。

「おそかないでせうか?」といひながら、もう、お藥の後へついて、下駄を脫いだ。

炬燵の火は、消えてゐた。手紙も、はがきもないので、お藥は力ぬけした眼付をして、炬燵板の上の日記を、所在なさそうに、開げたりした。

「かうして、さあお話となれば、御話の出來ない性分ですから。」つゝましく、兩手を袴の上に組んだ美都子は、よほどたつてから、かう口を開いた。

「あの事件(こと)はもういゝの?……松山さんとのこと。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「あ、……あれは、何んでもありませんの、只誤解されたといふに過ぎませんから。」
途切れそうになる話を、どうしてつながうかと云ふ風をして、お葉は云ふ。
「私には解りませんわ。此度の出來事が、……とにかく、しつかり考へるだけは、考へて下さいね。」
「…………………………潔とのことがあつたでせう。それからといふもの男と聞くと、云ふに云はれない憎惡を感じて居りました。だから此頃は、一寸も、男に付いてなど考へたことなどありませんの。……………………………それを此一週間といふもの、只其事きりに苦しめられてゐましたわ。………………………此前の日曜に逢つたひとなんですが。…………………今日だつて、そんなに歸りたくはありませんし、却つて、歸らない方がよいかとも思ひますの。だけど、あんな淋しい二階に、日曜を、考へごと許りしても居られませんし、宿のおばさんに、不思議がられるだけでも大變ですものね。…………………」
此頃美都子は、中學の國語の教師と話をしたといつた。其人との關係では、あるまいか。
――と何となくお葉は、そう思つた。
「其ひとは、よく知つてゐる方?」二人の瞳が、はたと合つた。

「いゝえ、此頃はじめてなの。土地のひとでもありません。…………。」

「だけど、――美都さんのことを、理解もし、同情もしてゐなさるんですか。」

「…………さあ、それがね、どうですか、實は、心配してゐます。…………がみんな私が惡いのですよ。そんな心にさせたといふのも、私からだと思ふと、ほんとにすまなくてね、何もかも、私一人きり惡者（わるもの）として考へればよいですけれど…………。」

投げやりに云ふ美都子の睫毛が、ぬれて來たらしい。

「そんなことは何方がよい、わるいと定められませんよ。よるとなく、さわるとなく、いつかそうした運命に、引かれて行くのですものね。…………とにかく先方が眞面目だつたらば美都さんだつてそれに酬いるだけの態度に出なくてはね………潔さんのやうな、氣まぐれをされては困るぢやありませんか。」障子に、バサリと、落葉がなつた。

「…………、明日は、逢ふ約束がしてありますけど、逢はない方がよいでせうか。」美都子は、術なさそうに、ふりかゝる後れ毛を、かき上げた。

「そうね。まだどれほどのお二人か、よく解らないですよ。…………とにかく美都さんの決心さへ出來て居ればよいでせう。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「逢へば危險らしいの、都合が惡くて、逢はれないつて、はがきを書かうかしらん、…………………でも、…………」頭を傾けながら、「道々考へることにしますよ。そして今夜中と、………。」

其時、お葉は、さあつと木枯の音を、腦に聞く思ひがした。

「それがいゝでせう。お宅では知つてらつしやるの？」

「いゝえ、知つてるものは、私とお葉さんきりなんですわ。…………………だけど解らないなあ、……………どうなさいます？　お葉さんが私の立場にいらしつたとすると。………」訴へるやうな眼付をして。

「矢張、自分に聞くより仕方がないでせうね。それはよろこんで、他人の意見も伺ひます。しかし要するにそれは、參考ですわ。女の一生は、そう樂々出なをせるものぢやありませんもの。………………そして明瞭な態度をとる。――從ふなり、斷はるなり、とにかく、それが自分に對しても、先方に對しても、一番の親切なのでせうね。」

「………………」

「一目逢つただけでも、ファウストのやうな戀もあるのですもの。………まあ、とにかくよく〳〵考へて下さいね。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「…………わかりましたわ、お葉さんありがたう。だめね、私委しいことが云はれなくなつて、…………月曜の朝は、早々およりします、…………もう三時打つたのね、…………では。」

慌てたひとになつて、美都子は、立ち上つた。お葉は、有朋堂の振替があつたので、一緒に外へ出た。今にも降りそうに、空は前より一層低く曇つてゐる。

「美都さんも苦しみに行く。戀つて、只泣いて苦しんで、寂しい想ひをする外に、何が殘らう。」

苦しい社會の中に、戀しつゝけた頭を、思ひ深い眼をして考へながら、お葉は今、炬燵の火を起す用意をした。

と、思ひ付いて、寺田に久しく借りてゐた『白樺』を返さねばと、梯子を下りかけた。其時中の手紙に氣付いた。

また人いとはしい心になつたので、上げないで置かうと自分に宛てられた封書でもあるかのやうに、なつかしく封を切つた。こんなことが書いてある。

到頭三週間經ちました。隨分の日頃ではありませんか。妙に妙に頭の亂れてゐる夜で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

したので、あんな失禮な、はがきを書きました。でも出した夜からそれでも訪ねて下さりさうなものと、お待ち申して居りましたよ。幾夜も幾夜も、けれど二人は矢張二人なのでした。

かすかながらも、心の中に眼を落付けて、歩みつゞけられるやうになりました。寂しさにも、只泣かずに對はれます。

文展の繪葉書でも見にいらつしやいませんか。

それでも、御旅行のおついでに、東京迄いらしつたのでせうか。　御旅行は如何でした。

靜に、靜に物の聲を聞きたい。幽かに落ちる木の葉の音にも何物かを語つてくれる。

自已の内心にもよくよく耳をすませたい。

信じ得られるものを持つ人きりが、此世での幸福者である。

獄中記を讀み終へて、熟々、心の眼を以て知らなければ——と思つた。何と云つても、

私達はこれからである。深い悲しみと、強い苦しみと、それに敗けてはいけない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とにかく、私の上に、幸福な日が來たらしいのですから、一緒によろこんで下さい。

明日は家へ歸ります。多分月曜の朝でなければ、來られないと思ひます。其晩はきつと、御出かけ下さい。御馳走をしますよ。久しぶりで泌みぐヽした話をしませう。

十一月二十日夜　　　　お　葉

寺田は、かうした手紙を、大變よろこんだ。

「お葉さんのお手紙きりが慰めです。」

と云はれるのに甘へて、感想を書いては、同じ町の二人ながら、封じては切手を貼つた。それが夫との間に、心持のわるい通信の往復する頃、ある夜訪ねて來た寺田に、何となし氣まづい感情を起して、男を大變呪はしいものに思つた。寺田が歸ると直ぐ、「此心落付く迄は、おつきあひ申すまじく候」とはがきを書いた。それきり一寸も書かなくなつたし、毎日のやうに、訪ねて來た寺田も、ふつつり來ないやうになつた。或る時、『白樺』を使ひに持たせて

先夜は失禮しました。御氣に障つたことを申上げたのでしたらば、どうぞ許して下さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い。」

と書いたのを一緒に持たせてよこした。

けれど、お葉は、返事を書かなかつた。

それが二十日の夜、夫からうれしい手紙を受取つてうれしさに滿ちたお葉は、一息にあれだけの寺田への手紙を書いたのである。

僕は、お前に對して感謝したい。

おまへを思ふと云ふだけでも、僕には、意義のある生活だ。

その樣な言葉の滿ち滿ちてゐる手紙であつた。お葉は寺田に書いた外に、思ひ出しても見なかつたやうな、學校時代の友達の二三にさへ、はがきを書いた位であつた。

『白樺』を返しに行つてくれた宿の子供は、何の返事も持つて來てはくれなかつた。一言も云つてやらないのだものそれが當然だ、と思ひながら輕い淋しさを、打ち消すことは出來なかつた。

どうして此社會には、こんなに、冷たい人ばかり多いのだらう。私の戀する頃は、殆ど、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人間らしい顏と、心とを向けてくれたことはなかつた。一體、固陋な社會のことだから、道德的に、より保守的に、常識的にと、流れてはゆく。しかし、ほんの些細の世評にも怖れて、人生の一大事の戀愛などは、全く、罪惡視してゐる。思想上の高潮などは、思つても下さらない。碁を打つて居らうが、世間話をして居らうが、お酒を飮んで居らうが、とにかく日暮れ迄、否夜迄も、校舍の內に居る人が、あれ等のひとには、最熱心な、眞摯な敎師として、見えるのだ。何といふことだらう。あゝ、そうだ、私が校長に呼ばれて注意されたとき、「人の模範たらなければならぬ、敎育者ではありませんか。社會を考へて下さい。」――それが戀に對する唯一の同情であつた。私はよく默つて聞いてゐた。けれど、其夜思ひ定めた辭職を、何故、斷然やり遂げなかつたらう。………お葉は身慄ひをした。………私には、生活がある。

お葉は、思ひ定めたことも、生活といふもののために、がらりと壞れて行くのを、幾度悲しい想ひに、泣きつゝけたかしれない。お葉の結婚について、あまり氣のすゝまない親を、承知させるために、親子の間に、條件さへ、立てなければならなかつた。そのために、自分の生活は、勿論自分でせねばならなかつたし、其上、夫の家の幾分の力ともならなければならなかつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

無に行くか、――活きるためには、他の職業に行かぬ間は、今の職業の中に、埋まつて居らなければならなかつた。親によりすがらうか。――今の不滿を訴へて、……………其時になれば、親だつて、まさか外見はすまいと思ふもの丶、何といつても打ち破れない冷たい膜が、それ以來、親子を、遠く隔てたやうな氣がする。とにかく、あきらめては、自ら慰めて、來たもの丶、同情のない周圍といふことが、先入主となつてゐるお葉は、決して、自分から、打ち解けやうとはしなかつた。たとへ、藝術的の暖い氣分につ丶まれたくて、話題などを考へて行つても、職員室へ入ると、急に押へつけられるやうな心苦しさを感じて、默つてしまつた。夏の頃であつたがお葉の級の生徒を、他の級の先生が、俗謠を唄つたといつてひどく叱つたことがあつた。あんな無邪氣な子供をさ、お葉は其仕打が憎しかつた。然し、矢張いつものやうに默つて見てゐた。運動會の時だつたそうである。お葉の級は、ひとりぼつちになつて除けものにされた。相談しやうともせずに、運動を考へたりした。無關心に――とそれがせめてもの慰めではあつたもの丶、後で「尋二のは、何とか工夫がありそうなものだつたね。」と云はれたときは、耐へきれなくて、冷たい唱歌室にかくれて、悲しさに、わな／＼震えてゐた。

それでも、思ひ返したり、子供に慰められたりして、通勤してゐたのに、昨日の批評會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のため、もう耐へられなくなつた。

第三者が聞いたなら何んでもない言葉だつたかしらん――いや〳〵、それはたとへ世間並みの、普通の言葉にせよ、其影のシーンに、幾分の同情を見出し得たらうか。――同情の有無などゝ云ふ境は越して敵意さへ持つてゐたらしかつたではないか。批評と云へば、從來の教授法の術語を、もつたい振つて使ふに過ぎない。そんな事に、安んじてゐると思へば、哀れにもなる。そうも、思ひながら、あまりに隔離した思想と、其思想に伴ふとしては、未だ充實した自己の成立して居らない、内心の聲を、聞かないでは、居られなかつた。

お藥が、人を淺間しいものに觀る時は、必つと、自己の貧弱さ、空虛に、自らを呪ひ、卑下して居る時であつた。

自己解剖の癖は、一切の虛無破壞をさへ希つた。けれど自我の強いお藥は、その解りすぎるほどわかつてゐる自己を蔽つて、其不滿を、周圍の不滿に歸そうとした。

けれど、不安は矢張不安たるを脫れぬ。私には、此職業が不適當なのかもしれない、と果ては、心細い心細い心に落ちていつた。「でも、あの一時間は、永久の月日の上に立つての一時間ですもの、區々たる必要もない智識の記憶より、初等敎育では、もつと大事なことがあると思ひますが。」と最後にそれだけ云はうと思ひながら、それも内氣の心弱さに、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

云ひ得なかつた。時は、心淋しい黄昏がせまつて、細々と雨も降つてゐた。冷たい雨にぬれて歸る時から、辭職、家出、——つゞいて夫との別れも考へねばならなかつた。何が信じられなくてもこれだけはと信じてゐた戀の力も、今は只、心靈の上に活かすより道がない、——そして尼僧のやうな生活を辿るのだと悲しい心に決心して、最後のおもひに、はふり落ちる涙を押へ押へして夫への手紙を書いた。赤い切手を貼つて愼しみ深く書かれた封書は、今頃は、汽車中に、幾つものトンネルを越してゐることだらう。辭表は、旅に立つてから送らうか。荷も大方はかたづけねばなるまい。…………あゝそうして何處に行くのだらう。…………………

「先生、お茶がはいりましたよ。」

と宿のおばさんに呼ばれた時、お葉は甦つたやうな想ひがして、涙を拭いた。しひて聲を活々させて「ありがたう。」と云ひながら、身繕ひをした。

暖い炬燵に、ふ家族らしい快よさを感じた。あれほどに悲哀に滿ちてゐた心も和んで、母にあまへる娘らしいやさしい氣分になつたのに、氣付いた。まがるやうな眼をしてお葉は、

「おばさんね、昨夜はほんとに泣けて困りました。今夜だつて、まだそのおつゞきが殘

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つてますの。昨夜こそね、あんなに雨に濡れては居る、暗い、冷たい、ぢつと泣いてましたわ。寢てもなを………」

「まあ、さうでしたか。そんな時はほんとに下りていらつしやりましよ。昨夜はね、私は眠くて、良人(やど)も仕事を休んでお炬燵に居たのですのに、居睡り許りしてるのですよ。脊を縫ふのに一晩中かゝりました。」

と快よく笑ひながらお茶をついだ。

「これからは、氣持のわるい時は下りていらつしやい。一人許りだと、餘分にいろいろ考へますから。」

母親らしい心を見せるのであつた。

お葉は、もう此宿に、一年半にもなるのに、こんなに親しく話のはづんだのは、はじめてゝあつた。半時前の心持とは全く別になつた。

和らかな心持につゝまれて、一人の部屋に歸つたお葉は、これ程、他人に親しみを見出されたのを、不思議に思つた。

あまりに、自分の心を固く閉し過ぎたのかしらん。そして全てを無情く見たのだらうか。學校に對しても。寺田を思ひ、美都子を思ひ、今のまとゐを思ふと、お葉にはあれほど考

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

へ定めた孤獨といふことがもう淋しくて淋しくてたまらなくなつた。すると、一時の感情で書いた夫への手紙が氣になつてたまらない。あの時は夢中で、

私は、あなたを去らねばなりません。妻としても何も出來ない私でした。勿論敎師としては不適當なのですから敎職も退きます。

私には、とても敎育するなど丶云ふ力はなかつたのです。蔽はうとしても腑甲斐ない自己の姿がまざ／＼見えて、苦しいのです。敎師として、どれ程つくした日頃でせう。——と思ふだけでも苦しくてたまりませんのに、同情も理解もない中に、どうして居られませう。

私は、私の唯一の職業からも離れて、苦しみの世界へ旅立ちます。嘲笑の社會へ放たれます。これも、自己のためと致し方ありません。これだけ申せば、あなたを去る理由もお解りなさるでせう。何の天分も持たないものほど果敢ないものがありませうか。しかし、私は、決して狂ひはしますまい。だつて、あなたを戀しいといふこと丶、あなたが愛してゐて下さるといふことだけは、知つて居りますから。

心のかぎりに、悲しく活きるために、……では…………と云ふ意味を、半紙に七枚も細々と書いたが…………まさか…………と思ふけれど、「お前にそう云ふ決心があるなら、

それも自由意志のすることなら別れもしやう。」

あのやうに一圖な夫だから、そんなことを仰しやらないとも限らない。

お葉は、居たゝまらないやうになつて、詫びの手紙を直ぐ書かうとした。けれど、思想許りが先走りして、幾枚も二三字で反古にしてしまつた。

「明日は、日曜だから、落付いて書かう。あゝ、矢張私は私の境遇をどうすることも出來ない。悲しい囚人なのだ――。」

と獨語しながら、灯を細めたランプを、二度も三度も息をふきかけて、漸く消した。

（一九一三、一二、四）

父

荒木郁

雨が降る。淋しい哀れな秋雨が果しない空から彼女の肺腑へぢみり〳〵と。

灰色に汚れた無地の番傘の下に、ちゝまつて晩秋の畑を熟視てゐる眼は、彼女を掩ふてゐる傘のやうに暗く濡れてゐた。刈られた後の畑は物乞ひの頭髪のやうにまだらに無名草が生えてゐる。

『お父様、何故死んでは下さらぬ。何故死んでは下さらぬ。もうどうせ長くはないお命、殊に御病氣が御病氣、快癒らぬものなら一層…………恁うして日一日と貧しくなつてゆく、貴方さえゐなさらねば、貴方さへゐなさらねば。貴方の昔氣質なお心のためにこの秀は多くの幸福、妹の幸福までも逃します。』

秀子は怖ろしくも父の死を願つた。が又、それはよくない事だ、考へるのさへ現世に生きてゐる中は一番の罪惡だと氣付く、氣付くがまた、父の死を願ふ。父の死を願ふ、もう死ぬと定つた病氣、癒さす藥代はない。其日の糧にさへ困難な彼女の一家、健全な行先の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

長い姉妹たつた二人さへともすると三度の御飯も充分ではない。それでも殺人は罪惡なのであらう。死は惡いのであらう。死は悲しい哀れなものであらう。彼女はまだ若い、どうして娘らしい慾望が起らずにゐやう。その整つた顔に美しく化粧もしたからう。肉付のよい柔らかな手を黄金の光で飾らしてもみたからう。隣家に住む桂庵の婆さんの話は割合に世間見ずの彼女から四六時中放れなかつた。何を好んで袋張りや狀袋張り寫字の内職をしたからう。世間にはもつと氣樂で、お金の取れる仕事が多いとか。然し是等の總ては父といふ戸に隱されて手に取ることは出來なかつた。寫字のかたわら病父は我が愛しい娘に説き聞せた。――娘よ、どんな生活をしやうとも心さへ淸ければ眞に人間と生れた甲斐のあるものだ、浮薄なことはして吳れるなよ――年若い彼女の耳には父の言葉が餘りに頑固であつた。世間知らずの彼女は父を冷笑することもあつた。靈肉ともに疲れ切つた父は世間の眼眩るしい働振りを知らないのだ、哀れな見苦しい敗殘者！　と思つてゐた。

『お父樣、貴方の言葉を守つてそれが何になりませう。それが明朝の糧にはなりますまい。聖人の敎も、世の醫者の叫びも今日の私達一家には何の役にもたちません。それは家がとも角相當であつた頃に敎へられた言葉、又其時迄必要な言葉です。私が女學校の四年級の時、お父樣が他人の借金連帶をして執達吏に遇つた年、その時限り私の身體、私の心には

その言葉は不必要になりました。袋張りや寫字位では私達は足を伸して寢ることも出來ません。充分といふ程食事を取つたことはありません。それは私獨りではない。父子三人が氣兼しながら、お櫃の底を覗いて箸を置くのぢやありませんか。着物、髮飾は一日增しに減つてゆきます。多くの思ひ出でのある裝身具は、見も知らぬ他人の手に渡つてゆきます。而して、若い誇りもそれらの飾り道具のやうに日々の苦勞に堪えかねてか、私の身から、サヨナラをしてゆきます。これを奈何して悲しまずにゐられませう。無心な妹の袴は色あせてゐます。あの幼い光ちやんの髮にはリボンがありません。淸貧とは誰が云つた言葉でせう。貧しければ心迄汚くなります。私が貴方を捨るより、もつと大きな惡いことが世間に起つて來るかも知れません。二度とない若さを傷け、無心な子共にはひがみを敎へます。貴方はお年を召して被在るから、この見苦さをお氣付きになりますまい。私はもう全くこのやうに暮してゐるのが厭になりました。六疊一間の狹苦しい家に父子三人先の望もなく命を縮めてゆくのが厭になりました。……………あゝ私はどうしたら好いのでせう私は奈何かしなけりや生きて行かれない。……………お父樣貴方さへも少し碎けて隣のお婆さんの云ふ事に耳を傾けて下さるなら私も光ちやんも、又貴方も幸福ですのに………でなければ若い姉妹の幸福のために。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まさか。まさか。

花散りうせては薪に賣られ、
家貧しければ人に拾らる。
誰をかたのみで何にかよらむ、
雨を透して可愛い聲が聞える。秀子は日曜學校に通つてゐた頃のことを思ひだした。妹には日曜學校にやる暇がない。

唯神の結ぶ愛の友あり。
命は、はずえの露にも似たり、
と切れては歌が聞える。妹はあの讃美歌を知らない。妹は袋張り狀袋張り、仕事がはかどらなくつてお金がない時には二日でも三日でもお米を口にしない、それから質屋の使。たつた一人の妹は、十二歲の光ちやんは裏長屋……貧民窟の世話女房のするやうなことより知らない。無邪氣なあの子はそれが世間並のことだと思つてゐるのか。瘦せた骨々したあの小さい子は湯錢の儉約から四斗樽に湯を沸して入れても平氣で嬉しさうに笑つてゐる。あの子は何時も惡怯ない。愚痴を零さない。あゝそれが眞個に無邪氣なのか、眞個に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

無邪氣なのか。あの子は何時か私に云つた。

『姉さん私夕刊賣りしたいから少し、もとでを溜めやうか。』

無邪氣か。萬事を知つてか。

あたふたと駈け寄つた妹の眼は怖れと驚きとに充ちて尖く光つてゐた。

『姉さん。お父樣惡いの、私お醫者樣の所まで行つて來るわ。』これだけ云つて、あとは泪で消して了つた。何が悲しいのか、何が泣けるのか、おそらく彼女自身にも分らないのであらう。光子は姉の返事も聞かずに、温味の殘つてゐる大きな下駄を怪しげな恰好して、引摺りながら、傘は持たずに頭に袂をのせて出て行つた。殘された秀子は玄關とも庭口とも臺所口ともつかぬ板敷にたつてゐた。障子一重奥には父が苦んでゐる。今死を願つた許りの父が。……………恐ろしい黑い雲が秀子の周圍を押寄せて來るやうな氣がする。その黑い綿のやうな雲がえたいの知れない聲で不孝者！ 不孝者！ と叫でゐる。身の置所がない。怖ろしいことを考へた自分は父の病室に這入ることは許されないやうな氣がする。若い妹は、姉が勝手なことを考へてゐた間、父の側で父よりもつと大きな苦しみをしてゐ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たのに違ひない。不孝者の姉が歸宅をどんなに待つたらう。而してあのいたいたしい手で似たりよつたりの細い父の胸を撫でゝゐたらう。姉の顏を見るより直ぐに醫者に飛んでゐつた妹は他人の足音にも幾度か立上つたに違ひない。それは板敷にまだらな雨が降り込んでゐるのでよく分る。

『お父樣。只今戻りました。』思切つて秀子は恁う云つて障子を開けた。深い穴藏のやうな六疊に破れ道具や、內職の預り品などがごちやごちやと隅の方に寄つてゐた。薄い二布半の布團の上に橫つた父の顏は反つて平常よりはふつくらと優しく見えた。丁度臘細工の老人が寢てゐるやうに身動きも、呼吸さへもないかのやうであつた。妹の一枚よりもない晴着が足元の方にだけ掛けてあつたのが彼女の眼についた時、何かしら悲しい暗示を與えられたやうに、咽喉をしめつけられるやうな氣がすると泪が冷めたく彼女の頰に傳つた。

『お寒かありませんか。』漸くこれだけの聲がしめつけられた咽喉をぐいと滑ると同時に側に除けられた布團が紙々した父の上に落ちた。父親は機械のやうに手を上げた。

『……おもい。』

夢幻で物を除けるやうな父の手附が氣味の惡いやうにまで見えた。豆ランプに石油が切れて來たのがジージーと靜かに奧深い音をたてだした。二三時間前彼女が父を僅なことを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

云ひあつて、使に行くと殘したまゝ、ぶいと家を出る時までは斯んなに雨は降つてはゐなかつた。そして斯んなに父が惡くならうとは思へなかつた。父は全で別人のやうに、總ての家道具、燈火までがしめり氣のある新らしいもののやうに見える。

父は、しやくりを始めた。如何にも苦しさうに。然し直しやうは無かつた。秀子の勸めたお湯も水も無駄に苦しさを增すのみ。彼女は何分か前に雨の中に突立つて考へてゐたことが恐ろしくなつて來た。萬一も父がこのまゝ呼吸が絶えるやうなことがあればそれは自分が殺したと同じだと秀子は考へた。

父は眼を靜に展けた。而してぢつと屋根を透して空の高い奥までも見やうとするかのやうに美くしいしかし鋭い眼を薄暗いすゝけた天井に向けた。

『お父樣。何か召し食つて御覧になりませんか。』答はなかつたけれど秀子は立上つて臺所から玉子を二ツ持つて來て黃味だけを取つて父の枕邊に置いた。

餘程暫らく經つてから父は玉子を取りあげて天井に向けてゐたやうな鋭い眼で小皿を見てゐたが、二つの黃味を啜つて『あゝ甘かつた。』

『甘しムいましたか。ぢやも少したつたら、スープでも慥へて上げませうね。何か滋養になるやうなもの上りや直きに元氣付きますよ。光ちやんが歸つたら買ひにやりませうね。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『あゝ、それから梨の甘いのを二つ許り取つて貰はうか。』何時になく父は食物の催促をした。歸宅してから父が一言も話さなかつたのに今の父の言葉が秀子にとつては大變に嬉しかつた。――お前の考は間違つて居たぞ、けれど父は許すぞ――と云はれたやうな氣がした。と、何かなしに泪が出る。

『お父様。』夢中に父の手を取ると、

脈がもう無かつた。

父の手脈はもう此時に無かつたのである。

けれど、しやくりは止まらない。眼は矢張り天の上を見詰てゐた。

土燒の火鉢のまわりが冷めたくなつて白い灰の下から螢のやうな小さい光がどんよりと覗いてゐる。秀子は父の手を持つたまゝその小さな火から眼を離さなかつた。このまゝこの火が消えないで…………せめて醫者の來るまでゝも…………何か運命でも占ふやうに眞情から祈つた。が火は刻々と灰に掩はれてゆく。小豆のやうな火の命は細かく刻むセコンドの音と共に一足づゝ經つてゆく。妹が歸つた。光ちやんは靜に障子を開けて姉の側に座つた。部屋が急に冷めたくなつて外氣の水々しい香が重苦しい部屋に漂つた。

『お父さん、光ちやんよ。』妹は自分の名をかう云つて父の顔を覗いた。父の答はなく唯

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

々僅かに口のまわりがピツ〳〵と動いた。暫らくしてから古井戸の底からうめくやうに、

『光！　秀、お前達二人切りになつたら奈何する。』

二人の筋肉は石のやうに固く、血は鐵と化したかのやうに引締つた。泣く涙も出ない、それは悲しいのか、嬉しいのか彼女等自身にも分らない。何といふ返事をすれば父が満足するかと考へるのみであつた。

『生あるもの死す。お父様が萬一のことがあつた時には、お前達を叱るものがゐなくなつたといふことを悲まねばならない、煽(おだて)る人、利用しやうとする人、悪いことを教へる人が多い…………氣を付けなさい。秀！　文庫にお父様の文庫にあるものはお前…………』

父の聲はこれ以上は聞きとれなかつた、後はぽーつとして唯唇が動く許り。

秀子の眞情からの願も天の父は聞入れ給はなかつた。彼女の悔悟は役にたゝなかつた。醫者の來る五七分前、二人のたつた一人の父は冷めたい一つの靜物に歸つた。秀子が氣にしてゐた土燒火鉢には、線香がたゆらぐのであつた。（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

風吹く日

——加藤綠——

朝から市の中が騷がしい風にかき亂されて居る。春夫は早くから床を離れて今朝九時頃に妻が歸ると云ふので、それまでに校正を濟ましてしまおふと忙しさうに赤インキのペンを摑つて居た。がバラバラと砂が硝子窓に吹きつけた音に不圖顏を擧げた、すると今迄思つて居た事が忽ち消えて、一二時間の後には見るべき妻と子供の事が目に浮んだ。待たれるやうな、待たれぬやうな心がこんからかつて何となく悚々しい心持になつて來た。妻と別れて殆ど半年、其の間の自由な奔放な自分の生活を思ふと、妻子の爲めに妨げらるべき自由と、時間を考へると何故呼び寄せたかと後悔もされて來る、雜誌の〆切間近に何故歸つて來るのだと妻の見えない影に奴鳴つても見度くなつた。

小母さんの運んで來た飯を嚙むで飮み下すやうにして何となく茫やりした心持ちで家を出た。がともすると向つて吹きつける風が足の歩みを遮げる。冷い風が股の間から這入つて身體迄をも凍えさせる。電車通りの柳の枝に枯葉が淋し相に止つて居る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二十分ばかりで新橋に行き着いた。時計を見ると未だ十五分ばかりある、其の間春夫は朝の市の中を凝乎と見て居た。が其の時の春夫の腦裡には何か知らん非常に復雜な思ひが亂れあつて見る物、聽くものに對する意識がすつかり痲痺してしまつて居た。

五分十分、時は急いで一二等の急行列車が長い蜿蜒を持つてプラットホームに這入つて來た。春夫は入場劵を握つて溢れ出る多くの人の中から妻と子供の姿を求めた。妻の美佐子は思つたより活々とした美しい顏をして一人を抱き、一人を連れて赤帽を先に立てゝ來るのであつた。

『あらお父さんが……』と美佐子が大きい子供に指さして敎へる間もなく春夫は近づいた。が唯本能的に無言の儘大きい子供の方を抱き擧げた。而して妻の顏に微笑を送つて抱いて居る小さい子供の方を覗いた。

『これ、大きくなつたでせう。』

『おお、大きくなつねえ。』と云つた切りで親子は開札口を出た。

美佐子は永い間別れて居た良人に斯うして會つても別に心の中に何の新らしい感じも起きなかつた。冷い氷で詰めたやうな腦に一種の恐怖――人生の戰ひと云ふやうな――左樣した切實な感が停車場の目まぐるしい光景を見ておつかぶせるやうに迫つて來るのを感じ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。寒い風は吹き荒んで俥待つ間美佐子は震へて居た。抱いた子供は折々風に呼吸を奪はれて苦し相に喘ぐのを固く抱いて小さい其の頰へ自分の頰をおしつけたりして居た。

信玄袋や破れた大きい行李を乘せた人車を先にして美佐子が小さい子供を抱いて去つた後に、春夫は辰夫と云ふ四歲になる子供を抱いて電車に乘つた。而してつく〴〵と久しぶりで會つた我子の顏を見つめて居た。が其の田舍じみた日に燒けた顏に口のはたにさへ腫物の出來たのが何となく心の滿足を傷けてしまつた。

美佐子は先に歸つたが一軒の家を借りて居ると思ひのほか狹い狹い人の二階に住むで居るので、空想して來た半ばをむざ〳〵と破られてしまつて何となく失望の悲しさを味はふのであつたが、良人が辰夫を抱いて上つて來ると永い旅の疲れが急に出て旣う身體を投げ出してしまい度いやうな氣になつて良人が出して敷いて吳れた蒲團の上に小さい子を抱いて仆れるやうに橫になつた。何といふ淋しさと悲しさが襲つて來て止めやう止めやうとしても淚が頰を傳つて來る。それが何の爲めか少しも判らない。永い間舊い習慣の中に浸つて自分と云ふものを押へ押へて來た苦しみと、他人の中で孤獨な寂しい生活をして來た根みとが良人に依つて忽ちに愉やされるだらうと思つたのが斯うして會つて見ると矢張今迄の人知れぬ苦勞、煩悶が少しも慰められぬ。美佐子はそれとは判然意識しない迄も斯うし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た失望の悲しみに襲はれて日のさゝぬ小暗い四疊半の中に目を閉ざしてしまつた。

『明日は雜誌の締切なので忙しくつて。既う少し早く來てくれるか、それともおそくに歸つて來てくれるとよかつた。迎へに行く時間さへ惜しいんだよ、疲れが休まつたら悌さんの方へ行つて呉れないか。』

春夫は辰夫が本や原稿の散らばつて居る机のまわりで騷ぐので、神經的に眉をよせて斯う云つた。美佐子は此の言葉を聽いて今迄耐え耐えた悲しみを聲を出して泣き度い程に胸が迫つて來た。が暫くして良人に外向けて居た顏を明い方に向けて、

『エヽ、お邪魔なら行くわ。』と口惜し相に云つた。美佐子の心には行けば今夜は歸るまいと意地張つた思ひが浮むだ。

春夫は子供や妻の事にかまつて居られぬほど心が忙しさに追はれて居た。あゝ妻一人で歸つて來て呉れたら……あゝ子供がなかつたら自分は丁度別れて居た戀人を迎へるやうに此の兩手を擴げて抱擁してやるのに、あゝ子供は戀に對する破壞者だ。自分一人に對しては子供はよい玩具ではあるが、夫婦――妻を視る目に子供が映つた時妻に對する戀の情熱はかき消されて了ふ。妻の心が自分を放れて子供に向つて行くのを見る時二人の愛情の儚なさを感ずる。あゝ何故來つた妻の手を取つて机の前に座らせ直ぐ我々の貴い藝術の道

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に共に進む事が出來ないのであらう。と春夫は美佐子が幼子に添乳して居る後姿を見てつくぐくと感じた。

『それにしても困つてしまうわ。』

『何が困る?』

『襁褓が澤山汚れて居るんですもの。』

『何だ襁褓か? そんなものどつちでもいいから早く行つて呉れ。』と春夫は既う懐々して其のくせ仕事が手につかぬ。明日からの自分等の生活が直ぐ案じられる。

『行きますよ。』と美佐子は咽ぶやうな聲を出して起き上つた。

『全く忙しいんだ。狹いところで是れでは困る。何とかせんでは。』

『ほんとだわ。私だつて二階住居していらつしやらうとは思はなかつたんですもの。這麼事なら歸るんじやなかつたわ。』と涙ぐみながら仕度をした。

辰夫は窓につかまつて馬車や自働車の通る度に飛び上つて喜こんで居た。美佐子が立ち上ると幼兒は乳を奪はれて泣き出した。

『辰夫。さあお母さんと兄さんのところへ行くんだよ。』

兄さんとは辰夫には叔父にあたるのであるが兄さんと云ひ習はしてあるので、辰夫は嬉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

し相に母の袂にすがつて、

『行きませう。行きませう。』と急ぎ立てた。

『電車に乘つて行くんだよ。辰夫。』と春夫は子供の心をそゝるやうに云ふ。

幼兒はヒーヒー泣き續けて居る。

『早く、早く行きませう。母ちやん。』と急し相に騷ぎ立てる。

美佐子は今夜歸らぬつもりで子供の着替へや襁褓を風呂敷に包むで居たが、幼兒の泣くのを良人が顧みようとせぬのが腹立たしく、辰夫が袖を引つ張る手を癇癪まぎれに振り放した。

『今行くから靜かにしていらつしやい。』

母の六づかしい顏を見て辰夫は泣き出した。二人の幼兒の泣き聲を聽くと今迄靜かに馴らされて居た春夫は一層悚々して來た。今自分の計畫して居る事業を破壞する者は此の子供であると思ふと、如何にかして二人の子供を放し度いと思ふ。

『早く行けばいゝじやあないか。何をして居るんだ。』

『だつて土產物も持つて行かねばならないんですもの。』と美佐子の心は恨めしさに震へて居る。二人の子供を一人して連れて一晝夜あまりを汽車に搖られて來た身体の疲勞と氣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の緩みとで足も口も利けないほどに感じて來たが、仕方なく二階を下りて行つた。それでも其の時は既う晝近くで風も少し靜かになつて外は日の光で暖さうに見えた。

美佐子が左の手に幼兒を抱き右の手に包みを持つて辰夫の手を折々牽いてやり乍ら弟の家に行きついたは既う午過ぎて居た。

美佐子は久しぶりで肉身の弟や妹にあつて何となく身体に血の暖みを感じて來た。お互に遠慮のないつけつけした言葉も今迄他人の中に居て僞りの言葉に馴らされて居た身には何とも云へぬ安らかさがあつて胸の塊りをホット呼吸する度に吐き出して行くやうな氣がされていつもいつも斯うして居度いやうに思はれたが、然し其の心の奥には絶えず泣きたいやうな涙が湛へられて居た。

活動しなければならぬ。自己を發展させねばならぬ。『義理』とか云ふ物の中に居て二人の子供の爲め、まだ舊い道德の爲め犧牲となつて凝乎と此のはやる心を押し鎭めて居た心は丁度彈力のある物のやうに今やはじき出やうとして居る。此の自然の力は誰とても壓する事は出來まい。と美佐子は上京の前田舍で固く決心した事を新らしく思ひ浮べて『どうにかせねばならぬ』と自分の心を勵して見た。然し美佐子は二人の子供を見ると、それか

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ら全く放れねばならぬ苦しみを感ずる。其の方法を案じて見る。幼い子供だけは既でにやるべき里が定つて居るが、辰夫の方は中々母親の手を放れようもない。

辰夫は若い姉さんや兄さん(叔父、叔母)と嬉し相に騒いで居る。幼兒は母の顔を覺へて來て他人の手に抱かれやうともせぬ。美佐子はお襁褓を代へたり、乳をやつたりして居たが、其の度毎に此の煩はしい子供を一日も早く人に渡して了ひ度いやうな氣がして、其の無心な眸を見ても憐れみの心が起らないほどに自我の念が強くなつた。此の手、此の心の働けられるだけ働かして見度い。遮ぐものがあれば何物でも打ち貫いて、此の「自分」と云ふものを心ゆくばかり表現して見たい。力！　其の力を充分示して見度い！　と云ふやうな活々した充實した感が浮ぶと其の目には全く子供に對する愛情の執着などは消えて自分一人の存在のみが目に浮ぶ。

幼兒は泣いても母が顧ないのでか弱相な聲で泣き續ける。生れるより病氣がちの子供のいたいたしい有様を見て美佐子の弟妹は姉に乳をやれと強いても美佐子は五月蠅相にして捨てがちにして置いた。

其の日も暮れて夕日が武藏野の一角に秋の暗い色を殘して沈むと市の中は軟いどよみが流れて夜の光に吸ひ込まれて行く。美佐子は久しぶりで黄昏の光を仰いだ。寂しさがひし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひしと廻ると共に昔の懐しい思ひ出が新たに甦つて來る。情熱に焔えて數年前、見る物聴く物、皆若い優しい心で美しいものに觀えた。生れた時其のまゝな純（ピユーア）な物に見えた森羅萬象は美しい詩（ポエム）であつた。今は美しき物も優しき物も皆浮世の罪に汚れた醜いものになつた。美佐子は左樣感ずると何たか既う深い谷底に投げ入れられた者のやうに暗い失望と悲歎に沈むのであつた。

　歸るまいと思つて居た心に不圖良人の面影が浮ぶと斯うして居うるべき身でないやうな女の習慣性が起きて來て歸る氣になつた。

　夕飯を濟まして皆が送つて呉れると云ふのでそれを待つて居た。丁度七日頃の月が中天に懸つて風も全く絕えた樣子、子供の手廻りのものを風呂敷包みに入れて居ると其處へ重い下駄の音をさせて春夫が這入つて來た。

『あら貴郞？　今皆が送つて呉れると云つたから待つて居たのよ。』と美佐子には良人が迎へに來て呉れたので何となく濟まぬやうな氣がした斯う辨解らしく云つた。

　春夫は矢張妻や子供を見るのが嬉しかつた。辰夫は久しい間父親に放れて居たので氣兼ねをして近よりもせず母親の傍に座つて居た。

『辰夫。お出で。』と春夫は手を出したが來さうもないので默つて了つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『穢い顔になつて……』と凝平と我子の顔を見て居た春夫は一人呟くやうに斯う云つて微かな溜息をした。

軈て春夫は辰夫を抱き、美佐子は寒からうと幼兒を毛布で包むで抱いた。外へ出ると月の蒼い光が冷たく顔に泌み入るやうに感じた。

二人は電車に乘らず樹蔭の多い靜かな町を歩いて行つた。久しい間別れて居た夫婦とも思へぬ位沈默がちにお互に淋しい顔をして木の間を洩れる月の光を折々仰いで見た。坂を登つてしまうと、

『あゝ私全く疲れてしまつたのよ。身體が溶け相、是れじやあ直ぐ働け相もないわ。』と美佐子が心細げな聲を出す。

『少し休むだら活動して呉れにやあ困るよ。積極的に。心細い事など云つて呉れると困る明日からでも少し手助けしてくれねば……』と春夫は勵すやうに云つた。

『でも今のところ什うしやうもないわ。二人の子供を連れて居ちやあ。』

『だから預けるのさ。もう其の話は定つて先方へ通知さへやれば迎へに來て呉れる。』

幼兒はすやすやと眠つて其の小さいか弱相な顔を月に向けて居る。幾度も幾度も死の宣告を享けた此の弱い子供を人の手に渡す親の心を思ふと美佐子は自分乍ら無慈悲な者のや

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うな氣がして來た。可憐相にと云ふ自然の人情が起ると矢張自分の手で育て上げ度いやうにも思はれる。然し又其のはしから子供から什うにかして逃れ度い。而して自由な社界に心ゆくばかり馳つて見度いと云ふやうな氣も起つて來る。それなら乳母や女中を置けばいゝと思つても見るが、經濟がそれは許さぬと考へ直しても見る、さうした種々な錯雜した感が亂れあつて美佐子は既う自分の心を自由にする事も出來なくなつた。

狹い僅か四疊半ばかりの室に親子四人が居る事を思ふと春夫は露西亞の小說にでもあるやうな人間の生活を思ひ合はせる。食べるにも寢るにも唯日の映さぬ北向の室が天地だ。机もあれば本もある。女の手廻りの物から子供の玩具、左樣した雜々した狹い室を見廻す度に春夫は自分の仕事が手につかぬ程悚々して來る。神經が銳くなつて觸る者は誰でもかまはず叱り飛ばし度くなる。幼兒の泣く聲も辰夫が慕ひ寄るのも皆腹立たしい。左樣した時は春夫は散らばつて居る物を矢鱈片つけて箒で掃き立てる。

『僕は神經家になつたからね、其の積りで少し座敷を奇麗にして居て吳れ』と妻に云ふ。

美佐子も良人の仕打が何となく氣に觸つて居たので、

『眞當に不思議ね。彼のずぼらな人が……ですけれど、此の狹い部屋じやあどうしやう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

もないのよ。私だつて貴郎が何とも云つてよこさないものですから人の家に居るとは思はなかつたの。電話まであるんですもの。』と何となく涙ぐむ妻の顔を見ると春夫は自分の生活に對する苦しい煩悶を察せぬ妻の言葉に又腹立たしさを増して、何とか云つてやり度くなつた。

『お前も考へて出て來たのなら自分を救ふ事を考にやあいかん。子供を何とかせなきやあ、今に二人とも子供の爲めに世から葬られてしまわねばならん。まあ考へても御覽、僕は今迄眞實に自由に仕事が出來た。仕やうと思へば何程でも働けた。斯うしてお前達が來たばかりに何れ丈け時間と勞力をを無駄に消費されるか。これじやあ全く仕方がない。』

春夫は斯う云ふと今にも自分は此の壓迫の爲めに力も何も奪はれてしまうやうな氣がして悚々して來る。而して妻を急ぎ立てて二人の子供を連れて外に出させるのであつた。

美佐子は斯うした良人からの冷遇を受ける　、此の儘何處ぞへ逃れて行つてしまい度いやうな氣がして胸を屹と抱いて見る。あゝ何とかせねばならぬ。と心に幾度も繰り返して見ると全く世に良人もなければ子供もない唯自分一人があつて而して自分一人で自由な世を送る事が出來得るやうな氣がして來る。然し不圖斯うして良人に遠去けられて二人の子供を連れて逍遙つて居る自分の姿を見ると何とも云へぬ悲しさが襲つて來て、餘りの不甲

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

妻なさにつくづく愛相がつきて來る。同時に矢張「自巳」を救ふの急務を痛切に感ずる。

春夫の外出した時は美佐子は落ちついた心持で家に居た。然し春夫の家にある時はなるべく外出するやうにして居た。

夫婦は斯うした淋しい孤獨な日を送つて居たが夜二人の子供を眠らせてから一個の机に二人相ひ對して電燈の許に同じ仕事をする時は春夫は眞面目にペンを動かして居る妻を顧ては微笑み美佐子も圓い目を擧げて良人の目に何となき微笑を送るのであつた。又或時は春夫が今年中に公にされる自分の飜譯の校正を朗讀すると美佐子は批評をしながら其の南國の作家の燃えるやうな情熱の筆に醉はされたやうになつて恍惚として聽いて居る――唯其の時のみ二人は云ひ知れぬ幸福を味ふのであつた。

愈々幼兒を預る日が來たが、美佐子は少しも我兒に執着を覺えなかつた。却つて一日も早く一時も早く他人の手に渡してしまひ度い氣がした。

子供は風の吹く日に汽車に運ばれて川風の寒い玉川の奧に連れられて行つた。連れに來た里親の田舍びた正直な風を見て春夫夫婦は重荷をおろしたやうにホッとした。其の頃は非常に仕事が忙しくつて寸暇も惜しい位であつたので春夫は直ぐ仕事にかかるべく家に歸

つたが美佐子は辰夫を一二日預つて貰ふ爲めに弟妹の家に行つた。一時間ばかり話してから美佐子は辰夫を弟に連れさせて外に出した後で直ぐ家に歸つて行つた。子供と云ふものが非常な重荷のやうな氣がして居たが美佐子は二人を手放して何となく氣が輕くなつたやうに思はれた、が一人日比谷の中を歩いて行く肩の上にかゝる木の葉を見上げると何んとも云へぬ寂しさを感じて來た。良人と久しい間離れて居たと云ふ事が、夫婦の間を遠く無干渉なものにしたやうな氣がして、良人の世界と自分の世界とが全くかけ離れてしまつたやうな氣がする。自由！　或は自由と云ふのであるかも知れぬが、同じ道を歩かうと誓つて居る夫婦が、心だけは相反いて行くやうな心細さと恨めしさを感ずる。それに何となく二人の間を繼いで居る子供迄をも隔てやうとする心と心――、それを思ふと美佐子は廣い靜かな公園の道が砂漠に自分を導いて行くのではあるまいかと云ふやうな氣がして來た。――乳さへ張つて來た。冷たい風が落葉を誘つてハラハラと散る。掠すれたやうな日影が力なく圖書館の上に落ちて居る。雨の袂が風に煽られるのでそれを胸元に抱いて美佐子は首垂れるやうにして公園を出た。遠く田舍に遣られた幼兒の事を思はれる。

春夫は妻の歸るのを待つて居た。宿の小母さんは美佐子が二人の子供を置いて來たと云ふので驚いたやうな顏をして涙ぐむだ。而して微笑むで居る美佐子の親としての心が判じ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ないと云つたやうにまじまじと其顔を見て居た。

『お若いですからね――』と唯一事歎息するやうに云つたのみで何事も云はなかつた。

夫婦は一寸子供の話をして居たが直ぐ忙し相に一個の机に向つた。

電氣は點いた。間もなく夕暮が迫つて來た時、電話がかゝつて來た。それは弟からで、辰夫が何と云つても泣いて仕方がないから迎へに來て呉れと云ふのであつた。

夫婦は一寸當惑したが、仕方がないので春夫が迎へに行く事にした。

晝の間吹いて居た風は死んで天は美しく晴れて夕燒の影が夢のやうに醒めて來た。春夫は辰夫を抱いて歸つて來たが、何と云つても母親を呼むで泣き止まぬ。非常な執着を見せて何者をも退けてしまう。母より他何物をも求めない。唯大きな張り裂けるやうな聲を出して泣き叫ぶ、何と春夫が宥め賺しても其の樣な聲は耳に響かない。殆ど歸る道の間三十分ばかりと云ふもの泣き續けた。人は其の氣狂ひのやうな破れた聲に何事かと振り返つて見た。春夫はつくづくと子供の執着心の怖ろしい程强いのに驚いたと同時に丁度胎內の腫物のやうにその苦痛に惱まされ乍ら如何ともせんすべがないのであつた。(完)

(二、一一、二四)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

白い火事 ―安田皐月―

一

「嫌やだは姐さん、寢て了ひなすつたは」

銀扇を抛ると兩手に有禪の長い袂を抱いて小奴はべたりと三福の横に座つた。

「嚴しい口が止まつたと思つたらもうぐう〳〵寢て了つて……あゝいゝ事仕樣」

小奴は眉の下がつた、目と目の離れたとぼけた樣な顏に深い皺を見せ乍ら、三福の羽織の裾から男の長くなつた足許を前へ廻つて、中腰の儘三福の顏と見るとクッと笑つた、そして猪口の中に冷え切つて殘つた酒を半巾に浸して男の顏の方へにぢり寄つた。

三福はそれ迄うつとり氣拔けのした樣に見て居たが、其時急に右手を振つて物靜かに小奴を止めたので、小奴も仕方なしに首を縮めて鼻で笑ひ乍ら又三福の左へべたりと座つた。

「やつちやん又水が流れてるはね、裏の川で」

「ほんと！ 山の雪が溶けたのね屹度」

「見て御覽、どれ位の幅?」

小奴が立つて欄干から硝子窓を透かしてる幾丈も下をさら〳〵と雪を乘せた水が氷の上を辷つて行く。

三福は短くぼつてりした顋を襟の間に埋めて、膝の男の少し口を開いた倦み果てた樣な緩んだ寢顏を見つめて居ると、暮近いあたりがしんとして、川の兩土手の傾斜を辷り落ちる雪の音が時たま水の音を亂しては流れて行く。

「もう外は暗いは。それに粉雪が降つて居て下なんか見えやしないの」

緣を離れた小奴は隅つこのストーブに大きな薪をくべた。

セルの單衣で上野を出た三福が僅か二日の旅をして此處に來た時、此處ではもう葉の落ち切つた枯枝が石炭の煙に燻ぶり返つた大空に淋しげに立つて居た。廿三の浦若い身で三福は北の島の煤煙に柔い透き通つた肌を煤けささうとは夢にも思つては見なかつた、沼の樣に重く沈んだ紺碧の靑森灣を室蘭通ひが辷り出た時、半島の山に落ちて行く夕日の赫い燃える樣な光りを浴びて、だん〳〵引いて行く內地の港を籐椅子の上から見守つて居ると、三福はもう萬事が終つた樣な寂しい諦めの陰から、旅の哀れなどと、一口に云ふ事の出來ない切ない哀傷の氣に閉ぢられた。乘りつけない船の動搖に三福は一夜まんぢりともしない

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うちに船の腹には浮船が付いて居て、しら〳〵と夜が明けかけて居た。

北の北の果て迄流れて來た……この先何處迄流れ流れる身の上やら……三福は沼地の樣にジク〳〵と處々に水を溜めた茫寞たる平野が遮るものもなく續いてる中を馳けて居る汽車の中で、乘り合はした誰もか自分と同じ言葉を使ふ事を知らない人の樣にさへ思へてならない程さすらひの孤獨の中に沈んで行つた。乘換を濟ますと汽車は富士の裾野を上る時の樣な緩い運びを不愉快に引ずつて、停車場丈け外周圍に建物のない淋しい驛を三つ四つ過ぎた。三福はこの先の終點が自分の身の落付き所、行き切つた處で汽車にさへも棄て去られる、こんな事を思つて傷ましい自分の未來などを考へる暇もなく只現在の我身にほろ〳〵ほろ〳〵と熱い泪を注ぐのだつた。そして流れるとは拭き流れるとは拭きして居るうちに、疲れ切つた衰顏を低い軒並に見せた眞黑な家根續きの町が直目の前に自分を迎へて居た。三福は一枚板に硬ばつた胸を抱いて此處へ下りた自分の、單衣に綿入羽織を重ねた重さうな姿を思ひ浮べては、

「落ちる處迄落ちて行くのさ……」

自分で自分に恁那事を云つて居た。

「やつちやん其那に焚くのはおよしよ。ストーブに馴れないから上氣せてしまうがないの」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「姐さん恁麽に降るの見たら驚くでせうね」
「ほんにさ、お話にも何にもならないね。まるで底が拔けた樣な降り樣ぢやないか、大根見たいなつらゝが人の軒に下がつてるなんて西洋の草双紙ものだね」
「何だつて恁那處へ來たの、姐さんは。歸へりたいでせうね」
小奴は冷えた足を爐の炭火に暖め乍ら、三福の濃い眉から大きい眼の邊をしげ〳〵と見入つて居る。
「ね姐さん、東京なんて望めやしないけどせめて札幌邊で一本になりたいねえ」
「オホヽヽ、この子は、すつかり峯ちやんに吹かれてるよ。こんな呑氣ないゝ家が外にあるもんかね。絃が彈けないでも藝者が務まるつて所ぢやないか」
「だから餘計姐さんも歸へりたいでせうつて云ふのよ。三福の藝を聞いてやるものはこの町にや一人も居ないつて澤田さんも云つて居なさつたよ」
「ウフヽヽ」
三福は懷手に膨らました襟に顎を埋めて、苦笑した顔と膝に落し乍ら、
「此處に一年居たら誰だつて覺えた丈けの藝は忘れちまはあね、それ丈け氣が張らない處さ。やつちやんなんかね、外へ出て苦勞するよりや此處で一本になつてさ、會社の旦那衆

に可愛がられて居る方がどれ丈け仕合せだか。大きい處でもてるのも小さい處でもてるのももてるに違ひはないからね」

「あゝ私、姐さんの話聞いてると泣きたくなつて來る。姐さん！ 姐さんがさうやつて眞白な顋を半襟の中に埋め乍ら遠くを見詰めてる樣な顏してると、默つて居られても私泣きたくなる」

小奴は三福の肩に寄りかゝつてしく／＼泣き出した。

「馬鹿だねこの子は、こちらがお起きになるぢやないか」

慫うは云ひ乍ら三福も亂雜に取散らした中に靜乎と動かない自分を見廻して涙ぐんで居た。

閉て切つた總硝子の雨戸の外は刻々に暮れて行つて、新らしい木柱の部屋に吊洋燈の光が置き並べた何にもとは無關係の樣な寂しさを投げて居る三福は部屋中を見廻した。

だら／＼とお酒で濡れた朱塗りのお盃が男の膝を斜つかいに爐の向ふに押しやられて、その側に紫つぽい藍で染められた田舍風のお銚子が倒れて居る。爐の此方側には敷島の空袋の上に投げ出された箸が一本重さなつて居て相棒の一本はお膳の上の食べ剩してお皿に載つて居る。斯うした亂雜が只さへあくどい花むしろの部屋をごちや／＼取亂してる中に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小奴の舞扇だけが冷い華かさを見せて居る。

三福はストーブにいきれた温氣の中で男を膝にのせ乍ら、振り蒔かれた様に散らばつた品物の一つ一つから迫まつて來る磨滅の哀傷にほろりとして居た。

三福は此麽時よく陷る滅茶苦茶に取縋がつて泣きたい樣な取詰めた氣にもなれない樣にいつか月日がして了つたと思ひ乍ら今年の春岡崎から二度目に北條へ歸つた時の事を考へて居た。若い元氣一杯の學生を相手に飮んだ酒に醉へもせず、飮めば飮む程頭へ上つて行くので三福は堪らなくなつて、觸れば涙の落ちさうな體を椅子の外へ運んで緣の欄干に獅嚙み付き乍ら泣いて居た。と、誰だかそつと三福の體を抱いた。三福は矢庭に誰とも知らない人の胸に取ついて、柱にでも抱付いて泣きたかつた程の物淋しさを一夜男の胸で泣き明かした。物恥ちした樣な春の月が朧に霞んで居た晩だつた。

「靑木さんて方も今頃は怎うして被入るだらう」

うつとりと三福が何時迄も默つて居るので小奴は

「澤田さんたら人を呼んで置いて何時迄睡るのかしら。私早くお湯へ這入りたい」

側に置いてある三味線の一をぽつり〳〵爪ではぢき乍ら此麽事を云つて居た。

「おやお前さんまだなの。構はないからお這入りとも。そしてね誰かに搔卷でも持つて來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さして頂だいな」

薪の燃え盛る音が一しきりストーブの中で凄い音をさせて居た。

二

三幅は蕭幕の中に眞白に浮いて居る細長い橋を眺めて居ると、小さい時に通つたお茶の水の深い堀の様子などが目に見えて來て、本所からよく本郷の姉の家へ宿りに行つては山手風に髮を結ふて貰つた事など思ふと、お座敷で只一度逢つた男の顏を思ひ廻らす樣な寂しい氣になつて居た。ふと表二階から舌の廻らない樣な醉拂つた男の唄につれて、札幌流水の峯治と云ふ内藝者の都々逸が聞えて來た。三幅は一寸耳を澄ますと冷い嘲笑の下に、荒み果てた女の一生をまざ〳〵と曝け出された樣な羞恥と嫌惡を、其艶つけも霑みもないかすつぱげた聲から感じない譯にはいかなかつた。そしてそれが取りも直さず自分自身の運命なのだと思ふと、平氣で男から男、歡樂から歡樂と移つてと云ふよりは移されて日を送つて居る自分自身が雪の中に一日一日と埋まつて行く礦山の底のこの町と同じ樣にごん底迄落ち込んで行く樣な便りない氣がして、天も楯と據らずもう誰でもいゝから縋り付いて離れまいと云つた樣な、なよ〳〵と物哀れな人戀しい氣になつて來た。で、矢庭に膝の男を搖り動かすと、男は細い其手をぐいと廣い袖口の中に引いた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「まあ起きて被入たの、隨分ね」

男の肩に體とのしかけて、

「先刻から?」

男は目を閉ぢたまゝ靜かに默いた。

「あの小奴が泣き出した時分から?」

又男は默つた。

くわつと一時に歡樂の中に突進んで行く樣だのに、それで居て舞子の長い振が六つもひら〳〵と舞ふ中で、名狀し難い悲痛の色をいつか顏に浮べてきつと口を結んで居ると云つた調子の男の常を知り拔いてる女は、寂しい思ひをさせ乍ら醒めて居て起きても呉れない恨みなどは云ふ氣にもなれない。

「晝間は會社でお疲れでせうし、夜は何時迄もお酒上がつ被入るしと思つて眠と辛棒して居れば」

獨言の樣に恁那事を云つて卷莨に火を移して男の口へ持つて行くと、男は矢張り背を向けた儘煙を吹いて居る。そしてとう〳〵女は一本を吸ひ切つて了つてもまだ男の口から一言も聞く事が出來ないで居た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三福はまた苦しい沈默の幕が明いたと思つた。男の常として醒め極の哀愁を聞く許りに味索した後に堪え兼ねた樣に二度目の酒を呼ぶ時、三福は滅亡の前に立つた樣な悲哀を感じながらも男の命に從はなければならなかつた。

「今日こそは怎うあつてもこの人をこの儘寢かさう。この上のお酌はしまひ……」

三福は恁麼事を思ひながら男の沈默を亂さない樣に辛棒して居た。

毎夜々々を男の膝に醉ふて幾春秋を流浪し盡した三福は、今こそ自分をたよれと敎つた母の臨終が生きた敎へと胸に響くのだつた。三福は生れてから父の顏を知らなかつた。母も遂ぞ父の物語りをした事はなかつた、其母が臨終の際にあゝも子も妻も棄て去つた薄情な父に、極度の戀着を殘して居たのかと思ふと、人を戀ふ身の切なさがしみ〴〵骨身に澄みて來た。思へは十五の年から華かな夜の巷の人となつてから幾人を戀ふて幾人に別れたらう。白い胸の底の底に捺された離別の苦しい烙印が、この女を煽り煽りて此處までさすらう女にして仕舞つた。三福は人に手頼るなと敎へられるには餘りに哀傷的な女だつた。脆く身を投げ出して人の袖に隱れないでは居られない女だつた。戀に泣き離愁に泣き、戀に泣き離愁に泣く自分に泣き、三福は涙の半生を放浪に送りて此處に落ち着いた時、男を思ふには女は大部疲れて居た。そして母の敎へが澄み〴〵懐しく胸に響いた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

𢌞那氣で土臭い會社員か抗夫外男の居ない山の中で江戸子の澤田に逢つて居た三福も、流石に若い血のどよめきに只一人の理解者同情者としてのみ待つ事の出來ない樣な苦しみを胸に抱いた。それを、怎うせいつ迄逢つてゐられ樣と云つた悲しい締めに押隱して、務めて眞身の妹の樣な軟かな氣分にならうさ自分を鞭打て居た。

「貴郞お床が出來て居ますよ。行きませうよ」

三福は男が何で此麼生活をして居るのか知りたいと思ひ乍ら、聞いても見ず、手遲れになつた病人の臨終に侍した樣な氣持で、酒に浸つて居る男を素直に見て居る外仕方がなかつた。男は三福の遠慮さうな言葉を聞いて笑ひ乍ら、

「これで睡むれるかい、第一今から寢て何時に起きるんだい」

「オホヽヽ、何時迄でも。貴方後生、今日丈けは止めて下さいな。ね、是れですは（手を合せて）今日はもう何と被仰つても上げませんよ」

「馬鹿だなあお前は」

男も女のいぢらしい容子を見ると寂しくなつてこれ丈外云はなかつた。

凡てを投げ遣つた放縱の生活に親からも離れ、同寮も先輩も見て見ぬ振りをして居る中で、たつた一人の中告者、たつた一人の知己が尾羽打枯らしたさすらひの無智な旅藝者か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と思ふと男は可愛さうな自分自身が聲を上げて泣いて遣りたい。そしてこのいぢらしい知己の手を採つて踉めきながら人の居ない隱家を求めたい。蝕み果てたこの體を素直に傷はいて行く處迄付いて來る女は此者を置いて何處にあらう……

男は霑んだ目で洋燈の玉笠を眤と眺めて居た。

三

雪國の冬の夜が物凄い迄の沈默に更けて行く中で、舞ひ疲れ唄ひ疲れた秀松と小奴とは炬燵の櫓に凭れていつかうと〳〵と睡むつて居た。男は艶のある細い感傷的な音聲で唄つて居たうろ覺えの明烏をぽつりと切ると、

「東京はもう年の市だぜ」

ほつ〳〵と口で息をし乍ら赤くうれしさうな顔を女の肩に寄せた。

消え入る許り寂しさうな男の容子が見て居られなくて、三福は先きの言葉も何も忘れて自分から二度目の酒を命ずると、小奴と秀松を呼んで自分の絃で舞はせながら、男の心に觸らない樣に遠巻きに氣を引立たせ樣と務めて居るうち、迎ひ酒が先の酒を呼んで澤田もいつか華かな浮れ心になつて來た。そして半玉の扇を取つて踉け〳〵踊の手振りの眞似事をしたりして居るうちに體中の酒が一度に發して、べたと座ると、二人の小供を兩手に抱

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

へて着て居る着物を剝がうと騒つたので子供はきやあ〳〵云つて逃げ廻つたりした。

澤田は醉ふとよく極端な乾燥き樣をする事があつた。縮緬のしごきを解かしてその先に炭を結び付けて二階から長く下げて雪釣りをして遊んだり、半玉の赤い簪に舞ひ扇に結び付けて雪の中に飛ばしたり、或時などは無理無理に女共の着物を脫がして、その有襌や絹物の柔い着物を何枚も重ねて引擔き乍ら、重さうに踏まつてる長襦袢丈けの女達を床の中からにこ〳〵見て居たりした。

「ほんとね、又今年も暮れるのねえ。ね、澤田さん、東京ぢや首巻き一つで駒下駄懸けて夜店素見してられるぢやありませんか、今頃はね」懷かしさうに三福が云ふと、

「暮の町は活氣があるからなあ、賣出しやクリスマスで今は何處の店も眩しい樣だぜ。冷い北風に吹かれながら、懷手でコンクリートの道をぶら〳〵歩く氣持はいゝからなあ。離れて見るとしみ〴〵東京が戀しくなる……」

男は青い迄明るい酒場のテーブルや、林檎や蜜柑で彩つた果物屋の店先や、レストランの白いエプロンの女や、ステインドグラスの華かな色彩りや、橋の角などに夜更けて人を待つ煮込みの屋臺店や、それからそれと夜の都の懷かしい影と追ふて居ると、旦那に遠く離れて居る事が泣きたい程悲しくなつて來た。

「歸りたいなあ、上野へ着へたらどんな氣持がするだらう。屹度電車に乘るさへ一寸考へる樣になつて居るよ」
「さうでもないでせう。私なんか何時歸れますやらね。オホヽヽ旦那大雪を見物に來たと思へばねえ。お正月になつたつて雪ぢや羽根も突けませんね、でも突きませうね、家の中で。私そりやいゝ羽子板持つて居るのよ」
三福の言葉から男も都大路の三ケ日の容子など思ひ浮べて居るうちに女に寄り掛つたまゝうと〳〵睡つて了つた。
「まあ貴郞つたら睡つて被入るの。風邪引くぢやありませんか」
男は肌脫きの儘眠つて居た。醉ふと此人の僻で體に纒るものを煩さがつて取つて仕舞ふのでシャツの釦迄もはづして居た。
「寒いと思つても何か着せて吳れる丈けの親切がないのかなあ。おい、この羽織脫いで俺に借せ」
「肌をお入れなされば……」
男は人の云ふ事などは聞えない樣に、震える手先で女の體から羽織を脫がせに懸つて居ると、氣味惡い大氣の沈默を破つて半鐘が響きだした。女は一寸目を瞑つて

「あら火事よ」

「何處でも燒けろ。搆ふもんか」余所ごとの樣に云ひながら、男は漸々脱がせた粗い眞綿の羽織を、肌脱ぎのシャツの上へはをつて手を通すと、腰の廻り着物の兩袖をぶら下げ乍がら縁側迄跟けて行つた。その刹那眞正面に立昇つた物凄い火の柱がどうと云ふ音と一緒に倒れると第二區の坑場が眞白に浮き上がつた

「あゝ綺麗だ。凄い程綺麗だ。眞白な火事だ」

建並んだ坑屋が一棟々々と倒れる毎に焔の舌が天を焦がして、白皚々の町を凄い迄明るく展開して行く前に立つて男は叫んだ。

物音に驚いた小奴と秀松とは寢とぼけながら如何し樣如何し樣と繰返して立つたり座つたりして居るのを、三福は見向きもせず、澤田の狂態を見守つて居る。

「あゝ綺麗だ。あゝ凄い」

澤田はとう〳〵醉體をぐたりと欄干に凭せて、血走つた眼からほろ〳〵ほろ〳〵泪を流した。而して拭ふ後から後からと流れる泪を女羽織の長い袂で押さへては

「あゝ綺麗だ。あゝ凄い」を繰返して居た。

吸ひ込まれた樣に男は泣いて居た女の眼にも涙が一杯溢れて居た。（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛及生活難に對して——西崎花世——

態度論ばかりである、主張論ばかりである。躊躇する心ばかりである、唯一人まだ火の中に潜らうとしない。唯一人まだ中心に肉薄しない。

○

私は私があたりまへの女より此の身体が三寸あまりも短いものに生れて來た。此のあたりまへの女よりも小さい女である身体の自覺が私に私の精神の方面に於ても亦あたりまへの女より常に貧しい天分と稀薄な才能としかない事を感じさせる。私は私をさう評價した人を所有してこの事を思ふのである。

此の稀薄を耻ぢ、微弱を出たがる心の苦痛は到底他人には名狀しがたい慘憺たる悶えである。併し私は私の慘苦の中に直立して、靜に自分の生活の手段をさがしながら歩いた。私はいつも自分の稀薄に對して是れを集中するより外爲す所のない事を思つた。私の力

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の弱い事はこれを束ねるより外の仕樣がない。方面の幅の廣さを云へば私は自分でどれほどの勞力を惜しまなくても、到底あたりまへの女の生活に伍する事の出來ないことを思ふ、たゞ狹くとも是れを厚くしたい。是れを深く掘りたい。そして深く掘る事によりてこの生涯の末端に於てたゞ瞬間の廣さを占める事をしたい。

私は私の身体の小さいと云ふ事、そして身体の弱いと云ふ事、そして生活力の稀薄と云ふ事を進まうとする最良の象徴と見做したい。私は私にその事を命じてゐる。

○

私は周圍から子供らしいと云はれる。

私も私の子供らしいのを覺える。そして此の子供らしさを意味あらしめたいとおもふ。

私はその外を大人にして內の生活に何をも持たぬ他人にならはず、この子供らしさを以てものを蓄積する術を思つてゐる。

○

昨日川口町へいつて瀧田樣によつた。仕事着の古洋服を着た謙太郎が（姉の顏を見たさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の心持）きつとその心持であつた。世にも珍しい程いぢらしい表情で、母から來た手紙を持つて、私に渡しに來た。

私は從業中の弟の姿を初めて見た。それ程に工場ものじみた汚穢もなく（心なしか？）殊にそれ程塵にまみれた疲勞の色のない靜な血色をしてゐるのを見て、私の心の晴れるのを感じた。たつた二分間の緣側での對話であつた、それも唯母の事を聞いたばかりであつた。弟はすぐ出ていつた。（主人や番頭に禮を失はぬやうに氣を兼ねて、）

私はその後姿を見て、可哀くて心が亂れるのをおぼえた。そしてまだ〳〵忍ばねばならぬ事を祈つた。謙太郞の信實を湛へた顏が、姉を見上げて光つてゐた。あれがかあいいと思ふ。あの子は大丈夫忍んで生きてゆくに相違ない。

私は瀧田樣を出て町を通りながら、待ちきれぬ心持で弟にわたされた母の手紙を見た。そして包み切れぬ笑ひを浮べながら歩いた。よき母とよき弟と、これらに對する血肉のしたしさが私を賑やかにする。

私は私をすべてあの人達の糧食にする事をしたいと思ふ。

○

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

多くの女が具体的に男を所有する時に、私は私の男を抽象的に所有する事の出來るのを感ずる。多くの女の愛が形而下の生活に生きる時、私は私の愛の形而上の生活に生きる事を思ふ。多くの女の土地に屬する男に死滅がある時、私は私の天に屬する男の永久の光彩を見る。

私は私の到底女性である事を思ふ、愛なき生涯は私の堪へられぬ生活である。男を思ふ事が私の生きる事である、併しこの男が決して形ではない。

○

私は私の生涯の遊動圓木を渡る足どりを思ふ。

○

私は別居結婚の妻の心持を感ずる。夫に離れてゐる。そしてその夫が離れたところに仕事をしてゐる。そしてその夫が私を愛してくれてゐる。併しその夫の生活と私の生活とは形而下的同棲をいとなむ事が、相互の生活の進路を咀害する便宜上、二人は別れて別々に生きてゆく心持を感ずる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その夫が誰れであるか、また誰れでなくてならないかは私の必要ではない。その夫が誰れであつてもそれは私のこの自覺の心持には何のあづかるところがない。唯私は心底から別居結婚の妻の心持に自分の住まうとするのを感ずる。

私はどこまでも女性的な生命が私の全体である事を見る。私は私の愛されて生きる妻の心持を排除する必要がない。これは自然に私に幸ひして來た怜悧な意識である事を思ふ。私は私のパッショネートな感情を輕蔑する事をすればそれはむしろ自分の生活を輕蔑する所以である事を知つてゐる。

私は愛したいとは思はない。

私は私を愛してくれる人を思ふ。

別居結婚の妻の心持、常におほはれ、さしのぞかれ、抱かれ、いつくしまれ愛されて生きる心持をこの身に觸れて、私は私の可愛いく、柔しくいぢらしく直に生きてゆきたいと思ふ。

私は私の夫の具体的の存在を求めてはゐまい。私は私の夫の顔が私の顔にふれる「空氣」でありたい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

私は此の頃絶えず輕い快い興奮を感ずる。私の魂が小さな歌をうたひながら、晴れた光の中を漫歩(そゞろある)くのを感ずる。

私は私のものを云ふ事や、私がものを書く事が、私の生命のほとばしりであるやうに感ずる。私の内省の生活が今笑つて空を仰いでゐる。私の心が豊麗に熟(う)れて來たのである。

私は私に對して、この小さな女に對して尊敬の念を思ふ。

○

私は私の心持のすきとほるやうなのを感ずる。白色の水晶、もしくはすみわたる水のやうに、金剛石(ダイヤモンド)のやうに透明な燦爛な自由な八面玲瓏の心持を感ずる。この心持は丁度今二三分ばかり前、朝日のやうに朗(ほがらか)に私の胸をさして來たのである。

私はこの光りを浴びる。

私はこの幸ひに生きる。

私はこの光りを孕んだ時の苦しさを充分につぐのはれてゆくのを感ずる。殺されたもの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の生かされてゆくのを感ずる。

今私は私の眞如を見る事を許されてゐる。私は今神の光在する事を覺える。私は私が今神である事を感ずる。私は私が今照り輝くがためにまばゆさを覺える。私は私の快いリズムに震へるのをおぼえる。

此の悅樂がどうして私に訪れたのであらう。此の眞如が何故私を占めたのであらう。私は喜びの中から目を上げて、此處に來たまでの自分の道をふりかへつた。

私は私を眺めて血に濡れてゐる女を見た、泥にまみれて來る姿を見た。あの弱い女がよくあれだけの忍ぶ事をした。よく耐へた女であつた、よく切り拔けて來た女であつた。この女のあはれな隱忍の生活が慘憺にあつた。この女の戰ひがどれほど性質の惡い戰であつたか。この女の生命がけがこの女の生命の花を唯一輪だけ開かせる事をした、この女はまだその次の一輪の花を咲かせる爲めにまた血まみれになるであらう。この女の悅樂が次の奮鬪に步いてゆかうとする。この女は神から去つて、鬼とならうとする。鬼となれ。（それが自然であるかぎりは）

○

私は母たらんとする本能にふるへである。

私は生活難に苦しんでゐる。

生活難に苦しむか、生殖の本能に苦しむか、この二つの事が常に交互に私の眼の前にあらはれて來る。私は私の生涯の戰が常にその二つの敵であるらしい。

併し私はその二つの敵に對して勝敗ともに有意味に受けとる事の出來る自分である事を思ふ。

○

いゝ一生の戰をたゝかつて衰へを感ずるやうになつた時、その時はすぐ國に歸つて來るやうにと母が云つてくれる。

國にはあの私の搖籃であつた山と河とが私を樂しませてくれる。そして村の人の純朴な心を私を慈しんでくれる。そしてあの母がその時まで生きて居ればどれほどに優しく、疲れて歸る私の身體を受け取つてくれやう。

國には亡父と祖父母の墓のまはりに菫の花の咲く春には、丘からひろ〳〵とした平野を見下すとき、菜の花の黄色い海や、列をしてゆく若い娘の四國遍路の鈴や、大川をくだる

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

白帆や、空にとけ入る海の遠さや、月夜に若衆(わかいしゆ)の語る浄瑠璃や、鳴門のお鶴や夢島のお仙の昔語りに、私の涙がこぼれやう。戀ひしい徳島の土地、あの純藍な自然に抱かれて、私は幸福に死ぬ事が出來る。

○

故郷に歸りたい。私は故郷のあの小松の林の中にまぎれてあの幼いときの心に歸りたい。そしてあの頃の少年の事を思ひたい。

八百屋お七の戀が私の故郷で私を待つてゐる。十二から十八まで私の心を濕らしたあの初戀、あの戀を思ふ時、私は私の心の年老いて益々少女の純に回(かへ)る事を覺える。

吉三郎が私の國で待つてゐる。私は一生のいゝ戰とたゝかつて衰へを感ずる時、國に歸つてあの吉三郎を慕ふ事が出來る。

私のすなほな初戀の心が私の今の暗さを照らす光りである。それは私のこの生活の根の力である。私は私のたゞ一つの藝術が吉三郎である事を思ふ。

○

一人の弟は芝の工場の隅で黒くなつて働いてゐる。あの子は事によつたら疵俄をしないであらうか。

一人の弟は遠い九州のはてまでいつて粗末な着物をきてこの冬の空を得意まはりをまはつて歩く藍屋の小僧である。あの子は人にあざけられて、あの一圖であつた心で自殺を思ふ事はないだらうか。

もう一人の弟は叔父の處にやしなはれてゐる。あの子は叔父の深切に慣れて放埒なものになりはしないであらうか。

田舍にゐる弱い妹と幼い弟と、あの子供たちがどうならうとするのであらう。

私は四方に離れ〴〵に生きてゆくわが同胞のいぢらしさを思ふとき此の身體中の涙となるのを覺える。私たち血肉のものは優しい父と惠深い母とを持つて生れて來た。私たち同胞六人はあの父と母とを左右から見上げて可愛がられて來た。父母は私達の宗教である。父母は私たちの智識である。私たち六人の生れて來た意味がたゞ父と同化し、母と同化する生活であつた事を思ふ。

やがてこの六人が貧しさの爲めに飢え、戰の爲に血まみれとなる時にも、父と母とを見上げて生きる意識さへ、あの子供たちにあれば、あのもの等の生活は充ち足りてゆかう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は常にあの子供たちに私の力を加へたいと思ふ。併し私は私自身の生活にすら、一日の安さを思ふ暇がない。下駄一足を買ふのにも難義を覺える、惣菜を買ふのにも不安をともなふやうな生活の中から、私は常に私の餓死を感じてゐる。

私は常に働いてゐる、然し女の勞働の安價は私のパンを充分にする事がない。若しも私が美貌であつたら、私が何をして生きて行つたであらうかは私にも想像が出來る。此の生き苦しい世の中の恐ろしさを思ふ。生き苦しい時おのづから飢えて死ぬ事であらう。死ぬべき意味にふれる時私はすぐに死ぬ事が出來る。私は死に座する事が出來る。

併し死は感情で斷行したくはない。死は意識して死なねばならぬ事を思ふ。死ぬ可き意味が、正しく私に來よ。私はすぐ死にたいと思ふ。

○

夜の二時に私は眼をさました。そしてこれを書くのである。今私は私の身體中が死を求めて叫ぶやうな感じにふれて眼をさました。この身體が死にたがつて心に死の意味を求めてゐる。死にたいと思ふ。併し何の爲めに死に得るのであらう。その死の意味が何であらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は私の心が眞實にものを考へれば考へる程死の問題に乘り上げてゆくのを覺える。私は私の戀の事を考へる時、私は私の生活難を思ふとき、その戀が死であり、生活難が死である事に觸れる。戀が死と渾一する時、生活難が死に融和する時私は私の目の前に危險の世界が大きく開いて來る。

私の心持は今その心持である。

危險でたまらない。

併し私が無意識ではない。私は私に對して私の死の意味を占めたい事を求めてゐる。その意味を占めぬ限り私は私の死なれぬ事を覺える。

私は人の死の意味を思ふ。殊に私の死の意味を思ふ。その意味がなしに私は私の死に得ぬ事を覺える。私は意識して滅びたく思ふ。この心が明かに死に對する自覺を持ち、死と生との光明を受け取るまで生きてゐたい。死に對する智識を得ぬかぎりは私は私の生きてゐる必要を覺える。

私は人の死の意味について、殊に私の死の意味について、私の力の許すかぎりの智識を得たく思ふ。その事がなしに私の死ぬ時、それは私を辱しめる事である。

私はこの事のために生きて居たいか知れない。死のために生きんとするこの心

の熱の聽えるのを感ずる。死と生とに對する私の思想は他愛ない程に貧しい。私はこの幼い思想、(むしろ私には私の直覺)が少しブフにも伸びてゆく事を祈つてゐる。死と云ふ事の意味、生と云ふ事の意味、それを知らないでゐる私の生活の不安さかたまらない。この無限の不安心にふるへわなゝく心のあはれさを見る時、私は私のしなければならぬ事業を歩一歩進めてゆきたいと思ふ。

私には貧乏がある、私は一冊として書物を買ふ金がない。然しこの必死の心持には、必らず光りのさして來る事が思はれる。

私は私の世界が知りたい。この世界がまことに何事であらう。私は人を知りたい。あれらの人々はまことに何であらう。私は私の不透明な頭腦の哲學と云ひ文學といひ、倫理といひ、さう云ふ高尚な科學が知らうとは思はない。たゞ私は私の不安のために私の？を知りたい。私が生きる必要のために？を理解したい。

それが出來ないと云ふ事は私の心の外の問題であつて出來ないと云ふ事は私の生活の徹底の態度の上の苦悶ではあつても自辱ではないのを覺える。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夜が明け放れてゆく。白い光線が私の眼の前に流れて來る。私はその時にこれを書いてゐる。

私は私の心が靜かに歩んで死から生にひきかへして來るのを見てゐる。危險な谷を見下して居た心持を轉じて、森の小路を里に出やうとする。死の壁に眼をすりつけて悶いてゐた無智から私の心が周圍を見廻さうとする。低いレベルの死を切り拔けて私の心が生にひき上げられてゆくのだ。朝の白い此の光線を眼の上に受けて、私の今朝思ふ事は私の生である。

私は今どうして新しい生命に手を觸れやうと思ふ。どうしてよく生きてゆかうと思ふ。その事を思ふとき私は私の已前の戰のとき、私をこゝへ引き上げて呉れた、私を育てゝくれた人の言葉を思ひ出した。靜かな大きい心持でゆつくり御勉强なさる事を希望します。と云つてくれてあるその言葉が、今再び私をつれ出す事を覺える。

靜に大きく生きる路、

此れ程の艱難な世を私が生きてゆく、その首途に母のくれた言葉が私に今思ひ出せる。いい戰をたゝかつて衰へを感ずるやうになつた時、國に歸るやうにと。

母のいつてくれる私のいゝ戰ひは、母の私に對する本當の理解は私の心の生きる事の富

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

である。そして私のノートの數の增してゆく事である。(二百冊から五百冊に)

あの方の教へてくれた靜な大きい心持で、母の告げてくれるいゝ內省のたゝかひに、この自分が勝ちとほしてゆかねばならぬ事を思ふ。

○

死に面接してゐた心をもつて他人に面接したい。他人を見るこの眼がくわつと見開きたい。あたりを見廻すこの心が澄みわたりたい。自分を育てるために、死を切り拔けて生きるために他人を見たい。今二百冊のノートが、假りに五百となる時まで。

私はその事業に生きたい。ノートが私の文學であり、また私の哲學でもある事を思ふ。

私はその事のためにこの生命をたのしんでゐたい。

○

一番弱いものが一番强い生き方が出來るものと私は思ふ。

(大正二、十二、一)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

舞の師匠　——茅野雅子——

晝さがり、冬の日の、
黄にさす壁にもたれつつ、
三昧とりて自墮落にひきて見れど、
昔おぼえし唄の節、
あはれさのみが身にのこりて、
かずは大方わすれたり。

思へば、この頃の氣まま、我がまま、
またなすこともなき所在なさ、
こころに張の無き故か、
花のいろさへだるく見ゆ。

かかる日はわけて戀し、
かの嚴しかりし舞の師匠。
今は叱る人さへなきさびしさよ。

鏡

なにとはなしに悲しきまま、
ふと思ひ立つことあり、
髪かきあげて、香油さし、
うす白粉もつつましく、
鏡の中の我が姿を、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いつまでも見て居たれば、
こころ漸くになごみゆけり。

こは今まで氣づかざりし、
耳の下のほくろの可笑くなりしにもよれど、
また我が眼の奥にも、
我とひとしき女ありて、
我をあはれむを見たる故なり。

あはれ、誰ぞ、誰ぞ、
彼の女、誇らしげに我を憐れむ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

孔雀

—望月れい—

白き山茶花、批把のはな
しづみて咲ける寂しさに
他國の鳥のたゝずまひ。

胸毛を青くてりかへし
いのち、あやしぐいとをしく
うまし孔雀のさけびなく。

動物園の朝のほど
孔雀はひとりさけびなく
毒の木の實を食ませたや。

南のとりを戀ひて死ぬ
尾羽もそろひてふさやかの
そのしにがらに太陽はてらむ。

哀怨

細雪、ふりつむごとくしたる時、
さみしさまさる君のさま、
わざはひ多み、思ひわび、
むしろ逢はじとなげかへば、
難しや、右の手のごとく、
戀にはあらでまもるてふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニヤ・コヴァレフスキィ自傳 ―野上彌生子―

第二章　パリビノ　家庭劇（つゞき）

そのペンナイフは色んな手がゝりの中の最後の一つに過ぎなかつたのであります。この話は誰が想像したよりもずつと興味あるものとなつて來ました。ニャーニャは年寄りの女にあり勝ちの探偵病になつて仕舞ひました。その上今度はフェクルースカに氣の毒なことをしたと云ふ思ひに安からぬ心を抱いてゐますから、自分のした惡事を償ひ度いとばかり思つてゐました。こんな譯からニャーニャとアレクサンドラとは、マリヤ・ヴァシルゼエフナに對して、嚴かな攻守同盟を結びました。斯うしていよ〳〵マリヤの仕わざに相違ないと目安を付けると、二人は大膽にも、そうと女の鍵を取り出して留守の間にいつかマリヤの抽斗を詮議してやらうと窺つてゐました。

で直ぐと實行しました。するとその結果、嫌疑は誤たず的中したことが分りました。抽斗の中に這入つてるものを見ると、マリヤ・ヴァシルゼエフナこそ近頃評判の凡ての盜難の

罪人であつたことが分りました。

『まあ恥知らずが。あのフェクルースカに罪を塗り付けようとしてチャムで以つておべつかるなんて。あの兒をこれん計しも可哀想だとは思はないなんて、まあ何といふ惡者だろう。』とニャーニャは呆れ果てゝ叫びました。而してその事に自分も加はつてゐたのだと云ふ事は全く忘れてゐました。ニャーニャが余り手嚴しかつたから、あの娘をして心にもない白狀をさせるようなことにしたのであります。

この痛ましい事實がすつかり分つた時の將軍の立腹は誰れでも想像するとか出來ます。初めかつと怒つた時は、イヴァン・セルグゼエヴィッチは警官を呼びにやつてマリヤ・ヴァシルゼエフナを拘引させるつもりでありました。けれども考へて見ればマリヤも丈夫な身體ではないし、可なり年も行つて居るし、その上ずつと長く此家に居馴染んでゐる者だと思ふと、さすがに可哀想になつて來まして、それでたゞ注意だけ與へて、聖ペテルブルグへ送り返してやらうときめました。

マリヤ・ヴァシルゼエフナがこの申渡しに異存のある筈はないと誰も思つたでありませう、マリヤは十分手が利いてゐるんだから、聖ペテルブルグに歸つても、口すぎの出來ぬ心配は少しもなかつたのであります。その上こんな疑獄の後ラゼエフスキイ家に居たらそ

の身の立る場はどんなになるでせう。これまでもて他の召使ひ達は皆なマリヤを姤んで、お高くとまつてゐると云つて憎んでゐました。マリヤはこの事を知つてゐました。而して、今まで自分が威張つてゐた丈けの仕返しはされるだろうと云ふ事もよく分つてゐた筈であります。それにどうでせう、不思議にも、マリヤは將軍の申渡しに少しも滿足した樣子はなく、尙ほもその情けに縋ろうといたしました。

　マリヤは猫の情合みたいなもので自分を此の家に結びつけてゐたらしく思はれました。而して自分の永く住み馴れた部屋に搦みついてゐたいような風でありました。『なにもこれからずつと永くゐようと云ふんぢやありません。』とマリヤは申しました。『私は今にやがて死ぬような氣がいたします。皆さんは私を見ず知らずの人の中で死なし度いんでせうか』

　けれどもニャーニャは、これは本統の理由ではないと感づいてゐました。マリヤは自分が一旦此の家を出て行つて仕舞へば、二度と再びフィリップ・マトフゼエジッチに逢はれないと云ふことがよく分つてゐましたから、その男が此家にゐる間は、自分も此家を離れまいと決心したのでありました。もとよりマリヤは夢中になつてその男を愛してゐたのでありませう。でなければこれまで正直な娘で通つて來たものが、その男のためにこんな罪ま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

で犯す筈はなかつたでありませう。

フィリップ・マトフゼエヴィチはどうかと云ふと、これは全く何の事もなくすみました。マリヤ・ヴァシルゼエフナから貰つた色んな贈物が何處から來たかと云ふ事には、少しも疑ひをかけなかつたとフィリップの云つたのは、恐らく全くのところでありませう。兎に角旨い庭師を手に入れるのは容易なことでない上に、遊園地とか花園とかは、その儘にうつちやつては置かれませんから、その上にも手當てをよくして、ずつと置いてやる事に極まりました。

ニャーニャがマリヤ・ヴァシルピエフナの動機に就いて想像したことが當つてゐたかどうか、それは分りませんが、いよ〳〵出て行く日となつた時、マリヤはイヴァン・セルゲゼエヴィッチのところへ行つて、その前にひれ伏したのは確でありました。

『お給金は頂かなくもよございますから此處へお置き下さいまし、おはした同樣になすつて下さいまし。たゞ逐ひ出す事丈けは御免下さいまし。』とマリヤは涙を湛えて懇願いたしました。

イヴァン・セルゲゼエヴィッチはマリヤが我家に執着してゐる事に心は動かされたもの、と云つて若しマリヤを許したなら、他の召使ひ達のみせしめが付かなくなるだろうと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事を心配いたしました。どうしたものかと非道く迷ひましたが、ふといゝ事を思ひつきました。

『そうだ』と彼は申しました。『盗みをすると云ふことは非常に惡い事だが、若しお前が盗み丈けをしたのなら勘辨してやつたかも知れない。併しお前のために罪もない娘の事が非道い目に逢つたのだ。よく考へて見るがいゝ。フェクルースカが皆んなの折檻を受けて、大變な恥をさらすことになつのは、お前の心得違ひからなのだよ。だから若しお前がどうしても此處へゐ度いと思ふのなら、條件つきで承知してやる。お前がフェクルースカに謝罪をして、皆んな召使ひ達のゐる前でその手に接吻するのだ。それが承知なら居てもよろしい』

マリヤ●ヴァシルゼエフナがこんな條件を聞き入れようとは誰一人思ふ者はありませんでした。あれ程頭の高いものが、皆んなの面前で農奴の分際の者の前に、その身を恥しめて、その上その娘の手に接吻するなんて事がどうして出來でせう。ところがマリヤはそれを承知しましたから皆んなは驚ひて仕舞ひました。

一時間の後には家中の人達は、マリヤ●ヴァシルゼエフナがフェクルースカの手に接吻すると云ふ異常な光景を見るために、廣間に集まりました。將軍はこれは最も嚴肅な方法で

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

皆んなの見てゐるところで行はなければならぬと主張したのでありました。主公も夫人も列席しました。子供達も其場に居てよい事になりました。

ターニャはその時の有樣を決して忘れることは出來ませんでした。フェクルースカは思ひも寄らず我が身の上に名譽の落ちて來たことに當惑すると共に、マリヤ・ヴァシルゼエフナが後になつて今日の屈辱の仕返しをしないとも限らないと思ひましたから、イヴァン・セルゲゼエヴィチのところへ行つて、接吻の命令だけは取り消して頂き度いと願ひました。『そんな事は致さなくも、私はマリヤを勘辨してあげます』とフェクルースカは泣き出さん許りになつて申しました。

けれどもイヴァン・セルゲゼエヴィチは、今度の事には自分の心を信頼して、最嚴正な正義に從つて行つてゐるのだと思つてゐるので、フェクルースカを怒りつけました。『引つ込で居ろ、馬鹿奴、お前の出る幕ぢやない。これはお前の爲ぢやない、道のためにやらなければならないのだ。もしわしが此罪を犯したとしたら、お前の主人たるわしでも、お前の手に接吻しなければならぬと思つたかも知れない。お前には呑み込めないのだ。――心配するにや當らない。――引つ込んで默つて居るがいゝ。』

フェクルースカは震え上つて、この上何んとも云ふ事は出來ませんでした。彼女は主人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の中渡しを待つ罪人のようにその席に返りました。

敷布のようなまつ白な顔をして、マリヤ、ヴァシルゼエフナが人だかりの中から進み出ました。その女は夢中のように器械的に歩いて來ましたが、その顔には人をしてぞつとさせるような、しつかりした決心と憎みを表はしてゐました。マリヤはフェクルースカの方へまつ直ぐに歩いて行きました。

『御免なさい！』とマリヤは叫び出しました――その聲は號泣するようでありました。それと共にフェクルースカの手を取つて、恰も噛みつかうとするかのように、暴々して自分の唇に持つて行きました。けれども突然痙攣的の發作を起して、大聲に叫びながら地べたへ倒れました。

その後分つたところに依ると、その女は以前にも同じ發作に苦しんだことがありましたが、斯んな病氣があると云へば雇ひを解かれゝばしまいかと思つて、主人達には內證にしてゐたのでありました。その事を知つてゐた召使ひ達も氣をつけて洩らしてをらなかたのでありました。

ターニリやはその面前に起つた發作のために、見てゐた人達にどんな結果を及ぼしたかと云ふ事は決して分りませんでした。と云ふのは子供達は固より直ぐとあちらへ連れて行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かれたからでありました。その上余りに感動したので、子供達までヒステリカルになろうといたしました。

　それだけ尚とはつきりターニャは召使ひ達の心に突然變化の起つたのを覺えてゐましたこれまでは皆んなマリヤ・ヴァシルゼエフナに對して敵意を持つて腹を立てゝゐたのでありました。その女の行爲は非常に卑劣な恥づべき事だと思つてゐましたから、輕蔑してやつたり、何處でもお構ひなしに氣を惡くさしたりして、いゝ氣味だ位ゐに考へてゐたのでありました。けれども今は掌を反したようになりました。その女は突然苦しき犧牲即ち皆んなの同情の的となりてゐました。イヴァン・セルゲゼエヴィチが非道すぎたと云つて苦情がありました。

『そりやあの女が惡い事をしたに相違はない』

と召使達はは育兒室でニャーニャと噂をしてゐた時、その事は認めてゐました。この噂話は何に寄らず大事な事件があると屹度始まる事になつてゐたのであります。『もし何處の家でもある通り、旦那樣とか奥樣とかゞあの女を罰したのなら、誰も我慢のならぬと云ふ程な惡い事ぢやなかつたのだ。ところがあの子供のフェクルースカの手に接吻させようと云ふんだもの、こんな恥をかゝされて誰が生きてゐられるものか。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

マリヤ・ヴァシルゼエフナは中々直りなりませんでした。一二時間おきに發作が起りました。お醫者樣を呼びにやらなければなりませんでした。

召使ひ達は皆んなマリヤがよく我慢したと思ふと共に、主人に對して怒つてゐました。エロナ・パウロヴナが育兒室へ來りますと、ニャーニャが時ならぬお茶を入れてゐました。

『それは誰にやるのだえ。』と夫人は何氣なく尋ねました。

『マリヤ・ヴァシルゼエフナにやるには極つてゐます。あの女だつて病氣の時にはお茶の一杯位ゐは貰つてもいゝ筈だと思ひますよ。私共召使ひは少くとも耶蘇教徒の惠みと云ふものを幾何か持つてゐますのです。』とニャーニャが非道い見幕で答へたものですから、エロナ・パウロヴナはどきまぎして急いで部屋を出て參りました。一二時間前には腹立ちまぎれにマリヤ・ヴァシルゼエフナを殺ろしもしかねなかつたニャーニャがこの有樣でありました。

四五日するとマリヤはすつかり快くなりましたから皆んな安心いたしました。而して前の通りにずつとラゼフスキィ家に居りました。過ぎた事はもはや問ひませんでした。召使ひ達の間にさへ何と云ふものもありませんでした。

ターニャはと云ふと、その日から彼女はマリヤ・ヴァシルゼエフナに對して、ある特別な同情を持つてゐましたが、それには恐いような思ひも交つてをりました。ターニャはこれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

までのようにはその女のところへも行かないし、廊下で出逢つても、我知らず壁に身をすりよせて、なり丈け見ないようにしてゐました。――ターニヤはいつもマリヤ・ヴァシルゼエフナが打ち倒れて叫び出せばしまいかと心配してゐたのでありました。

マリヤは多分その子供が自分に隔てをおいてゐるのに氣がついたのでありませう。色んな手を盡してその愛情を取り戻そうといたしました。いつも美しい絹のきれだとか、人形の着物だとか云ふような小さい贈物が彼女を驚かしてゐました。けれどもその甲斐もなく、人知れぬ恐い思ひが殘つてゐましたから、ターニヤはマリヤ・ヴァシルゼエナと二人きりになるや否や逃げ出して仕舞ひました。

その上間もなくターニヤは新らしく來た家庭教師の感化を受けるようになつたので、召使ひ達とのおつき合ひは止められてしまひました。

けれども七つか八つ頃のある日曜日の夕方、ターニヤが往時のマリヤ・ヴァシルゼエフナの部屋の廊下を驅け拔けてゐました。すると突然マリヤがその戸を開けて申しました。『少さいお孃さま、一寸と入らつしやいまし。あなたへお上げしようともつてね、私が燒いて置きました綺麗なパンの鳥がございますよ。』もう殆んど暗くなつてゐました。その子供はマリヤ・ヴァシルゼエフナとたつた二人きりでゐると、その人の白い顏と大きなまつ黑い目

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とが如何にも恐くなつたので、返事もせずに一生懸命駈け出しました。

『ターニヤさんは私をさげしんでゐらつしやるんだ。』とマリヤが獨り言を云つてゐるのが聞えました。ターニヤはその言葉よりも、そう云つた調子に痛く動されましたが、それでも足を留ませんでした。勉强室に居て、大分恐いのが薄らいで來ても、矢張りマリヤ、ヴァシルゼエフナの深い悲しげな聲が耳に響きました。ターニヤはその思ひを遊びに紛ぎらそうといたしましたが、それでもその一晩はいやな心持がしてゐました。マリヤ●ヴァシルゼエフナの事が氣にかゝつて仕方がありませんでした。彼女はよく我々が氣の毒な事をした人に對して感ずると同じ思ひを感じました。マリヤ●ヴァシルゼエフナは突然大事なお友達となつてターニヤはその女を慕つてゐました。

どう云ふ事があつたと云ふ事を家庭教師に話すことは迚も出來ませんでした。子供達はいつもはにかんでゐて、自分達の思ふ事なぞは何んにも打ち明けませんでした。その上子供達は召使ひ共に立ち交つてはならないと云はれてゐますから、ターニヤは自分のした事を褒められたかも分らないのでありました。それでも彼女は何となく善く云はれそうもない氣がいたしました。お茶がすんで子供達が臥せる時になると、ターニヤはふとこの儘寢室には行かないで、マリヤ●ヴァシルゼエフナに逢つて來ようと思ひつきました。これはタ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ーニャに取つては中々大變なことでありました。と云ふのはたつた一人で長いまつ暗な廊下を驅け拔けなければならなかつたからでありました。けれども死物狂ひの勇氣が起りました。彼女は一生懸命に走つて暴風のようにマリヤの部屋へ驅け込みました。

マリヤ●ヴァシルゼエフナは晩御飯をすましたところでありました。而して休み日でありましたから、仕事もしずに、さつぱりした白いきれの懸つた机の側に坐つて、何か宗教の書物を讀んでゐました。聖像の前にはランプが燃えてをりました。ターニャにはその部屋が如何にも美しく、心持ちよく思ひました。マリヤその人も大層もの優しく見えました。『私はね、マリヤ、お休みなさいと云ひに來たのよ』とターニャは息もつかず呼びました。でも云ひも終らないうちに、マリヤ●ヴァシルゼエフナはターニャをかき抱いて接吻で蔽ひました。而してずつと抱き締めてゐるので、おしまひにはターニャは少し恐くなつて來て、どうしたらマリヤの氣を惡くしないで逃げられるか知らと考へ初めました。とうとマリヤが非道く咳をしだしたのでターニャを離さなければならなくなりました。

この咳はだん／＼惡くなつて參りました。『私は夜つぴて吠え通しだ。』とその女はよく沈んだ皮肉らしい調子で云つてをりました。日増しに青白く透き通るようになりましたが、それでも如何してもお醫者樣に見せようとは致しせまんでした。その上病氣の話をすると

いつも厭な顏をいたしました。

斯う云ふ風で一二年は無事にしてゐました。亡くなる時にはほんの二日寢た丈けでありましたが、臨終の苦しみは非道いものでありました。

將軍の云ひつけでその葬式は立派に行はれて、家中の人達が列席いたしました。フェクルースカさへ涙を流しながらお墓まで隨つて行きました。

たゞフィリップ●マトフゼエジッチ丈けは居ませんでした。その男はマリヤの死を待たないで、少し前にラゼエフスキィ家を去つて、他のずつと割のよいところへ雇はれて行つたのでありました。

(第二章をはり)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戯曲 イワノフ（四幕物）――チエホフ作――

第三幕

第七齣

イワノフ。（吃驚して）シューラ、お前さんか？

サーシヤ。私よ、御機嫌よう。思ひ懸けなかつたでせう、奈何して貴方は那様(そんな)に長い間私の家へお出でなさらなかつたの？

イワノフ　シューラ、然しそりやあんまり思慮がなさ過ぎたぢやないか！　お前さんの來たのは、或は妻に甚麼惡い影響を與へんとも限らんぢやないか。

サーシヤ。でもあの方は私を見ませんわ、私だから臺所から來ましたの、さうして直ぐに歸ります、だつて私心配で堪らないんですもの、貴方、でもお達者だつたの？　何で這麼に長いこと私の家へ入らつしやいませんでしたの？

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イワノフ　いやさうでなくつても妻はもう此の間の辱めから、今は死ぬばつかりになつてゐるのだ、それだのにお前さんはまた此家に來た、シューラ、え、シューラ、それは餘り無考へなことぢやないか、餘り輕卒なことぢやないか！

サーシヤ。だつて仕樣がないぢやありませんか、貴方はもう二週間も入らつしやらないし、手紙にも返事をして下さらないのですもの、私隨分心配しましたわ、私貴方がね家で甚麽にか酷く煩悶してゐらつしやるのか、又それとも御病氣なのか、でなければ死んだのぢやないかとまで思ひましたの、たゞの一晩だつて、私、氣になつて眠られませんでした、只今直ぐ歸りますわ……それでもまあ貴方はお變りがなかつたの、え丶？

イワノフ。い丶や、僕はね自分でも苦しんでゐるし、人からも苦しめられてゐるよ、限りなく窘められて……全くもう僕は力がないよ！　それだのに又お前まで惩うして！　何と云ふ惡い羽目になつたものか、シューラ、僕は全く罪があるよ、甚麽に罪が深いのか！…………

サーシヤ。貴方は那樣恐しい、哀れの言を有仰るのが餘程お好きね！　貴方に罪？　え丶さう？　罪が？　ぢや有仰つて御覧なさい、何の譯で罪！…………

イワノフ。知らない、解らん。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

サーシヤ。そりやお返事ぢやないわ。罪のある人と云ふものは、奈何したつて自分の罪を知らなければならない譯ですもの、ぢや贋造紙幣でも拵へて？

イワノフ。馬鹿な！

サーシヤ。ぢや罪と云ふのは妻を愛さなくなつたと云ふそのことなの？ だつて人は感情の上に主人ぢやありませんわ、貴方は愛の變ることを好まなかつたのぢやありませんか、それぢや何が罪？ それとも私があの自分の愛を貴方に打明けた時、彼女がそれを見たので、それが貴方の罪？ さうぢやありませんわ、貴方は彼女が那樣ことを見るのを望んだ譯ぢやないのですもの…………

イワノフ。（言を遮つて）さうして恁うで、それから、さうして那で……それ愛した、それ愛さなくなつた、それ自分の感情に主人ぢやない、なんぞと那樣言は、人の散々に使つた皆ありふれた言さ、何の役にも立ちやしないんだ…………

サーシヤ。貴方と話すのは疲れつちまうわ。（顏を見て）何であの犬はよく書けてゐるのでせう、あれは寫生畫なの？

イワノフ。さう、寫生畫さ。だが我々の關係なんぞも小說だね、小說にはよくある筋さ、主人公が氣力を失つて、基礎が無くなつて了つたところを、其處に力のある、元氣のあ

る女主人公が現はれて、主人公を助けると云ふのなんぞは。だが、それは小說ぢや美しくもあるし、眞實らしくもあるが、實際の生活ぢやさうでない………

サーシヤ。いえゝ。實際の生活だつてさうですわ。

イワノフ。だがお前さんは生活を細く解つてゐるやうに見えるよ！　お前さんには僕の泣言が大變に崇高いやうな、恐惶いやうな、敬畏の心を起させるのだと見える。さうして僕を以て第二のハムレットを見付けたと思つてゐるのだらう。だが僕の考へぢやこの僕の不健全なのが、いやまだ、この不健全に起因されるところの總て一切のことが、ただ物笑の好材料となるのみであると思ふ！　さうさ！　這麼僕の白裝を、人が皆思ふ存分、絕倒するまで笑ふが可いんだ、それだのにお前さんは那樣に大騷をして！　救ふの、骨を折るのと！　あゝ何だか今日は自分が忌々しくて堪らない！　何だか今日の氣分は！　何かに當つて破裂しさうに感じられるよ、何かに當つて……でなけりや僕は何か毀して遣らう、でなけりや………

サーシヤ。さうです、さうです、本統にそれが可いわ、何かお毀しなさい、でなければ折つて御覽なさい、お叫びなさい！　貴方は私が考へなしに此處へ來たのを怒つておいでなのだから、どうぞ澤山私を怒つて頂戴、叱つて頂戴、足で地踏鞴お踏みなさい、さあ

Digitized by Google	Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お怒りなさいよ…………（間）よう、さあ！

イワノフ。 お笑しい人だね。

サーシヤ。 結構です。すると私等は笑つてゐるのですね！　ねえ、どうかお願ひですからもう一度笑つて頂戴！

イワノフ。（笑ふ）僕はさう氣が着いたよ、お前さんがねえ、その僕を救はふの、教へやうの、或は智慧を附けてくれやうのとする時には、いつでもお前の顔は何とも云へない無邪氣な顔になる、瞳がね大きくなつて、何かまるで彗星でも見る時のやうな眼になるよ、些とお待ち、お前の肩に塵がたかつてゐる。（彼は彼女の肩から塵を拂つてやる）男の子供らしい無邪氣なのはそれは馬鹿さ。だが、お前さん方女達は、子供らしく無邪氣になると、非常に愛らしく、自然で、温かなやうなね、決して馬鹿のやうには見えない、たゞ然し女と云ふものは變な癖があるよ、それは男が壯健で、精力があつて、愉快である時には何の注意も向けないでゐてから、一朝男が下の方に向つて坂を轉げ出し、ラザリの歌（譯者註。基督の譬喩の中にある乞食のラザリから出たので泣言を云ふと云ふ意味に用ひられてゐる。）を歌ふやうになると、急に女は男の頸に靠凭るのだ。奈何して、精力のある、勇氣のある人間の妻になるのは、役ざものゝ、何だか譯の解らん、泣虫の人間の看護婦のやうなものになるよりも惡いのだらうか？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

サーシヤ。 悪う御座いますとも！

イワノフ。 奈何してさ。（ハヽヽヽと大笑する）ダーキンが知らないから未だしもだけれど、若し那樣ことを彼が聞かうものなら、それこそお前さん方は叱られるだらう！『貴方々は人間の種類を損ふものだ』なんて。さうさ、お前さん方のお蔭で、世界には、これからもう泣虫と、不健全な人間ばかりが生れるだらう。

サーシヤ。 ですがね男は一體あんまりよく解らないと見えますが、それを娘と云ふものは、幸福に輝いてゐる人間よりも、却つて多く不成功な戀人を愛するものですわ、それと云ふものは、詰り自分の愛が生きて働かれるからです……活動される愛が好きなのです。けれども男はね、何よりももう仕事と云ふものが肝心で、それに心が塞がつてゐて戀愛なんぞと云ふものは、第三位に置かれてゐるのでせう、妻なんぞとはたゞ話をして一所に庭を散歩して、愉快に時を送り、又その墓に行つては泣きもする、まあそれだけのものでせう。ですが女に取つちや愛は生命です、さうですから私は貴方を愛して、それで私這麼ことを空想してゐるの、奈何して私は貴方をあの鬱悶の氣分から引出さうか、奈何云ふ風にして、世界の際涯まで貴方と一所に行かうか……貴方が山に上れば私も上りますし、貴方が穴に入れば私も一所に入ります、本統にねえ、まあ譬へば一晩中

でも私甚麽に喜んで、貴方の書物の清書なんぞも致すでせう、又一晩中喜んで貴方の眠りに誰も邪魔をしないやうに番を致すでせう、又一所に喜んで百露里(ウエルスタ)の道だつても徒歩で參るでせう。私今も思ひ出すのよ、丁度三年前、あのそら麥打の時分でしたね、貴方は私の家へ、塵埃(ほこり)だらけになつて、日に燒けて、酷く疲れたまゝで來て、さうして水を飮ませてくれと言つてね、私杯(コップ)に水を持つて行つて上げると、貴方はもう長椅子の上に轉がつて、まるで死んだやうに眠つてゐるの、さうして十二時間も眠通しましたつけ、其時私誰か其の室に入つて來て、貴方を目を覺まさせはしないかとね、貴方の眠つてゐる間中、私其の戸の側に立つて貴方の番をしてゐましたが、其時は私何んて嬉しかつたでせう！　ねえ、事が容易くなければないだけ、其れだけ愛と云ふものは、猶意味のあるものになりますわねえ、いえ、その愛を猶々強く感じますのねえ。

イワノフ。 活動する愛か……うむ……だがこれは傷疵(きづ)か、娘の哲學なるものは或はそれともさう有るべきなのかも知れない……(肩を縮める)解らないなあ！　(愉快に)シューラ、これを眞實の言だがね、僕は正直な人間だよ！……お前さんは考へて見て御覽、僕は日頃から哲學は愛してはゐるが、何時にも、僕はやれ『我が國の女は墮落した』の、やれ『我が國の女は遂に邪道に陷つた』のなど〻那樣ことは遂ぞ云はなかつた、僕は婦人に對し

ては、常にたゞ感謝の心を有つてゐる計りだ！其の他には何にもないんだ！　サーシャお前さんは本統に可い娘だよ、面白い人だよ—　だが僕は這麼やくざな人間で、一日中ラザリの歌を歌つて、徒に人々に氣を採ましてゐる。（笑ふ）ブウ〳〵、ブウ〳〵つて云つて！（急に離れて）いや、サーシヤ、もうお歸り！　我々はつい忘れてゐた………

サーシヤ。 さうでした、もう歸りませう、それぢや左樣なら！　たゞ私心配ですわ、あの貴方の正直なお醫者樣ねえ、彼の人が義務の感情からね、私の此處に來たのを、あのアンナ・ペトロウナに告げはしないかと。ようく、些と、早く彼方へ入らつしやいよ、奥樣の所へね、よう直ぐに、さあ、さあ、さあ、行つてよく側にゐておあげなさい………一年ゐてあげなければならないのなら、一年でもゐておあげなさい、又は十年ゐなければならないのなら、どうぞ十年ゐておあげなさい、さうして自分の義務をお果しなさいね、隨分とお苦しみ遊ばせよ、さうして奥樣にようくお許しをお願ひなさいよ、さうして澤山お泣きなさい、そりや皆さうなさらなければならないのですもの。さうして肝心の仕事はお忘れなさいませんやうにね。

イワノフ。 あゝまた厭な氣持になつた、毒の菌でも食べたやうな厭な氣持に！

サーシヤ。 神樣が貴方をお護り下さるやうに祈りますよ！　どうぞ私のことなんぞね、些

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も思はないで下さい！　二週間も經つたらでも些と一行なり書いて下さいましたら、それでも私嬉しう御座いますわ、私もまた貴方に手紙を書きますから…………
（月の蔭からボルキンが頭を出した）

第八齣

ボルキン。 ニエライ●アレキセエキチ、些とお邪魔が出來ますか？（サーシヤを見て）いやこりや失敬、僕はつい見ませんでした……（入つて來る）今日は！（挨拶する）
サーシヤ。（極り惡るさうに）今日は！……
ボルキン。 貴方は少しお肥りになりましたなあ、先よりはまた一層お美しくもおなりなさつた。
サーシヤ。（イワノフに）ぢや私お暇致します、ニコライ●アレクセエキチ……私それぢやこれで失禮致します。（出て行く）
ボルキン。 艶やかな幻だ！　俗なことで這つて來て、詩的なことを見つけたものだつけ……（歌ふ）『汝は來にけり、明るみへ、小鳥の飛びて來らんやうに。』………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ボルキン。ねえ、彼(あ)の女(ひと)にはニコラー他の女にはない特別のところがありますなあ。え、實際でせう？　何だか一種特別なねえ、恁う……妖艶と云つたやうな所がある……（溜息をする）いや全くのところは、郡内切つての金滿家の花嫁ぢやあるが、だが、あの母親と來たら、あの通りの苦大根(にがだいこん)だからね、誰だつて那麼家(あんなうち)と緣を結ばうと云ふものはありやしない。其換り母親が死にさへすれば、後は皆シューロチカのものになるのだが、今の處ぢやまあ金が約一萬圓、茶碗小鉢、それに火熨斗(ひのし)位な所が持參金の關山(せきのやま)、其上に足下まで低頭平身させられる騷なんだらう。（匿(かくし)を探す）どれ一服やらうか、如何です？（嗅入を差出す）上等です……可也吸へますよ。

イワノフ。（ボルキンの後に來て怒に息をはづませながら）たつた今どうか此の家から出て行つて下さい！　たつた今！

（ボルキンは飛上つが、其拍子に葉卷を落す）

イワノフ。さあ、たつた今出て行つて下さい！

ボルキン。ニコラー何が奈何したと言ふんです！　何の爲に貴方は那樣に御立腹なのですか？

イワノフ。何の爲だつて？　あ、それぢや君は何處からその葉卷を持つて來ましたか？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

君は僕が知らんと思つてゐるのですか、全體何處へ君は毎日毎日あの老人を引張り出すのですか？

ボルキン。（肩を聳める）然しそれが貴方に何の御用があるのですかな？

イワノフ。怪からん、不屈千萬です！　君の那様醜惡極る計畫のお蔭で、僕は此の郡内に知らん人はないやうに、不正な人間として見られてゐます！　我々は決して君と何等の關係もないのです。さあ、只今出て行つて下さい、この僕の家から！　（足速に舞臺を歩いてゐる）

ボルキン。あゝ僕は解りました、貴方が那様に言ふのは腹立紛れに躍起となつてゐるのです。いやそれで僕は怒りますまい、さあ、何程でも辱しめ給へ……（葉巻を拾ひ取る）もう可加減に憂鬱病は廢止にする方が可いでせう、貴方はもう中學生でもありますまいからね…………

イワノフ、僕は君に何と言つたのですか？（顫えながら）君は僕を愚弄してゐますな？

（アンナ・ペトロウナ登場）

第九齣

ボルキン。 おゝアンナ・ペトロウナがお出だ、それぢや僕は行きませうか（退場）

（イワノフは卓の傍に立留つて頭を垂れた）

アンナ・ペトロウナ。（些と間を置いて）何で今あの娘は此處へ來ました？（間）お前さんに訊きたいんです、何で彼の娘は此處へ來たのです？

イワノフ。 それは聞かずにゐてくれアニウタ……（間）私が何とも惡かつたのだ、甚麼罰でも私に考へて與へてくれ、甚麼ことでも決して私は厭はんから。だが……聞くのだけを勘辨してくれ……私は言ふことは出來ないんだ。

アンナ・ペトロウナ。（怒つて）いゝえ、何の爲に彼の娘は此處へ來ました？（間）あゝ、お前さんは那樣人でしたか！　私今やうやくお前さんをよく解りました、とう〳〵お前さんの性格が解りました、何と云ふ不正直な、卑劣な……お前さんはまだお忘れにはなりますまい。先に私の許へ來て何と私に嘘言を有仰つたのですか、『僕は貴方を愛します』つて……私は貴方のお言を信じました、さうして父も、母も、信仰も皆棄てゝ、貴方の許に參つて了ひました……貴方は私に正義のことについても　總ての善についても、又御

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分の正しい計畫のことについても、まあ、それすら皆私に嘘言を有仰いましたのです、それだのに私は其の貴方の一言、一言を皆信じて…………

イワノフ。 アニウタ、私はお前さんを騙したことはない………

アンナ・ペトロウナ。 五年の間と云ふもの、貴方と一所に暮して、さうして私苦んだり病んだりしては居りましたものゝ、たゞの一分間だつても、貴方を忘れないで愛して居りました……貴方は私の偶像でした……ですのに貴方は奈何なのでせう？貴方はまるで是迄私を欺いてゐらしつたのでした、甚麽にまあ鐵面皮にねえ…………

イワノフ。 アニウタ、それは違ふよ、成程私は間違ひはした、だが、決してお前さんを欺きはしない、私は是迄たゞの一度だつて騙しなどはしない……お前さんはそれについて決して私を責めることは出來ないんだ…………

アンナ・ペトロウナ。 今私すつかり解りました……貴方は私と結婚なさつたのは、父も母も私を許して、私にお金をくれるだらうと思召したのです…………

イワノフ。 そ、それは酷い、それは餘りだ！アニウタお前さんは乾度私の勘忍袋の强いか弱いかを試さうとでも思ふのだらう？（泣く）

アンナ・ペトロウナ。 お默りなさい！持參金がいよ〱無いと解つたので、それでそろ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

〳〵新しい工風を考へ初めましたのさ……今私皆何も彼も思ひ出します、それでよく解りました。(泣く) 貴方は今迄私を愛してはゐらつしやらなかつたのです、さうして私に對しては操なぞと云ふものは無かつたのです……些ともなかつたので御座います!

イワノフ。 サラ、それは僞りだ、何とでも言ふが可いけれど、覺えもない嘘言で私を辱めてもらふまい………

アンナ・ペトロウナ。 なんと、不正直な、卑劣な、見下げ果てた人間……貴方は大方レベデフからの借金を握潰しにする爲に、とう〳〵其家の娘を巧くまるめて、丁度私を騙したやうに、其の娘も騙さうとしてゐらつしやるぢやありませんか、それでもそれが嘘だと有仰いますか?

イワノフ。 (息づかひ荒く) 默りなさい! 私はもう恁うなつて來ちや、自分でも自分が請合はれなくなつて了ふから……餘りいま〳〵しさが込み上げて來て……私は……私はお前に其麼酷いことを言はんとも限らんからな………

アンナ・ペトロウナ。 何時でも貴方は鐵面皮に人を騙すのです、それはたゞ私ばかりぢやないのです……さうして皆、不正直な。酷いことゝ云へば、貴方はよくまあ、あのボルキンに擦附けますね、ですが私、今もうよく解りました、さう云ふことをするのは何方で

すか………

イワノフ。サラ、默りなさいと云ふに、出なさい此の室から、さうでないと私は甚麽ことを思はず口走しるか知れないぞ！　え丶私はもうお前を散々に言懲して、懲拔いて遣りたいのだ……（叫ぶ）默れ！　この猶太奴め！

アンナ・ペトロウナ。默りません！……些とやそつと騙されてゐたのぢやあるまいし、這麽に長い間騙されてゐて、なか〱さうは參りませんよ………

イワノフ。よし、默らんと？（彼は自分を強いて抑へる）あ丶、これ、願ふから！

アンナ・ペトロウナ。何の貴方、さあ、今ゐらつしやいまし、あのレベデフの所へ、さうしてようく騙しておゐでなさい………

イワノフ。い丶かお前はさう思へ……もう直きに死ぬのだぞ……ドクトルは私にちやんとさう云つたのだ。もうお前は直ぐに死ぬつて………

アンナ・ペトロウナ。（どつかりと椅子に腰を下して、まるで力の拔けた聲で）何時ドクトルがさう云ひました？（間）

イワノフ。（自分の頭を兩手に抱えて）あ丶、私は惡いことをした、實に、實に惡いことをして了つた！（彼は聲を上げて慟哭する）

幕

瀨沼夏葉譯

アサシモンズ 表象派の文學運動　（岩野泡鳴氏譯）

有名な Symboeist Movement in Literature の譯書である。譯者はわが國自然主義的表象派の先驅者泡鳴氏である。この書中に出て來る人等はヱルレン、ランボウを初めとしてメーテルリンクを除くの他は皆な所謂デカダンの生粹で、「デカダン」と云ふ言葉を使ふ人は先づこの書物位を讀むでからかれこれ云つてもらひたいものです。この書は原文でもかなり難解な上に、譯し方も泡鳴氏一流の獨特なものなのだから、決して讀み易く「寢ころんで讀める物ではない」名文と云へば必ず流暢なもの位に心得てゐる讀者は讀んで恐らく失望するだらう。譯者も例言中に「譯文の六ケしいのは、原文の語法と發想とを出來るだけそのまま再現してあるからである。その代り、本書の性質と思想とを了解しつつ讀むだけの勞を取れば、思半ばに過ぎるだらう」と云つてゐる。卷頭には讀者のため六號で二六頁といふかなり長い親切な序文があり、卷末にはまた丁寧な索引が附いてゐる。紹介者は近頃面白く讀んだものの中に數へて、是非皆さんに一讀を御勸めします。（定價一圓、新潮社發行）

夢　―三ケ島葭―

難かりしならむとはやもねぎらはる我なほここに惑へるものを

なほつつむ心のあるをたのめればあえかにさびし君がまなじり

なやましき心なるかなおのが身のはかなさを知りすこしなぐさむ

おほよその心か我はとらはれの心か我はひとりなやまし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この心惑へるひまにまだ君を見ることなくば
ここに死なしめ

戀にさへ身の捨てがたきなげきして生くるに
過ぎず醜くかりけり

なやましき心抱きて打むかふ雨夜の暗に浮ぶ
わが顔

北風は死ぬべく我をいざなひぬ君見む春の近
づくままに

何ごとも知らざりし身のあああつひに陥りたる
かあとさきの見ゆ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今はただ問はれて燃ゆる身なりけり心はまづ
ぞ君に答へし
今となり問はでもしるきことを問ふ吸ひ滅ぼ
さむ君が唇
そらごとにあまた揷みし君がみ名一たび近く
呼ばましけれ
そのあたりあまり明るきくやしさにつと別れ
たる秋の川べり
蔓草の黃の枯葉にもよそへられ心くまなく晴
れて別れぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いつまでも我を見つめて立てりしはかの枝ひろき木なりけらしな

昨日までけふの晝まで君と見し山暮れはて雁鳴きわたる

かばかりも誓ひし君がみ心を身のもろさゆゑ夢となすかな

眞晝とてゆるしたまひぬすさめる手つひに捧げぬ我なりしかど

めぐりさす一縷の光暗になほ消えがたかりしおもかげの消ゆ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

惑稍ゆここに二つの道も盡ぐむくろを踏むを
何と知るべき

はてしなきわが悲みをふと掩ふ暗は明るし君
が影かも

湯の如き涙今わく蒼き額夢に蒸されて花とも
咲かむ

みづからを投げいださんと思ふまにうつろと
なりぬせんすべもなし

われはよし君が惜めるたまゆらを幾世と思ひ
生くる身なるも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

日に悲しわが知ることの多きにや君が心のいやまさるにや

われ悲しわれ危しと泣くを見ておもしろしてふ君はあらぬか

戀してふおもたき心身を壓して走せむとすれど立ちがたきかな

まづ消ゆと光も暗も待たざりし命のために冬も逼ひゆく

春の夜の星もて空を境せよ戀しき君と共に住むべく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

靈に――岩淵百合――

あわれなる二つの靈にしらじらと白刄のごとく光るかなしみ
一人あるよりはかなしと君を見てかなしむこころこのごろに知る
かなしくも淚くましきもの疲れ毛糸の針の眼に泌みる夜
初霰石を叩けばわがなげき銀のごとくにかがやきにけり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

紅雀ならびて冬をかなしめり鳥は鳥ゆゑわれはわれゆゑ

あわれなる迷ひ兒となり中空にこのあけくれをかなしめる我

かたわらの素燒の壺にひへびへと冬の涙のしみてわびしき

しらじらと僞をいふ男あり冬のはじめにさく花もあり

ひへびへと冬の涙の身にしみて銀に慘じめる過去のうづまき

つかのまも相離たじと抱きたるこころ奪はる
こころ奪はる
一と筋をたどるをろかさ眼の前の道化役者が
こけ笑ひする
初霙ふる夜はきりり三の絃締むるこころに泣
かまほしけれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

野枝子の動搖に現はれた女性的特徴（梗概）

――小倉清三郎――

「野枝さんは此の夏、その戀人と同棲して居るうちに、他の男から心を寄せられて、暫時の間烈しい動搖を致しました。其の事を「青鞜」の八月號に詳しく語つて居ります。私はエリス先生始め諸學者の研究に照して、野枝さんの此の經驗を吟味し、そこに現はれた若干の女性的特徴に就いて語つて見たいと思つて居るのであります。（小倉）」

事の初まりは六月十三日、解決のついたのが七月の二日、半月余りの間の事柄。

六月十三日に女は、名は聞いた事があつても、一度も會つた事のない男から手紙を受取つた。『私は一應その手紙をよんで見て、何かにハタと躓いたやうな氣持がしました。何とはなしに當惑して終ひました。』斯うして女の心に動搖が初まつた。女はその手紙を夫なるTに見せやうか見せまいかと思つて、暫らく惑ふた。結局見せる事にした。Tもその男に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は會つた事はなかつたけれど、男の書いたものを通して女よりもモットよく知つてゐた。返事を書いたら宜からうと云つた。二十四日の朝、女はともかくも、會つて見やうと思つて、返事を書いた。自分の方の都合などをいつてやつた。その中には『御手紙を拜見して私はたゞはづかしう思ひました。私の幼稚なつまらない感想でも讀んで下さる方があるかと思ひますとふしぎな氣が致します』といふやうな文句もあつた、夕方Tが歸つてくるのを待つて、それを見せてから出さうと思つてゐた。其の内に『若しかして、會つて、反撥し合ふのなら、いゝけれども……さうでなかつた時は？　私はどうする？　そんな事はない、私は、木村氏（男の名）に會つたら先づ、一番に、私がTと共棲してゐるといふ事實を話すことだ』『だけど何だか、もしその上にも私に愛を、持つて呉れて、その人に苦痛を語られたら、たまらない、どうしやう、といふやうた事も同時に思はれて來ました。』なぞと心配した。夕方Tに手紙を見せて投函した。

初めて會見したのが、二十三日の午后であつた。女が校正のため印刷所へ行つて居る所へ男が行つたのである。女はTとの關係を話して終ひたいと思ひながら、到頭口を切る事が出來ずに仕まつた。ともかく女はその會見の際には深い印象を男から受けなかつた。

二十四日の朝、男から第三の手紙が來た。（第二の手紙は會見の時日の取り極めに關する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ものであつた。それは十八日に着いた。）それは可なり長い手紙であつた。この手紙を讀むまでは、女の動搖は左程ではなかつた。この手紙に依つて、女は急に烈しく動かされだした『私はこれほどに手強くかかつて來られやうとは思ひませんでしたので少からず驚きました。』それにしても先日自分でTとの關係を話さずにしましつた事が大變惡かつたと思つた。自分でいふ丈けの事を云はなかつたが爲めに、こんな手紙を男に書かせて了つたといふ事が『大變に申譯けのないやうな氣がしてヂッとしてゐられないやうに焦ら〳〵して來たのです。』女はその手紙に就いて他の何事をも思ふ間がなかつた。『すぐと』返事を書いた。其の手紙の初めには『御手紙拜見いたしました。そして私はあのお手紙の全面に溢れたあなたの力強い眞實に強く接しました。同時に私は何とも云へない形容の出來ない苦しい氣持ちになりました。』といふ文句があつた。女は昨日云ふ可き事を、いはずに終つたお詫びを述べ、それから自分の特殊の生立ちや、Tとの關係や、男に對する自分の心持などを述べた。隨分長い手紙であつた。其の中には『私は今日のあなたのお手紙の一字一句をも深い理解と同情をもつて悉くうけ入れる事が出來る力強さを持つて居ります。自信が御座います。それだけにまた苦しう御座います』といふやうな文句もあつた。書いて仕まつて女はもう一度讀み返した。可なり落付かないイラ〳〵して書いた跡が見へるので耻かしくな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つた。けれどもそれを書き直す勇氣はなかつた。出さうか出すまいかと幾度も思つた。ともかくTに、一度見せやうと思つた。そうして居るうちに。又た男から手紙が來た。（第四の手紙）其の中には『實は私は何れあなたの手を執りたいとしてゐるのです。』など云ふ文句があつた。幾時間も經たないうちに、再び烈しい刺激をうけて、女は一層烈しく擾亂された。『私はこの手紙をよんでしまつた時に、もうどうしていゝのか分らなくなつてしまひました。何だか恐ろしくなりました』『向ふから遠慮もなく、グン／＼自分の生活の中に、押よせてくるやうな氣』がし出した。『眞面目な或る力がだん／＼自分の周圍を、取卷くやうに』思はれて來た。『何かに逐はれてゐるやうな壓されてゐるやうな氣持になつて、耐らなく』なつて來た。自分の書いた返事をも、男の手紙をも机の上に放り出したまゝ外に飛出した。何かしら息をもつかせないやうな氣分が、後から追つてくるやうで、無茶苦茶に歩いて、自宅から數町を隔てた青鞜の事務所へ行つた。

　歸つて見るとTが歸宅してゐて、女の書いて置いた返事を讀んでゐた。女が這入つて來るのを一寸振向いて見たTの顏は何とも云へないほど險はしい、苦しさうなもの』であつた。女の感情が一時にぐつと込み上げて來た。思はずTの手から、其の返事を引たくつて、しつかりその身體に抱き付いた。悲しいのか、苦しいのか、恐ろしいのか何とも知れない涙

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が止め度もなく流れた。

翌朝、則ち二十五日の朝また男から手紙が來た。女は『豫期しないではなかつたけれど、何だか耐らない樣な氣』がした。その中には『直接に言ひます。私は烈しくあなたを戀するやうになるかも知れないと思ひます』『ほんとうにいゝ婦人として、それをお受けとりなすつて下さい』などいふ文句があつた。女はそれへズーッと目を通した丈けでは、何の事だか解らなかつた。女の頭は何かに蔽はれて了つたやうに眞暗になつて終つた。校正に行つて歸つてくる間も、始終『眞暗なものが、重いものが、頭を上から壓へてゐるやうで』何にも他のことを考へる事が出來なかつた、歸つて見ると又、そこに男から手紙が來て居つた。女は息が塞つて終ひそうになつた。二十分も經つてやつとの思ひで、その手紙を披いて見た。それには『僕ははじめからしてあなたを愛しろと何かに命ぜられてゐるやうな氣がします。僕はお手紙を頂いた瞬間にあなたがいゝ方である事を信じました。』などいふ文句があつた。女は擾亂の絶頂に達した。目が眞暗になつてしまつた。疲れた頭がきしむやうに痛くなつた。もう何にも見えなくなつてしまつた。『嵐のやうに狂ふた感情を、强ひて沈めるでもなく、夢中にペンをとつて』返事を書いた。その手紙の中には『私はあなたのお言葉の一句々々にも氣が遠くなる程の力强さを覺えます。こんな眞實なそして力强い愛

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を語られる私は本當に幸福だとしみ〴〵思ひます』あゝ誰が――あなたの愛を却け得ませう。私は心からあなたを愛します。』などいふ文句があつた。それは二十五日の夜の九時であつた。女は殆んど夢中でそれを書いて、讀み返す苦しさに耐へないで、昨日書いたのと一緒に堅く封じて、直ぐに寢て仕まつた。疲れてゐたので翌朝はかなり遲く目がさめた。校正に出かける時に、出さうと思つて手紙を持つて出た。けれどもその時に、前夜の苦しい氣持ちやなんかは忘れた樣に遠い〳〵事のやうに思はれた。前夜何を書いたかもハッキリ覺へて居なかつた。

女の動搖は二十五日の晩に其の極點に達し、女はそこで疲れて終つた。それ以後は、最早二十四日二十五日の劇しい動搖の餘波に過ぎなかつたのである。それはその後の經過を、吟味すれば解つて來る。ともかく爰までが、この事柄の第一段である。私は先づこゝまでの經過の中に表はれた若干の女性的特徴を検べて見やうと思ふ。

女は物理的刺激に對しても、心的刺激に對しても、反應が男よりも早い、かゝる反應が感動と云はれて居る。女は男よりも感動が大きいのである。此の事はいろ〳〵の形に於て現はれて居る。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女が男よりも感動し易いといふ事は、女がより多く情的である事を示してゐる。情は腦に於ける現象ではなくして、内臟血管及び筋肉に土臺を有する現象である。女に於てはこれ等のものが、男に於けるよりも、刺激に對して反應することが早いのである。これはわけても心臟の鼓動の變化に於て、見易いやうに示されて居る。

女の心臟は男の心臟よりも昂奮し易い。野枝子の動搖の過程に於ても此の特徵が、著しく表はれて居る。

「私はもう息もつまりさうなので」(一二二頁)
「私はもう息がつまつてしまひさうなのでそのまゝ其處に横に倒れて」(一二九頁)
「私は思はずTの傍にすりよつて息をつまらしました」(一三九頁)
「私は何かに逐はれてゐるような、捕へられて、締めつけられてゐるやうな苦しい氣持に、床の中から迎へられました」(一四〇頁)

女には男よりも痙攣的傾向が多い。これは女に癲癇が多いといふ事に依つても示されてゐる。癲癇はザッと云へば、極めて烈しい血管運動及び神經筋肉痙攣である。(Ellis)。感動が異樣に強い處から來るのである。

女が男よりも涙を流し易いのも、笑ひ易ひいのも、女に痙攣的傾向の多い事を談つてゐ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る。これも亦感動性の大きい處から來て居る。

野枝子に於てもこの傾向が著しく表はれて居る。（第二段に於ては最も著しく表はれて居る。それは後に述べる）

「大變に申譯けのないやうな氣がしてヂッとしてゐられないやうに焦り〳〵して來たのです……私は直ぐと机に向つて返事を書いたのです」（一〇八―一〇九頁）

「机の上に投り出したまゝ外に飛び出しました……（一一二頁）」

「さう思ふと、私はまたせか〳〵歩き出したのです」（同上）

「さう考へてゐますと、私はもう苦しくなつて來て大急ぎで歩きました。」（一二二頁）

「家の前まで來ますと、いつものやうにジョンが飛びつきましたが、私はもう息もつまりさうなので、邪險に突きとばして家の中に駈け込みました」（同上）

「感情が一時にグッと込み上げてきて、私は、思はずTの手からその返事を引つたくつて、しつかりその躰に、抱きつきました」（同上）

「夢中にペンをとつて、書きました」（一三二頁）

「私は思はずTの傍にすりよつて」（一三九頁）

「私はもう苦しくなつて來て、いきなり、筆をとつて」（一四三頁）

腹立ち易い事も女に多い。これも亦感動性の大きい所から來る。牢獄に於ても、精神病院

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に於ても、これがよく表はれて居る。精神病院の女の病室は、男のよりも十倍も騒がしい。(Crouston, Loggi)。痙攣的な破壞的暴行も女に多い。それ等も女の腹立ち易いところから來る。別けても月經中には、此傾向が著しい。(Nacke)。野枝子も此の傾向を現はして居る。

「いつものやうにジョンが飛びつきましたが、私はもう息もつまりさうなので、邪險に突きとばして」(一一二頁)
「思はずTの手からその返事を引つたくつて」(一一二頁)
「いはれもないいたづらをされるやうに思へて、腹立たしくもなりました」(一一二頁)

女に於ては反射運動が、男に於けるよりも發達して居る。廣い意味で云ふ、くすぐつたがる事が、女に多い。腹をくすぐつて見ても、足の裏をくすぐつて見ても、女がより多くくすぐつたがる。(Gina, Lombroso) 眼前に不意に、何物かを差し出す時に、眼瞼が反應する工合、即ち反射的の目ばたきを見ても、それが女に多い。(Portridge) 反射運動が、女に於てより多く發達して居るといふ事は、女の感動性、及び痙攣的傾向の、土臺の一つとなつてゐる。

恐怖も女の方に遙かに多い。之れも野枝子によく現はれて居る。

「私はこの手紙をよんでしまつた時に、もうどうしていゝのか分らなくなつてしまひました。何だか恐ろしくなりました。寸時もだまつてゐられないやうな氣がし出しました」(一一一頁)
「何かに逐はれてゐるやうな壓されてゐるやうな氣持になつて、耐らなくなりましたので」(同上)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「それからまた、恐ろしい力強い、氣狂ひか何かにしつかりと抱きすくめられてしまつたやうな、あがきのとれない苦しい氣もして來ました」(一二二頁)

「左の手でおさへてゐる額のあたり、指の下あたりから恐ろしい激しい影が動いて目がまつくらになつて」(一三二頁)

「私は思はずTの傍にすりよつて息をつまらしました。何だか無茶苦茶に恐いのです」(一三九頁)

男はより多く熟考的である、女は、より少く熟考的である。

其れから女は知覺する事も早く、行動する事も早い。(Romones)

野枝子は、此の動搖の全過程に於て男に對し、四つの返事を書いた。その中の第一は、最初男から手紙を貰つて、其の次の日に書いたものである。彼女がいくらか考へて書いたのは、此の返事だけである。その他の三通は、就れもよく考へて、書かれたものではない。殆ど反射的に書いて居る。

「大變に申譯けのないやうな氣がしてヂツとしてゐられないやうに焦り〱して來たのです。私はその手紙について他の何にも思ふまがありませんでした。私は直ぐと机に向つて返事を書いたのです」(第二の返事)(一〇八頁)

「夢中にペンをとつて書きました」(第三の返事)(一三二頁)

「私はもう苦しくなつて來て、いきなり、筆をとつて」(第四の返事)(一四三頁)

以上は就れも感動性の現はれ、若くは其土臺となつて居る所のものである。何れも男より

も、女に於て著しい現象である。又野枝子の「動搖」に於て、著しく現はれて居る現象である。

感動性が大きいといふ事は、反應の早いことを云つたものである。反應が早いといふ事は、疲勞し易いことと關聯してゐる。女は感動性が大きいと同時に、疲勞することも早い。女が疲勞しやすいと云ふ事は、又いろ／＼な形に於て表はされてゐる。

女は力を出して終ふ事が、男より早い。力量を試驗する時に、女は第一回の努力に於て、其の力の最大量を出して終ふ傾きがある。男には第二回目に初めて、其の力の最大量を、出すものが多い。(Riccardi)

女は有る丈けの力を出して終ふ生れ付きの傾向を持つてゐる。(Féré)

女は男ほどに耐久力を持つてゐない。之れは郵便局等に於て、女の仕事の特徴となつて居る。普通の場合には、女が男と同樣に働けるけれども、烈しく多忙な時にはそれ程に働けない。耐久力が少いといふ事は疲勞し易い事に他ならない。(Ellis)

女の血液には男の血液に於けるよりも、白血球が少ない。即ち女の血は男のよりも、水分に富んで居る。云ひ換へれば、女は男よりも貧血である。貧血は感動性を大きくする。從つて疲勞性を大きくする。

大きな感動性を表はした野枝子は、著しい疲勞性を表はしてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「すつかり疲れて、頭が重くなりましたので私は寢すみました」（二十五日の晩）（一二四頁）

「殆んど夢中でこれだけ書いた私はよみ返す苦しさに堪へないで昨日書いたのと一緒に固く封じてしまひました

…………

私は直ぐに臥りました。もう何にも考へたくなかつたのです。一時間ばかりはどうしても目が眠れませんでしたがそれでも何時となく眠りました。（二十五日の晩）

疲れてゐましたので翌朝はかなり遲く目覺めました。

…………

出掛ける時に今日は、この手紙を出してしまはうと思ひまして、持つて出ました。その時は、もう昨晩の苦しい氣持やなんか忘れたやうに、遠い〳〵事のやうに思はれました。昨夜何をかいたかもはつきりは覺えてゐませんでした」（二十六日朝）（一三四—一三五頁）

二十五日の晩にはあれほどの烈しい手紙をかきながら、一晩寢つて次の日になつて見るともう何を昨晩かいたのか、昨晩の自分の氣持が、どんなであるかを忘れてゐる。彼女の感動が如何に大きかつたか、それに伴ふ疲勞が如何に大きかつたかが察せられる。

要するに野枝子の動搖は、此の場合に於ける彼女の感動性と疲勞性とが甚しく大きかつた事を示してゐる。疲勞性が大きいと云ふ事は、此場合に於て感動性が大きい事と關聯して居るのであるから、結局これは彼女の感動性の大きかつた事を示して居るのである。されば彼女の此の經驗は、感動性が大きいと云ふ女性的特徵が著しく表はれたものに他ならない。

但し此の場合に於て、見のがしてはならない事は、彼女の此の特徵が此の場合に於て常よりも大きくせられて居つたといふ事である。彼女は當時、姙娠七八ケ月の狀態に於てあつた。且つ時は六月の後半であつた、新しい暑さが强く感ぜられる頃であつた。此狀態も、此の時節も、共に感動性を大きくするに、力を添ゆるものである。前者は全く女性に特有の狀態であり、後者は今迄の硏究に依つて見れば男よりも女に對してより大なる影響を與へるらしいものである。(Morelli Ellis)。されば元來存する感動性が、女に特有の此の狀態と、女に特に影響するらしい此の季節の働きとに依つて、一層大きくせられたらしいのである。

併し野枝子が此場合に於て、如何に大なる感動性を有して居たにもせよ、刺戟なしには、動くことは出來なかつたのである。然らば如何なる刺戟が、如何なる點に於て、彼女を動かし始めたのか、これは更らに進んで、探し出さねばならない點である。私は第二段を吟味し初むる前に、此の點を檢べて見たいと思ふ。これまでの處はどちらかと云へば、より多く生理的現象に近かゝつた。今度はより多く心理の現象である。(以上第一回分梗概)

——未　完——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

嘉悦孝女史に(清)　武者小路氏に(野枝)　こんな頭其他(らいてう)　野上氏の「指環」(野枝)　等

□過日國民新聞紙上「男子貞操論」中で嘉悦孝女史の意見として、男子が血族保存の目的で蓄妾するのは止むを得ない事だと云はれた。尤も女史は自ら古い女だと云つてゐられるのだから、こんな婦人として同性を侮辱した意見を臆面もなく發表するのだらうけれど、古い女としての解釋にしても今少し眞面目な女性を侮辱しない程度で考へてみられない事はあるまい。

女史は結婚と云ふ形式を只子孫を生む手段或は目的より外に何物をも認めてゐないのであらう。だから妻は只其目的を良人に與へられない場合は、二人でも三人でもに良人の肉體を分與されても仕方がないものだと云ふのであらう。女史から見れば妻さ云ふものは魂のない生き人形で、蜜蜂の雄のやうに種の繁殖を司どるより外に人間としての感情も慾望も持つてはならないものだと思つてゐられるのだ。私は女史自ら女性でありながら、女性をかく迄下落さして考へて何の屈辱も感じてゐられないのが不思議でならない。

然しこれは恐らく女史の偽はらざる内心の聲ではあるまい。只婦人教育家としての弱い立場から餘儀なくされた偽善的發表であらう。でなければ何故婦人に職業を與へるための女子商業學校を起したのか理由が解らなくなる。若しこれが結婚しない婦人、人間として獨身で生活して行く婦人のために設けたのださするなら兎に角、女史の主意はあながちさうでもないこさは其學生達からもれきく所である。即婦人としては結婚して妻となるのが順境な立場であること、職業教育は獨身婦人を作るのが目的ではなく、妻としても必要な修養であると常に教訓されてゐるさ聞いた。さすれば女史も亦妻さして家庭の用事にばかり沒頭するより他に妻の仕事はないさは思つてゐられない證據ではあるまいか。女史にして若し自ら云はれる如く眞に古き時代の女とした主張から出發するならば若い婦人等に何故第一に結婚教育を授けないのか。血族保存が人生の第一義として、その目的のためならば、妻たるものは愛の分割をも忍ばなければならない程重大なものとするなら、妻となるべき婦人を養成する目的の學校を起さなければならない筈である。職業教育は此主意から云へば第二第三の問題に置いてよいわけである。然るに女史は一方に近代の時世に適應した婦人として同時に人間としての教育を若き女性に授けながら、一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

方には非近代的の婦人犠牲主義の血統保存を主張されるのは甚不徹底な意見である。つまりお上手主義の衆俗にこびた意見である。頑迷な一部の男子の同情を得ようとする最も卑劣な意見である。私は大正の御代にかう云ふ女史のやうな婦人教育家があることを若き日本の女性達のために甚だ不幸だと思ふ。

□世間には往々貧乏を一種の誇りとしてゐるものがある私はこれは甚だ間違つた事だと思ふ。境遇上餘儀なく貧にゐるのは止むを得ない事だけれど決して貧乏が人間の高德ではない。物質的にも精神的にも慾望の多いのが人間の人間らしい價値のある所である。若し人間が寡慾を以て比較するなら結局アミーバには及ぶまい。私は人間が今日のやうに他の動物より優秀になつたのは他の動物等より慾望が多かつた結果だと思ふ。然るに今更他の劣等な動物等をまれて慾望の少ないのを誇りとするのは極めて愚な事である。

私は衣食住を出來るだけより好くすることは立派な事業だと思ふ。私は自分が創作や言論をする時と同じ眞面目と努力を以て其日其日の暮し向きに就て考へてゐる。友人親族などに助けを乞はず自分達二人の生活を二人の手で成し遂げようと心掛けてゐる。

此頃田村俊子氏から頂いたお手紙の中に「生活に追はると云ふことはたいへん樂になります。私は働くと云ふことの上からたいへんな自覺を得ました」と云ふことが書いてあつた。私もさう思ふ。生活に對して眞面目に責任を感じる人でなければ、眞の生きた血のほどばしる藝術は作られない。生活の苦闘を切りぬけて來た上の思想でなければ眞に價値ある思想ではない。

(清)

□「武者小路氏に」十二月號白樺の誌上で私が「世間知らず」を輕蔑してゐるさうだとのことをお書きになつたのを拜見して私は本當に意外に存じました。本當に心外に思ひます。

私は他人の作品に對して無暗とさう輕蔑したり惡く云つたりしたことは御座いません。何時でも私は自分で創作するときの氣持や何かに思ひ合はせては他人のものを讀んだり批評したりする時にはどんな小さなつまらないものに對しても相當の敬意を拂ふことは忘れません。殊に私はもうずつと以前からあなたのお書きになるものは可なり深い注意と尊敬をもつて忠實に拜見して居ります。だのに私が「世間知らず」を輕蔑したなんと云はれることは本當に意外で御座います。

私はO子氏に對しては仰しやる通りに或る侮蔑を持つて居ります。然しそれは、あなたには些の關係もないO子氏で御座います。私は「世間知らず」後のO子氏は存じません。「世間知らず」以前のO子氏に對しては

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

到底多少の侮蔑の念を持たずにはゐられません。私にとつてはそのC子氏さくらべられるこさは本當に不快で御座いました。ですからその通りのことを書きました。然し今考へて見ますと私はその發表するときに僅かな不注意の爲めにあなたに抗議を申込まれるやうなことを書きました。「動搖」の中に「白樺のm氏と可なり青鞜社でも迷惑を感じたC子氏さの戀にくらべられたのは不快な氣がした云々」と云ふのがそれです。あれを書きますときの私はかなり激してゐました。そして急ぎました。ですからさういふ局部々々に深い注意を拂つてゐる餘裕がなかつたので御座います。併し私がこうかきましてもあなたはそれが卑怯な言ひのがれか淺薄な辯解としかお思ひにならないでせう。でも事實はさうなので御座いますから─私の輕蔑するC子氏はあなたにも「世間知らず」にも關係がないことを御承知置き下さいまし。

それからまたあなたは私とTのことについてお書き下さいましたが何のことだか私はその解釋に苦しみます。あなたは私共の生活についてあゝ云ふとを憚らず仰しやれるほどよく私共を御存じですか、私共の生活を御存知でゐらつしやいますか、私共の生活を知るものは私共二人きりで御座ひます。私はあゝ云ふことを書かれるのが一番不快です。それは丁度あなたが「世間知らず」を輕蔑してゐるさお聞きになつたときの不快さと同じだと私は存じます。吃度あなたは私に對して「世間知らず」に表はれた事柄を本當に理解することも出來ないで輕蔑するなんて失敬だと云ふやうなおつもりだらうと存じます。だのに本當に解りもしない私共のことについて彼是仰しやればつまりはいたちごつこになつてしまふでは御座いませんか。

それから「女らしくい丶加減な處で考へを止めて置くから他人の心持ちに同感することが出來ないのだ」と云ふやうなこともあなたの感違ひから出てゐるのです。あなたは第一女と云ふものを輕蔑してかゝつてゐらつしやいますから癪に障るのです。あなたのゐるまはりにはどんな女の方達がゐらつしやるか存じませんが吃度狹量な何の考へもない淺薄な方達ばかりだと見えます。そう云ふ方達を標準にして何か仰云るから駄目なのです。いゝ加減な處で考へを止めて置くと云ふやうなことは自分に對して忠實なものには出來ませんあなたの標準にとつてらつしやるやうな女には第一自分の人格なんかもつてゐるんでもないしまた、物を考へることすら出來ないのです。考へることが出來る程ならいゝ加減な處で止めておくことなんか出來る筈がありません。大抵の人はあなたの所謂いゝ加減の處から先に考へを進めることが不可能なのです、さう云

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふ女たちの前も後もない淺薄な狹量な妬みと云ふ程の意味から無暗と人の事をけなしつけるそれと同一のものと見られてはたまりません。

勿論私はあなたに輕蔑されやうと尊敬されやうとそんなことには何の頓着も御座いません。私は私だけの運命を信じて進みます。

「無用な處に引つかゝつて云はなくてもいゝところに子に對する女らしい侮蔑を見せたがるので不快を感じたと」云ふお言葉では一層なんだかあなたの方が狹い御了見だと云ひたくなります。決して云はなくともいゝことではないのです。私は自分の感じたことを卒直に書きました。無用な處に引つかゝつた譯ではありません。あなたこそ本當に無用な處に引つかゝつてつまらない侮蔑を見せたがつてゐらつしやるでは御座ひませんか。(野枝)

□以前は年の暮れだの、お正月だのといふと色々特別な感慨に打たれたものだが、此頃は横着になつたのか、別にふだんと變つた感じも起らない。矢張り同じやうなことを同じやうに考へたり、感じたりしてゐる、だがこの例のいまはしい頭のことを考へると、三百六十五日朝から晩まで苦しめられながらも愚痴もこぼさず堪へて來た自分が妙に可哀相になつた、指を折つて見るとこの絶え間ない頭の壓感と、振盪と恐ろしい程ギ〳〵と鳴る音とに惱まされだしてからもう五年あまりになる。これぢやあたまらない。たまらない。ああもういやだ。この頭で何が出來やう。駄目だ、駄目だと思ひ續け乍ら、でも五年を辛抱して來たのかと思ふと自分ながら驚かれもする。この上何年こんないやな狀態が續くことだらう。來年も、また、さ來年も。かう思ふと私はほんとうに苦しい。つく〳〵いやにもなる。何かにたたきつ付けて粉微塵に碎いてやつたら、どんなに快からう。始めの中こそ周圍の誰れ彼れに苦痛を訴へてもゐたけれどかう何年も續いちや人だつて相手にしないのは當然である。最初は母はじめ、友達も心配もし不思議がつてもくれたけれど今ぢや音がすると又か、又かと云ふ位だから苦痛を訴へる氣などなくなつた。そしてどんな時でもぢつと獨りで堪へることにして仕舞つた。けれど實際はたまらない。この爲めに自分の氣分なり、氣質なりがどれ程影響をうけてゐるか、自分の仕事はどれ程妨げられてゐるか、私はほんとうにいやになつて仕舞ふ。これが治らないことには私は何もほんとうのことが出來ないやうな氣がする。今、年の變り目といふやうな時だから二六時中私の上におひ被さつてゐたこの重荷に就いてこんな聞き苦しい愚痴を一まとめにして、一年に一度こぼして見たくなつた。私だつてほんとうにもうこれには飽き飽

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

きしてゐるのだから。けれど私の生きてゐる限りはなほも絶えずこの頭の苦痛と戰はければなるまい。私は私の苦痛の住家であるこの打碎きたいやうな頭を使つて出來る丈の私の仕事をしなければならないのだ。そして生きなければならないのだ。來年も又さ來年も。

□世間は私の大切な弟が私を愛し、私が又弟を可愛がつてゐる爲めに弟に僅一間の住家をさへも與へることをしない。私は私のために住家を失つた弟を氣の毒に思ふ、と同時に私が屢々出入したり、ふたり連れ立つて近所を散歩する爲めに、人々の注意をひき、つまらぬ噂を生んだことに不安を起し、もしや自分の家が新聞にでも出されやしないかとの杞憂から立ちのきを請求した貸間人や、さうした世間の人達を今更のことでもないが不快に思つた。世間は私が人を愛さうとする自由さへも妨げやうとするのだらうか。殊に私の訪問をああ迄迷惑に感じながら、恐れてゐながら、私の顔を見ると取りわけ笑を浮べ世辭を並べて迎へ入れるあの女主人の虚僞の面が腹立たしいよりも憐まれて來た。私共はもう逢はずにゐるといふことが可成りの努力を要するやうな間柄になつてゐるのだ。私はこの半年、自分の中に今迄知らなかつた色々な自分のあることを、未知の世界のあつたことをあの弟によつて、弟を愛することによりて經驗させられてゐるのだのに。私は弟が家を立ちのこうとする時、弟にかういつた、「あの壁一杯にどうしても落ちない油繪具でふたりの接吻してゐる處を書いていらつしやい」(らいてう)

□野上彌生氏の「指輪」(中央公論)久しぶりの御作の故か十一月の創作中で一番期待したものだつた。讀んでしまつて後、先づ女らしい情緒が活る處に少しの嫌味もなくなだらかに出て素直な處が氣持よく感ぜられた。物の觀方考へかた細かな筆致、描き出された情景、すべての點において、優さしい女らしさを失はない作だと思つた。その點に於て私は婦人作家のうちでこの位美しい純な作をものする人はあるまいと思ふ。

讀賣新聞で中村孤月氏の、この作に對する評をよんで私は本當に不快に思つた。この評ばかりでなく一體中村氏は、馬鹿に鼻づ張りの荒い批評家だ。鼻つ張りの強い人にかぎつて内容は何にもないものだ。中村氏の亂暴きはまる批評を讀んで不快な感をもつ人は恐らく私一人ではあるまいと思ふ。それだけ氏の批評は權威を失つてゐる譯だ。あの無反省な傍若無人な態度は氏自身を辱めるものであると云ふことにすらお氣がつかないのかと思ふと「氏の爲めに悲しまざるを得ない」と云ふやうなことも云つて見たくなる。

それを別として、この野上氏の「指輪」など評する資格

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は中村氏には與へられてゐないものだと私は思ふ。何故なら中村氏は女を無視してゐるのだ。女の生活を無視してゐる。無視してゐると云ふことは同氏には女の生活が解らないのだ。女の生活を御存知ないのだ。同氏は「女と云ふものはいらないものだ。何故男が子供を生むことが出來ないのだらう……女と云ふものはあんな下だらない仕事をする爲めに生れて來たるのだ……」と云ふやうな亂暴なことを云つてゐる。また少數の文藝などに趣味をもつ女はいくらか男に近い思想なり趣味なりがあるので侮蔑しないと云つたやうな意味のことを云つてゐる。私はこんな途方もないことを云ふ人が比較的我々に近い處にゐると云ふことが不思議なやうな氣がして馬鹿々々しくなつてしまつた。

　こんな人にどうしてこの作なんかゞ解らう？　私はこんな僭越な人はないとつく〴〵思つた。氏には男子の書いたものゝまねをした、我々から見て何の價値も興味もないつまらないものがお氣に召すのだらう。深い氣持を味ふことは出來ないとは何の意味か？　平坦に書きならしてはあるが我々にはあの作に表はれた女の日常生活の中からいろんな興味深いものを取り出すことが出來る。

批評家は、寛く深い萬遍なき理解を有する人でなくてはならぬ筈である。中村氏の如きは狹い〴〵自己の或る心持を標準として批評する人である。かう云ふ小さな愚かな批評家は遠慮なく葬つてしかるべきである。

（野枝）

□大正二年もとう〴〵暮れてしまつた。此一年間は私にとつても青鞜社同人にとつても色々の經驗と動搖とがあつた。伊藤野枝子氏は若い母親になつたし、私も近々母と云ふ感情を經驗することが出來る準備が此年に起つた。平塚明子氏は赤城以來可愛いゝ弟が出來て氏の生活の一部に多少の變化があつた。保持研子氏は此年今迄の職を辭して全然社の經營に一身をゆだねられたし、小林歌津子氏は身長の延びられたと共に其江戶趣味もます〳〵圓熟して來た。誰れかゞ、歌津ちやんもおとなになつたと評したのはほんとに適評だつた雜誌の上ではほとんど飜譯ばかりだつたので創作品の中では特色のあるものが見當らなかつたのは少し殘念だつた。社の事業として第一番に開いた講演會が一部の頑迷な新聞記者等の無理解な嘲笑の筆で迫害されたゝめ次て起さうとした研究會も一時中止することになつたけれど、其餘力は同人各自の內面生活の充實に力を專らにする餘暇を與へたのは却て塞翁が馬の幸ひだつた。大正二年よ、私は更めて此私達の同人に樣々の人生を經驗さした事を感謝する。けれど私はもう過ぎ行くものに回顧する暇はない。私はあなたと別れる、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そして新らしい三年に向つて新らしい經驗と、新らしい人生とを見せてもらふために喜んで進まう(岩野清)

□十二月號の瀨沼氏の「イワノフ」は方々に甚い誤植がありました。同氏に對しても誠に申譯なく思つて居りますどうぞ御許し下さい。

□野枝さんも私も今度の「ウォーレン夫人の職業」の合評でヰヽーとウォーレン夫人に就いてばかり書いて仕舞ひました。そして他の人達のことはとうと書けず仕舞ひになりました。けれど私はフランクのこと殊にヰヽーとフランクとの關係、今迄の小說や戯曲の中にあまり現れてゐないあの男女の關係—普通戀愛關係でない—について考へて見たいと思つて居ます。次號あたりで書かうかとも思ひます。野枝さんも書きたいと云つて居ます。(らいてう)

□補助團會費未納の方は至急御拂ひ込み下さい。振替で願ひます。

□購讀費未納の方も至急御拂ひ込み下さい。矢張り振替で。

□山田氏澤の獵人、牧田氏、濱野氏の小說、其他延着、譯は編輯上の都合で次號に廻しました。

□上野葉さんが御大病であつたため御作にこの年はあまりに接することの出來なかつたのか何となく淋しい氣がいたします。

□野枝子の「動搖」に現はれた女性的特徵は小倉淸三郎氏の相對硏究會に於て同氏が講演せられたもの梗概でございます。本誌にのせることを御快諾下さつたことを同氏に深く感謝いたします。

□中野氏と保持氏とで御幸足袋といふ足袋を賣つて居ります。本社の事務所宛に御注文下されば御送りいたします。

□事務所がどうも物騷で、この間はとうと「ドロボー」にやられました。小母さんはとんだ散財をしたのでお正月が出來さうもないと言つて居ます。で、今度二町程隔たる江戸橋のさきに引越しました。巣鴨町一一二七

寄贈雜誌

モザイク	ホトトギス	創作	サンデー
中央公論	早稻田文學	生活と藝術	スバル
婦人評論	みづゑ	假面	創造
藝文	心の花	六合雜誌	處女
新人	新女界	近代思想	詩歌
クワルテツト	第三帝國	婦女新聞	歌舞伎
みやこ	美の廢墟	自由講座	とりて
層雲	自由評論	女學世界	新小說

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

白樺　新潮　帝國文學　三田文學
相對　河鹿　婦人國　わか木
支那と日本　新佛教　とりで公演號　塔
日本民族　樓　魚　秀才文壇　近代
エゴ

寄贈書籍

一、性的特徵　エリス著　小倉清三郎譯　丁未出版部發行　定價壹圓五拾錢
一、ギヨオテ傳　森林太郎譯　富山房發行　定價一圓三拾錢
一、フアウスト考　森林太郎著　富山房發行　定價壹圓三拾錢
一、紅玉　泉鏡花著　植竹書院　定價五拾錢
一、表象派の文學運動　アサシモンズ著　岩野泡鳴譯　新潮社發行　定價壹圓
一、近代思想と實生活　岩野泡鳴著　東亞堂發行　定價壹圓八十錢

移轉

府下巣鴨町
一二二七
青鞜社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

賀正

平塚明
保持白雨
小林哥津
伊藤野枝

賀正

青鞜社補助團

補助團會員御中

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社概則

第一條　本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的とす。

第二條　本社を青鞜社と稱す

第三條　本社の事務所を東京府下巣鴨町一ノ一六三に置く

第四條　本社は係員、社員、贊助員よりなる。

第五條　本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、每月一回機關雜誌青鞜を發刊すること。「青鞜」には係員、社員、贊助員の生活及思想を發表す。(但し補助團員の寄稿を發表することあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。

(但し贊助員は出席隨意たるべし)

一、每年一回大會を開くこと、大會には贊助員を招待し講話を請ふことあるべし。

一、時に旅行を催すこと。

第六條　係員、社員、贊助員は女子に限る。

一、本社の事業を達するため別に補助團を組織す。

第七條　係員は本社の目的に贊同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして専ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己にその責任を負ふものとす。係員は每月「青鞜」の配布を受く。

第八條　係員は在京社員の中より選擧す。

第九條　係員は四人とし、内二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條　每年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選することを得

第十一條　係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條　社員は本社の目的に贊同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「青鞜」の配布を受く。

第十三條　社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齢の外に履歴の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と(小說、戲曲、感想、詩歌、評論、飜譯いづれにてもよろし。)最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條　贊助員は本社の目的に贊同し、雜誌「青鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先輩とす。贊助員は每月青鞜の配布を受く。

第十五條　本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條　補助團員は補助團規約によつて募集す。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は(東京二一、一一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る(但し一割增のこと)。
■編輯事務、雜誌購讀、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■販賣に關する一切の事務は尙文堂へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正二年十二月二十八日印刷納本
大正三年一月一日發行

東京府下巣鴨町字巣鴨一一六三
青鞜社內
編輯兼發行人 中野初

東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷人 中山千二

東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷所 大正社

禁轉載

發行所 東京府下巣鴨町字巣鴨一一六三 青鞜社 振替東京二一一一六番

發賣所 東京市神田區南神保町十六番地 尙文堂書店 電話本局四二五四番 振替東京一九三四四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

會員募集

青鞜社補助團規約

一、青鞜社補助團は青鞜社の事業を完成せしめんがために經濟上の補助をなすを以つて目的とす

二、本團は其目的を遂行せむがために理事一名、外に會計主任及係員を置き一切の業務を處理せしむ。

三、本團は左の方法により九月一日より十二月卅一日迄會員募集をなす。

1、甲種會員　一ケ月會費　壹　圓

2、乙種會員　一ケ月會費　五拾錢

四、本團の會員たらむとするものは其目的に贊同し、第三條の會費を入會の月より滿貳ケ年間納むるものとす。

（但し會費領收は青鞜紙上に發表し、別に領收書を出さず）

五、本團は會員に對し青鞜社發行の機關雜誌「青鞜」を毎號贈呈す。

六、甲種會員には會費全納後なほ滿貳ケ年間は雜誌「青鞜」と青鞜社出版圖書とを其都度贈呈す。

乙種會員には滿貳ケ年間雜誌青鞜のみを贈呈す。

七、本團會員は甲種なると乙種なるとに拘らず、女子に限りて「青鞜」に寄稿し得るの特權を有す。

但し寄稿が二回以上「青鞜」紙上に掲載されたる場合は本人の希望により相當の手續きを經て青鞜社の社員たる事を得。

八、入會申込者は期日内に左の書式により府下巣鴨町、一一六三青鞜社内青鞜補助團宛に申込まれたき事。

會費は毎月五日迄に振替口座東京貳壹壹壹六青鞜社内補助團宛に拂込まれたき事。（郵券代用一割増）

但し會費未納者には本團より集金人を差向くる筈。

九、會費は大凡三ケ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。

一〇、會計報告は年一回以上便宜の方法を以て會員に發表す。

一一、この規約は理事、會計主任、係員によつて事務の細則を定め、又會員多數の意見によりて變更する事を得。

理事　保持白雨

會計主任　岩野清

係員　伊藤野枝

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

考證は芥子に須彌を藏し

文學博士 鷗外森林太郎先生鈔

ファウスト考
ギヨオテ傳

獨逸のファウストは伊太利のヂキナ、コメヂアと並立せる世界藝苑の聯璧なり。鷗外先生其精細周到なる完澤を出し、飜譯文學ありて以後最大の勞作として天下に歡迎せられたりき。然るに今爰にファウスト考及ギヨオテ傳の發表を見る。其考證は一見比較的小冊子たりと雖も、中にあらゆる重要なる記載を網羅し、殆と芥子に須彌を藏するの趣あり。其傳記は彼一介の書生よりして忽ちワイマル政府の首相となりしギヨオテの政治家的外生活を經とし、多情多感にして幾多の才媛佳人と分合し、老の至るを知らざりし其藝術家的内生活を緯として宛然一匹の錦繡を織成せり。ファウストを讀む者、此二書を併せ讀まざる可らざるは多言を須ゐずして知るべし。

四六判美裝全二册函入
定價貳圓八拾錢
特價金貳圓五十錢
郵稅內地十二錢

第十三版

ファウスト

四六版上下二册
函入義本
定價三圓五拾錢

特價 貳圓八拾錢

此際を以て高需に應ず。乞ふ速かに申込あれ。

傳記は内外生活を經緯として宛然一匹の錦繡織成す

發兌元 東京神田 振替五〇一番 電本四一三〇番 一〇三〇番 合資會社 富山房

第一卷 第一號

我等

本號特價 金四十五錢 郵税二錢

短歌 一月 創刊號 發行 募集

小説

森鷗外……雁
田村とし子……手紙
茅野蕭々……流水（シュミットボン）
岡田八千代……青い帽子
與謝野晶子……戸の外まで
德田㊂秋江……對話
秦豐吉……向ふ名の王女（ソログーブ）
久保田萬太郎……春の雪
萬造寺齊……斷片（九十枚）

評論

生田長江……否定と肯定
綿拔瓢一郎……「死の勝利」の誤譯
佐藤春夫……新刊批評
阿部次郎……三太郎の日記

詩歌

高村光太郎……牛
北原㊂白秋……丘の三角畑
原田琴子……東より
佐藤春夫……雜歌
原あさを……山雪集
三ヶ島葭子……明滅
江南文三……無題
竹友藻風……水
長島豐太郎……求むる者
出野青煙……流水
吉井勇……歌

雜錄

無名氏……椋鳥通信
石井柏亭……途で會ひし人々
表紙畫（木版五度刷）梅原良三郎

發行所 東京市神田區南神保町十六番地
電話本局四二五四番
振替東京二六二四〇番
岩波書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二十巻　第一號

帝國文學

新年號

定價　二十錢（郵稅一錢五厘）

△行ける所まで（小説）……青木健作
△イブセンの道づれ（評論）……内藤濯
△指（小説）……後藤末雄
△俳句季題と自然法（評論）……三井甲之
△クリスマス、イヴ（小説）……山崎俊夫
△未來主義運動（評論）……佐久間鼎
△思ふまま（評論）……小林愛雄
△芝居と物眞似の興味（評論）……橘古香
△雨の音（小説）……翁久允
△なみだ（短歌）……鳴澤寡人
△人形（短歌）……井田虎男
△邦畫の現狀（評論）……黑田鵬心
△大正二年文壇の記憶（評論）……山田檳榔
表紙繪……矢代幸雄

京橋銀座壹ノ廿二　大日本圖書株式會社　發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゴオホ畫集

自畫像	サイプラス	野路	夜の酒場	ラザロの復活	病院の庭

□以上六枚を以て一組とす
□畫面は各九寸に七寸
□ゴオホ小傳を附す
□畫は白厚紙臺紙附
□製版印刷共に鮮明
□定價七十錢、本月中特價

▼市内各書店にて販賣す

特價一組五十錢

現代の洋畫 新年號

第二十二號の内容

（定價二十錢・送料共）

毎月二回發行 一日と十五日

挿畫

- 婦人の肖像 アマン・ヂャン
- 港の夕 田邊至
- 「草刈」の習作 矢崎千代治
- 瘋狂院の庭 ゴーホ
- 群集 オスカー・ラスク
- 太き主の女 梅原良三郎
- 肖像 アマン・ヂャン

記事

- 實在に關して 齋藤與里
- 藝術の新傾向 松文雄象
- 象徵論（下） 渡邊吉治
- 立體派（三） 松本文雄譯
- 私の畫論 大野隆德
- ロダンの彫刻 木村莊八
- 奈良より 岡本歸一
- 其他

發行所 東京小石川區西江戸川町九 振替口座東京四三七三番 日本洋畫協會

第七卷 第一號

アララギ

新年號

特價廿五錢 郵税一錢

□メーテルリンクの象徴詩論……山宮允
□犧牲(ウエデキンド)……橋田東聲
□曇り日の魯西亞更紗(短歌)……きしのあかしや
□地面と野菜(短歌)……北原白秋
□短歌雜論……齋藤茂吉
□萬葉集短歌私鈔……齋藤茂吉
□乾草くるま(短歌)……茂吉
□煙草ふかして(短歌)……島木赤彦
□鳳仙花(短歌)……中村憲吉
□短歌雜感……中村憲吉
□歌集「さすらひ」……青五
□森のせのび……河野愼吾
□黄色光(短歌)……平瀬泣崖
□憂愁の水(短歌)……土屋文明
□山の湯より(短歌)……原あさを
□友へ(短歌)……中原しづ子
□草の實(短歌)……久保田ふじ子
□別れゐて(短歌)……金原よしを
□病院(短歌)……清水謙一郎
□記紀短歌小解……古泉千樫
□大正二年の歌壇……千樫

短歌

□河西青五
□兩角七美雄
□飯山津淚男
□並木秋人
□岡千里
□柳本城西
□中島哀浪
□齋藤柚雨
□松島梧風
□吉川かすみ
□守屋其翠
□一柳忽月
□榛葉胡鬼子
□藤井黎白
□永田龍雄
□菊地野菊
□伊東壽一
□中山雪枝
□唐澤うし子
□古泉千樫

□誌友募集□

東京本所南二葉町廿三 古泉千樫方
アララギ發行所

近代思想

■第二卷第四號■

一月號

■定價金十錢■

□勞働者と白き手の人（對話）……トゥルゲーニエフ 大杉榮
□生の創造（評論）……大杉榮
□ノラからアンへ（評論）……安成貞雄
□『社會の礎』に就て（評論）……伊庭孝
□題未定（詩）……土岐哀果
□噴火口をめがけて（詩）……德永保之助
□胡麻鹽頭（雜錄）……貝塚澁六
□相馬御風君に與ふ（批評）……大杉榮
□神樣が人間に殺された話（小說）……安成二郎
□凝視（小說）……荒畑寒村
□人間屠殺所（小說）……ラムスッス 佐藤綠葉

東京府下大久保町 近代思想社 振替東京一七一六三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二巻
第一號

エゴ
ゴオホ號

一月一日
發行

新年號

熱狂したる子供等(脚本) 千家元麿
田舍の出來事(脚本) 佐藤惣之助
書翰の上のゴオホ(Ludovici) 成田泰次郎
私とH(小說) 土屋小介
巨人ストリンドベルグ傳 成田泰次郎
誠 千家元麿
わが詩 佐藤惣之助
自分のもの(對話) 土屋小介

ゴオホの書翰(五十頁) 成田泰次郎譯

挿畫
自畫像 ヴアンゴオホ
野 同
魚干物 同
種蒔き 同
薪割り 同
瘋狂院の庭 同
其他記事中挿畫(ペン畫)數個 同

發行所 東京小石川區西江戶川町九 日本洋畫協會
編輯所 東京牛込區新小川町三ノ三一千家方 エゴ社

心の花

第十八巻　新年號　第一號

契沖阿闍梨　佐々木信綱
和詩　芳賀矢一
大西祝博士を憶ふ　大塚保治
短歌の將來　小花清泉
満月（一幕物）　松村みね子
罪の墓（小説）　長谷川時雨
出家の途上（小説）　沼波瓊音
サロメ　松田澄子
西片町より　佐々木雪子
年越のまじなひ　エリセエフ
婦人研究會記事　竹柏會同人
短歌　三浦守治　石榑千亦　新井洸　齋藤劉　西郷春子　松本初子

定價一部金二十錢　半年前金一圓　一年前金二圓　郵税共

東京日本橋區　竹柏會出版部　本石町一ノ一番
電話東京五一七〇番　振替東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

モザイク

第三新年號內容

リダとザルデイン（小説・アルチイバシエフ）……武林無想庵
電報（小説・ドウル）……昇曙夢
驚異（小説・ゾラ）……中島孤島
佛蘭西の象徴主義（評論）……木村幹
プラトーとペエタア（評論）……太田善男
國定忠次（戯曲）……水島爾保布
鼠（小説）……西田長左衛門
七五三の話（小説）……五十嵐禎夫
題未定（小説）……野上臼川
題未定（小説）……藤井伯民
二狂人（小説）……山本露葉
十二月の日記……モザイク同人

新年號特價四十錢郵税二錢

東京市下谷區　モザイク社　中根岸町六九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

假面

特價卅五錢

郵税金二錢

第三卷第一號 新年號

挿畫 ▼レオン・バクスト畫 露西亞舞踊六葉

□ドゥゼとダンヌンツィヨ（ハネカア）……樋口國登
□アントン・チェエホフ（フェル）……伊東六郎
□人としてのドストエフスキイ（メレジコフスキイ）……瀬戸義直
□マラメルの面影（グリイアスン）……西條八十
□アルトゥウル・シュニッツラア（デユークス）……石井直三郎
□日本のメレディイス夏目漱石（ブライテン）……園美太郎
□ポール・ヴェルレーヌ（グリイアスン）……矢口達
□ジョオジ・ギッシンク（タネデイ）……竹内逸
□ギイ・ド・モウパッサン（トルストイ）……吉江孤雁

附錄 ▼長篇小説 猶太の女（クープリン）……米川正夫

夏目漱石序
鳥居素川序
杉村楚人冠序
澁川玄耳序

太刀雄著

帆走世界
海のロマンス

菊判上製頗美本
別圖寫眞十數葉入
紙數五百五十餘頁
定價金壹圓五拾錢
郵税金十二錢

發賣元 東京市神田錦町一丁目 振替東京四一二三番 中興館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回

創造

一月發行

第四十號 一月元旦發行

◎定價廿五錢■

□停車場にて（詩）人見東明□
□結婚まへ（小説）加藤介春□
□處女（小説）福永挽歌□
□彼の女に與ふる歌（詩）福士幸次郎□
□道惡（小説）岸田劉生□
□調和と征服（感想）清浦靑鳥□
□モムベルト三篇（詩）茅野蕭々□
□湖上（詩）福田夕咲□
□殺戮（飜譯）米川正夫□
□毒藥の壺（感想）相馬御風□
□「海の夫人」の種々相（評論）中村吉藏□
□「海の夫人」の内部（評論）仲木眞一□
□イブセン個人主義序説（評論）稻毛詛風□

戀ごゝろ

人見東明著

「夜の舞踏」以外の快心の作八十餘篇を收めて今やこの集たる之れ悉く眞實の聲を織りこみ、高き生活を血ぬりたる詩篇にしてその光りはあけぼのの如爽くかにしてその香は花よりも麗し。題して「戀ごゝろ」と云ふ生ける靈の躍動せるがためなり眞實の生活を味んする者は來りて本集に就かざるべからず。

新刊發賣
定價六十錢

發行所 東京市小石川區雜司谷町一三〇 創造社・東京堂發賣

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

珊瑚

創刊號

一月一日發行

定價金廿五錢

露の劇場書家ゴロヴイン　松永秋雄
泥醉男（ダンヌンツイオ）　岩井尊人
秋の夜の幻想曲　かしのやなぎ
老檢事の話（アルツイバーシエフ）　馬場哲哉
向日葵（小説）　片山誠二
表紙畫　レヴイトスキー
寫眞版（海の夫人の舞臺裝飾）　ゴロヴイン
題未定（小説）　小川未明
譯詩（ポール・フオール）　近藤敏治
蛇苺の花（小説）　宮本穗果
珊瑚社詠草　同人
海外文藝、編輯餘錄

發行所　東京府南千住九四五　電話下谷五八〇七番　珊瑚社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■生活と藝術■

一部定價十八錢
郵稅一冊一錢
三ヶ月五十四錢

新年號要目

評論……伊庭孝
評論……荒畑寒村
紹介……仲田勝之助
詩……土岐哀果
感想……佐藤緑葉
評論……島村民藏
小說……原田讓二
感想……上司小劍
隨筆……西村陽吉
飜譯……昇曙夢
評論……稻毛詛風
評論……堺利彥
評論……楠山正雄
新らしき歌……青年諸氏
MEO……哀果生

圖書目錄贈呈

▲大正三年一月改版▼

東雲堂は現代文藝諸家の著述に係る清新なる文藝書を發行する事に努力いたしてをります。この目錄には左の諸先生の著書を掲載してございます。

北原白秋氏　若山牧水氏　三木露風氏
石川啄木氏　土岐哀果氏　前田夕暮氏
吉井勇氏　齋藤茂吉氏　國木田獨歩氏
木下杢太郎氏　川路柳紅氏　河井醉茗氏
石井柏亭氏　小山內薰氏　平塚明子氏
野口米次郎氏　其他諸氏

■電話本局一八七一番■
■振替東京五六一四番■

■東京市日本橋區檜物町九番地　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

未來

吾人の精神は無限に伸びんとす。

吾人の爲さんとするところはすべてのものの更新にあり。

吾人は藝術新派を以て處らんとす。

吾人は誤られ虐げられし藝術の意義を闡明せんとす。

年四回・一・三・九・十一・刊行

第壹輯內容

大正三年一月十五日發行

□戲曲、山上へ……灰野庄平
□ヱルハアレン論……西條八十
□未來象徵の理論……三木露風
□ピヤニスト、バツハマン……柳澤健
□バドー●イヴル、(ラムボウ)……柳澤健
□無言劇……森川葵村
□イエーツ『善惡の觀念』中より……山宮允
□見、不可見(クレエグ論其他)……灰野庄平
□アルベヱル●サマン十篇……新城和一
□畫論……田中喜作
□詩集 川路柳虹 増野三良 西條八十 新城和一 柳澤健 三木露風 森川葵村 服部嘉香
□リズム論……服部嘉香
□ルバイヤット譯後／……増野三良
□山田耕作氏の藝術……齋藤佳三
□製作……川路柳虹
□印度の新詩人……三木露風

四六判三百五十頁●定價金六拾錢
假綴瀟洒美本●送費金八錢

發行所 東京市日本橋區檜物町 (振替東京五六一四一番) 東雲堂書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夏目漱石先生序 野上彌生子譯 ▼▼最新刊▲▲

傳說の時代

菊版美裝約八百頁
挿入寫眞五十枚
希臘古彫刻等皆珍品
定價金二圓
郵税金十二錢

文藝界の大寶庫

神と英雄の物語

▲文學者の寶典——畫家の畫題——說教者の材料 家庭の好讀物也
▲近代上代を通じ西洋文藝を味ふには神話知識が根本的必要也
▲此書は希臘羅馬の神話を初め埃及北歐印度西藏の傳說を含む
▲原書はヴアージルオヴイツド以下一千餘種古典研究の產物也
▲小說よりも面白く書かれたる人間の想像力の無限大を示せり
▲譯者は今日迄此翻譯の如き興味を以て勞作を續けたる事無し
▲挿入五十個の寫眞は二千年前の彫刻を初め悉く古藝術の珍品

東京市神田區
南神保町十六

尚文堂書店

電話本局四二五四
振替東京一九三四四

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自由講座叢書第一編

定價金六拾錢　郵税一冊金四錢

東京神田南神保町十六　尚文堂發賣

二六新聞の批評

「近頃になつて文藝趣味は人間の本來性であるが如くに擴まつて來た。そして必然の要求として見られる程に文藝に對する渴望は若い人達の感性を湧き立たしめて來た。此の要求に副ふ目的で生れて來たのが自由講座である。（自由講座同人曰く、自由講座の成立には今少し積極的の目的があります。）本年三月產聲を揚げてから以來每週二回づゝ、人も我も許した大家の講演が開かれて來た。其の講演には隨つて充分の價値と權威が横溢してゐる。その講演を集めたものが即ち此の書物であつて、

△露西亞に於ける文藝と實生話（昇曙夢）
△メレディス論（平田禿木）
△イプセンとドストイエフスキイ（片山伸）
△『サラムボオ』（生田長江）
△ドストイエフスキィの研究（森田草平）
△チェームスの哲學（中澤臨川）
△建築美に於ける材料の謎（山崎樂堂）
△問題としての性欲（野上臼川）

の八篇が收められてゐる。眞面目な文藝の研究者ばかりでなく、苟くも文藝に趣味を有つたものは、好箇の參考書であり、文伴侶である。同に此の叢書は引き續いて續篇を出すそうである。」（十一月十八日）

附錄　ウォーレン夫人の職業合評

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Mrs. Warren.

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ヸヸーとその母の生活
―らいてう―

シヨウの「ウォーレン夫人の職業」はその本國の英國では檢閲官から興行禁止の命を受けたものださうだが、頑迷固陋な我國の當局はまづ此點だけは寛大だつたと見えて、今度村田實氏一座によつて無事に舞臺に上せることの出來たのは誠に結構なことだつた。けれど見せられたものは隨分大變なものだつたといふより外ない。背景を除いては、今一つあれを平氣で公衆に見せた村田氏の青年らしい勇氣若しくは度胸を除いては遺憾乍ら私には何ものも見出せなかつた。同氏は或はまだあの戲曲を十分理解する丈の力のない人ぢやないかと疑はれた。「とりで」に出た同氏の「私とウォーレン夫人の職業」によつて見ても粗大な、無造作な頭腦の人のやうだから。けれど男優の方はまだいゝとして、女優は何事だらう、殊にウォーレン夫人はひどいものだつた。この劇で可成に重要な場である、娘からお父さんは誰かと詰問されて、終に今迄秘密にしてゐた自分の身の上話から淫賣業をしてゐること迄話す處などはあまりに見兼ねて、氣の毒になつて來た。女學校の餘興にする對話

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の練習ならあれでもだまつて見ても居やうけれど。

で、今度こそ一つ舞臺の上の「ウォーレン夫人の職業」を許して見やうと思つてゐた私もまたすつかり氣ぬけがして仕舞つた。矢張り讀んだ上での感想、殊にヰヽーとウォーレン夫人の生活に就いて述べるより外仕方なくなつた。

凡そ作者の氣質、態度、その人生觀等を離れて作品を解することは出來なからうが、藝術の爲めに筆をとらないショウのものに於ては殊にさう云ふ感じがする。この戯曲に於ては彼の後年の作なる「人と超人」に見るやうな哲學者としてのショウ、その人生觀、彼が力說する所謂生の力の內容の如何なるものなるかを積極的に窺ひ知ることは出來ないが、舊き制度、道德、宗敎、習慣等あらゆるコンヴェンシォンに對する破壞者としての彼、現社會の缺陷を白日の下に暴露し、我々に現代の生活のどんなものかを自覺させ、そして新しい生活の道に導かうとする改革者としての彼、貧困から來る止むを得ない罪惡を表示する社會主義者としての彼は十分に見ることが出來る。

そしてこの戯曲の價値も亦此處に置かるべきものとして考へねばなるまい。

作中のヰヽーは殊に小さきショウである。作者の化身である。ショウは常にヰヽーの蔭に隱れ、ヰヽーの口をかりて到る處で自から言はむと欲する處を洩してゐる。

ギャーは理智的な決斷力に富む明敏な女であつた。健康な肉体を誇りとする快活な活動的な女であつた。精力主義者であつた。彼女の前には戀の夢も、美も、ローマンスも、盲目的な女の所謂幸福なるものもない、人生の眞實を曇らすあらゆる幻影のベールを撤回し、人工的な虚僞、矯飾、僞善の假面を剝奪して人生を只有の儘に受容れやうとしてゐる醒めた女であつた。自からの力の總てを以て、みづからの生活を開拓して行くことに、仕事に沒頭することに、そこに、活動の世界に生き甲斐を見出す實際的な女であつた。

今、彼女は大學を卒業し、其學び得た數學を利用してこれから世に出て、獨立の生活を營まうとしてゐるのである。英國あたりは女子の大學教育も既に自由だし、婦人の職業範圍も今極めて廣いのだから此種の婦人は普通に見ることだらう、日本にして考へて見ても私共は別段特殊な女だとも思へない。けれどもギャーには一つ人と變つた處がある。それは外でもない、母子間に秘密が横はつてゐるといふことである。彼女は二十二にもなる今日迄、自分の父親が誰か知らない。母からは十分の學費を貰つて何不足なく大學教育まで受けたけれど、その母親がどんな生活をしてゐるのか、何を職業にしてゐるのか、母親から送つてくれる金はどういふ性質のものか總て知らない。ところがふとした機會から母親は遂とその秘密を娘の前で打明けるやうになつた。それはかうである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

丁度暑中となつたので、ポーレーはとある田舍の母の別莊に滯在して讀書などして暮してゐる。するとそこへ母のウォーレン夫人が久し振りで來て、例の母子間の衝突が持ち上つた、今日の日本の社會に於て、私共がいやといふほど經驗させられることだが、母親は娘の考を理解しない。娘や娘の生活を尊敬しない。自分の思ひ通りになるもののやうに考へて相變らず子供扱ひにする。その上にクロフツといふ見るからに下賤な男を紹介して特に親しく交際せよなどゝいふ。

娘『私の生活の仕方とお母さんの生活の仕方とは到底調和しなからうと思ひます』

母『何を言つてゐるのだよ、大きくなつたから、お前、では獨立しやうといふのかい。馬鹿もいゝ加減におしな』

ふたりの間はこんな調子なので、ポーレーも遂とあなたは本當のお母さんですか、本當のお母さんなら聞きませう、親類は何處にあります。お父さんは？ 身內は？ あなたは母の權利を主張して私に對して學校の先生達でさへ言ひ得ないやうなことまで言つて、私の生活の仕方までも指圖なさる。それから體裁のおかしな賤劣な人間を連れて來て强ひて交際させやうとなさるでせう。さういふ要求に應ずるか應じないかを論ずるよりも前に、私はさういふ權利があなたにあるか無いかを知つて置きたいなどといふ。母は夢中になつて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分は誓つてお前の母だ、そしてクロフツはお前の父ではない、けれど父が誰かは言へないと言ふ。言へなければ明日別れるばかりだと娘がいふ。此處まで來ると、母親はもう耐へきれない。そして其本性を現はして仕舞ふ。

ウォーレン夫人はもと造幣所脇とかに天麩羅屋をしてゐるやうな貧しい寡婦の、父親も明でないもの丶娘であつた。姉妹は四人もあつたがふたりは醜婦だつたので地道な生活をした。そのため、一人は鉛粉工場で鉛毒のために憐れな死に方をし、今一人は酒飲みの夫のために浮ぶ瀨もない生き方をしたが、ウォーレン夫人と今一人の妹は美貌を幸ひにそれを資本に賤しい稼業をして成功した。妹の方は金が出來て、生活に困らなくなるとすつかり足を洗つて仕舞つたが、ウォーレン夫人の方はなか〳〵止められない。益々其事業を擴張して、今では歐洲の各地に何軒も店を所有し、自分はその支配人の位置を占めてゐる。そしてクロフツはその資本主だといふ。

ここで作者たるショウは今度はウォーレン夫人の口をかりて、社會主義者たる彼の面目を發揮し、極力社會の欠陷、貧困に基く罪惡を論じ、斯かる社會にあつて、美貌の外何の資本もない無敎育な女が生活のためにかうした職業を執るに至るのは止むを得ないと、ジヤスティフアイするに努めてゐる。

弁ヽーは母の身の上話に一度は驚きもし、悲しみもし、恥ぢもし、又境遇の奴隷となつたことを咎めもしたが、母が眞に獨力で、自己の生活の道を切り開いて、遂に今日に至つたその努力と奮鬪には心から立派なことだお母さんは偉い女だと感ぜずにはゐられなかつた。そして母に同情もし、大切にする氣にもなつた。精力主義の弁ヽーとして、さうありさうなことである。

この點に於ては母子の精神、人生に對する態度はよく一致してゐるのであると同時に、如何なる運命や社會の壓迫や、不幸な境遇の下にあつても、泣いたり、ふさぎ込んだり、怨んだり、愚痴をこぼしたりしてばかりはゐないで自己の力を恃んで、それを利用するなり、征服するなりして道を造りつゝ、ぐん〳〵と自分を押し進めて行くといふショウの光明的な、根本に於て樂天的な、積極的な血をふたりとも多分に受けてゐるやうだ。

ふたりは共に世間並の女である。そして現代の社會に於て、自分の力で獨立の生活を營んで來た、また營もうとしてゐる家庭を有たない職業的婦人である。けれど一方は敎育があるが、一方にはそれがない。一方は自分自身に基く處が多いが、一方は殆ど境遇のしからしむる處である。だから前者は自分の生活に對して自覺的だが、後者は割合に無自覺で、裏で淫賣業をしながら、表では出來る丈貴夫人振るやうな虛僞なことや、卑怯な眞似をや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つてゐる。强て言へばこゝがヸヽーの新しい女たる處で、ウォーレン夫人の古い女たる所以でもあらうか。

けれど私は言はねばならない。ヸヽーの母の職業、即ち「賣淫」といふことに對する見解に就いては少なからず飽きたらぬ感じがするといふことを。只あれ丈では、只單に賤しい職業として、不德なこと、墮落し果てたこと、紳士淑女の口にするを恥ぢることゝして恐怖と羞恥と侮蔑の念に襲はれた丈では、そしてプレートやフランクにそれを口外し得ないほど只感情的に苦悶する丈では通俗的社會道德や因襲的感情以上の何ものもない。

『あなたは首鼠兩端の行爲をなさるから卑怯です、あなたは因襲的な女だ。それほど自分の仕事を正當と信じるなら其方へばかり思ひ切つて一直線に行つたらいゝでせう。それだのに、人前だけは貴婦人振つて、裏にさう云ふ賤業をやつていらしやる。貴婦人なら貴夫人、賤業なら賤業、どつちが一方へ行つたらいゝでせう。』とか『若し私に勇氣があれば死ぬまでかゝつて其事を吹聽して歩くでせう。聞く人達の頭へ極印を打つやうに、燒鏝を當てるやうに話し廻つてわたしの感ずる通りの怖ろしさと、恥かしさを感じさせないぢやおかないでせう。女の口にすべきことでないと言つて、かういふ不埒を庇ふやうにする非道な習慣ほど賤しむべきものはありません』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

などゝ言つて、社會の暗黑面を示し、現代の虛僞な生活、不條理な矛盾した習慣に反抗し痛棒を與へたのはいゝが、何故これ程理智的な、聰明な、特に因襲的感情を退けるヸヽーとして「賣淫」に對してもつと廣い、公正な、根本的な見解と、徹底した態度とを示し得なかつたのだらう。私は一寸不思議な感がした。尤も何不足なく學窓に育てられた、世間知らずのお孃さんとしては無理もないことだが、又或はこの邊が思想と感情との必ずしも一に出來ない證據かもしれないけれど。

さてヸヽーの心は一旦母に對する情愛に滿されたとはいふものの、相互の思想も、生活の仕方も、全く異にするふたりは長く一緒に居られやう筈はない。殊にかうして母の秘密を知つた以上は猶更だのに、その上なほも彼女の決心を早めた原因が他に二つあつた。その一つは母の情夫で、同時に資本主の例のクロフツが利を以て彼女に結婚を强いたことゝ今一つは同じ人から彼女と彼女の遊び仲間で、戀仲となりかけてゐる隣家の牧師の息子フランクとは實は異父兄弟だとほのめかされたことである。さすがのヸヽーもクロフツから受けた侮辱に對しては憤りもし、又フランクとの間柄については隨分驚きもし、惑ひもし、苦しみもしたが、それもほんの瞬間で、忽ち斷然たる決心と共に、行先をフランクに丈答へて、ロンドンの某街の彼女の知人であつた女辯護士の事務所へと去つて仕舞つた。彼女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はそこで早速職に就いたのである。そして自分の獨立生活の道に只管に突き進んで行つた。

ギャーに對する愛から、わざ〳〵訪ねて來たフランクに向つては、形式はどうあらうとも戀の若い夢に就いては聞きたくない、私は永久に獨身主義の女だといつて別れて仕舞ふ。伊太利の旅に連れ出さうといつて訪ねて來た藝術家のプレートに對しては人生のローマンスと美に就いては伺いたくない、どうぞ私を實際的の女として御交際を願ひたいと言ふ。又彼が、あなたは立身出世家だが、自分の話せる處は藝術宗丈だといふやうなことを言ふと、『若しこの世の中に立身宗と藝術宗の外に何のお宗旨もないなら人間は自殺した方がましだ、何故ならどちらも腐つて腐つて腐りぬいてゐるから』などゝいふ。

ショウはまた此處でギャーを使つて人生に對する自分の思想なり態度なりを説明してゐるやうだ。彼の哲學の眞髓、謂ふところの「生の力」を消極的に暗示したのではあるまいか。

最後に母が娘の決心を今一度飜させ、再び家に歸らせやうと彼を追つて來た。けどれギャーは母の涙にも、切願にも全く心を動かさない。のみならず母からの送金さへも性質を知つた以上は受取る譯に行かないといつて拒絶する。母は永遠に娘の心を理解することなく、只その所爲を憤つて荒々しく立去つた。

ふたりはかうして別れるより外なかつた。けれどショウの氣質を受けたギャーはさすが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に泣かない。悲しまない。（尤も普通の母子とは少し違ふが）戀仲のフランクに對しても少しの未練も殘さない。やがて一切を忘れて自分の仕事に沒頭して仕舞ふ。彼女にはもう過去の生活はない。彼女の前には只新生活が擴がつてゐるばかりであつた。

次に私は彼女の新生活に就いて云はねばならぬ順序だが、それは「新日本」に書いた「職業的婦人」と題する小論文に讓つてこゝでは何も云はぬことにした。

終りに私は母子の生活のいづれにより多く動かされもし、考へさせられもしたかといへば、實際のところ、寧ろ實社會の暗黑面を通つて來たウォーレン夫人のそれであつたといふことを云ひ添へたい。

それからいかにもショウの人物らしいフランク、多くの人が氣付いてゐながら、そしてそれを實際の事だと知りながらも只自からは口に出すのを憚つてゐるやうな事柄を無遠慮に、無雜作に言つてゐるあの愉快なフランクに就いて、殊にフランクとヸヽーとの男女關係について言ひたいこともあるけれど、最初斷つて置いたこともあるし、頁數にも限りがあるからこれも亦止めることにした。（一三、一二、一七）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Vivia

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ウォーレン夫人とその娘

——野枝——

脚本を讀んで見て私は殆んど手の出しやうのないのに驚いてしまつた。とても自分の貧弱な頭ではそれ〴〵に立派な解釋をつけて批評して行くことは六ケしい、と云つてやらないわけにも行かないし困つた〳〵と云ひ暮しても其日數もなくなつてしまつた。「あんまり六ケしく考へすぎるんだよ」といふ樣な注意を傍らで聞くとなほイラ〳〵して來てどうしても纏めることが出來ない。もう〆切の日は少しの餘裕もなく迫つてゐる。とても正式の批評などは出來さうもない。私は自分で考へついたことだけを書いてこの責任をのがれようと思ふ。大變いけないことかもしれないけれども今の場合仕方がないとしておきたい。

一番主として考へなければならないのはヴイヰイが母の職業に對する理解だと思ふ。

ヴイヰイは悧巧な冷靜な理解力をもつた自信の強い女である。だが情熱とか優しみとか云ふ方には缺けてゐる。凡て、何を考へるにもやるにも感情を交へないと云ふ處が普通の女

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と甚だしく懸け離れてゐる點である。彼女は美もローマンスも不必要だと云つてゐる。彼女はその母親に對しても本當の親しみやなつかしみを持ち得ない。フランクに對する感情も戀とは云ひにくい。若い女の男に對してもつ情熱的な戀とはよほど違つたものである。

これは彼女が幼い時から母の傍を離れて寄宿生活をして來た結果だ。彼女は幼い時から當然受くべき兩親のやさしい愛をうけることが出來なかつた。彼女は第一に親の愛を知る時期がなかつた。第二に彼女は寄宿生活に萬事少しの和か味もない定規で造り上げられた四角四面な規則で生活した。理屈ばかりの生活をしたことが原因してゐる。つまり彼女は當然受くべき情的敎育を受ける機會なしに智的方面にまた意的方面にばかりのびていつたのだ。あやまつた敎育が彼女のやうな人間を造り上げたのだ。

其處で彼女は母に對して、母の職業に對して或理解をもつ事は出來た。同時に幾分の同情することも出來た。然し最後まで行つたとき彼女は母に對して、あまりに苛酷な態度をとつた。もし普通に母親に對する愛情をもつ女ならあゝいふ酷な態度のとれやう筈はない。もう少し角だてずにやさしく和かに解決がつくべき筈だ。彼女の生活と母親の生活が合ふ筈のないことは誰にも解ることである。然しヴヰヸイの考へ方によつては母親にあゝまでみぢめな態度をしなくつても濟むことだ。妥協と云ふ意味でなく自分さへ確かならそして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

母親の職業や境遇に同情と理解があるならばまた何も母が彼女の生活に積極的に障げをしやうとするのでないならばあゝまできつぱりと結果をつけないまでも、もう少し優しい扱ひ方が出來たに違ひないと思ふ。彼女の情的教育の缺點は二幕目の終り近く母親の情熱的な昂奮と感激におされて著しく目立つて來る。

ウォーレン夫人はそれにくらべるとずつと世間並の女でまたありふれた普通一般の母親とすこしも變りはない。唯だ幾分氣丈とでも云ふやうな點のある、ヴキヸイよりも氣持ちのいゝ女だ。同情すべき女だ。彼女は娘を自分で教育することが出來なかつた。一つは彼女が無智だと云ふことを自覺してゐる處からと、それから職業の都合からも來たことであらう。彼女は娘に充分の教育を與へた。それは世間の親たちが娘を教育するのと些しも違つた考へからではない。もう少しでも違つた處があればそれは自分の無智をも序に償ふつもりもあつたかもしれない。彼女は極く通俗的に、手輕に、そして單純な考へから娘を他人に預けて他人に教育して貰つた。愚かな母親は娘の爲めに莫大な費用をかけて娘を立派に教育した。然し結果は母親ののぞんだものとは全く反對の形になつて現はれて來た。彼女は他人と自分の區別をしらなかつた。教育と云ふことに注意してゐるやうで不注意だつた。なまじ他人になど教育をして貰つた爲めに娘はまるで自分の望んだものとは違つた人

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

間になつてしまつた。併し其處に氣がつくやうな母親なら自身で立派に敎育する。彼女は職業から來る不自由さと、無智から來る低級な頭で解釋した敎育とで自分をあやまり娘をあやまつた。彼女の運命は自身でまねいた運命なのだ。併し本當に同情すべき可哀想な女だ。世間にはかうした例はいくらもあるだらう。

次に來る問題はこの脚本の主題となつたウォーレン夫人の職業だ。私達も現在考へさゝれてゐることであり、また早晩ぶつかる問題である。敎育のない無智な何の藝能をも有しない婦人の職業――それが一番眞面目にはやく考へなければならない問題だと思ふ。私は出來ることならこれを眼目にして大いに書きたい氣もするけれど時日もないしそれにまづしい私の社會的な智識では到底大したことも云へなさゝうだ。併し私達はどうしてもこれから先きの硏究はそこまで進めて行かなくてはならないのだからその時にまた機會があるかもしれない。

ウォーレン夫人のやつてゐるやうな仕事がいゝか惡いかの問題は今は預つて置く。さう云ふ職業が存在し得るは止むを得ない。無暗と賤しいとか惡いから止めろと云ふやうな事を日本でも盛んに云つてゐる。併しさう云ふ女の就くべき正當な所謂立派な利益を得ることの出來る割のいゝ仕事が他にあるかどうか。夫人の長い告白の中には到る處にその社會の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

弱點をおしてゐる。勞働に對する相當の報酬をしない。不當な勞働をしてその上に生活にも困らなければならないと云ふやうな割の合はない仕事が所謂正當な立派な職業とされてゐる間はとても割のいゝ職業にはいくら賤劣であらうとも職業として存在してゐる間は生きて行かなければならないと云ふ要求の上からは少しも就くのには躊躇されないだらう。恐ろしい白粉製造所や他人に甘い汁をしぼられる酒場奉公より自分の利益の多い體の樂な職業に就く筈である。賤劣だとかやれ何とか云ふのは他に割のいゝ樂な仕事を持つた所謂教育のある婦人や無自覺な妻君達の云ふことだ。殊に世間普通の何の考へもない妻君達はそれ等の賤劣な職業をもつ女とは五十歩百歩である。彼女等も矢張りその体の樂な割のいゝ仕事仲間なのだもの。何處に大した相違があらう？　私は寧ろ蔑視される賤業婦達の自覺しながらも喰べる爲めに生きたいばかりに嫌やな者共の氣嫌きづまをとらねばならぬ悲痛な氣持に同感する。そして何の意味もない馬鹿な顔して一人よがつてゐる女達よりもかうした女の方がまだ強い處があるやうに思ふ。私はさう云ふ女の氣持を考へてゐるとぞつとするやうな凄い感じに打たれる。

ヴキヂイ　ねえお母さん正直に云ひますけれどそんな風にまでしてお金をこしらへるのを

いやしむと云ふ見識もあなたの云ふ女の性根つ玉ぢやありませんか？

夫人　勿論さ。誰だつて心にもない勤めをして金を拵へるのを好んでるものはないさ。ほんとに折々は可愛さうだと思つたよ。疲れきつてふさいでゐる女が蔑しべ程も思つてゐない男の機嫌をとらうとしてゐるのを見るたびにね、――どんな金高にも易へられない程の嫌やな思ひをさせてさんざつぱら女を苦しめておきながら見事面白がられてる丁備でゐる生酔の間抜共を見るたびにね。だが商賣となればどんな厭やなこともがまんしなきやならず荒くあたられてもやはらかに受けなきやならない、丁度看護婦か何ぞのやうにね、無論だれだつてすきこのんでする事ぢやない。お宗旨屋の法なんぞを聞いてお前は安樂な仕事のやうに思ふかもしれないけれど。

ヴキヸイ　でもあなたは仕甲斐のある仕事だと思つてゐらつしやるのでせう。お錢になるから。

夫人　仕甲斐がありますともね、貧乏人にとつては。その娘がおだてにのらない奇麗な身だしなみの惡くない悧巧な娘でさへあればね。他の何商賣よりはましだからね。無論よくないことさヴキヸイ、それにました職業が女にないといふのは。私はあくまでそれは惡いことだと思ひます。けれどもよかれあしかれさうなつて見ればそれを利用するより

他に爲やうがないのさ。立派な人たちのすることぢやないよ。お前なんぞしやうとすれば馬鹿だ。けれども私がやらなかつたらそれはまた馬鹿だ。

ヴイヰイ　（ますく深く感動して）お母さん、かりに私たちが昔のあなたのやうに貧乏であつたとしたら吃度あなたはすゝめないでせうか私にワーテルローの酒場へ出ろとか勞働者へ嫁入しろとか又は製造所へさへも入れとすゝめないでせうか。

夫人　（憤然として）すゝめるものかね。私を如何んな母親だと思つてるんです。そんな食ふや食はずでゐてお前見識が保てますか。女と生れて生甲斐があるかい？　見識が保てないで——同じ境涯にゐる他の女達は泥の中にゐるのにどうして私だけは自力で生活を立てゝ娘に一等の敎育まで受けさせたか？　いつも私は自分を尊敬し自分を制へて行くことを知つてゐたからさ。どうしてリッヅが寺院町で人に尊敬されてゐるか？　同じ理由さ。今頃若しあの僧さんの馬鹿氣た訓戒を守つてゐたなら私等は何處にゐるだらう？　一日七十五錢で床板の拭掃除にこき使はれてさとゞのつまりは養育院厄介だらうぢやないか？——

私は此處まで書いて來て考へて見るとこの脚本の作者バアナアド、ショオは社會の色々な缺陷をもつて來てその缺陷が生んだ種々の人々を捉へて來て一人々々の缺點をうまく表

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はして。大きな社會問題にふれさせる處にその皮肉な見解を見せてゐるのだ。

さう思つて見れば皆さうだ。一々細かに評すれば際限がないし大きな社會問題を持ち出さなくつてはすまない。ショオのこの脚本に對する根本の意の潜んでゐる處が解れば云ふことはないやうだし批評するのも無駄な事をやつてゐるやうな氣がする。併しなか〳〵面白い問題だと思ふ。機會があつたらなほ細かにフランク、クロフツ等についても書いて見たいと思ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ギヽーの生活に對する雜感

―西崎花世―

いつもぼつり〳〵とした感想しか書く事の出來ないわるい頭ですから、讀書をしても、讀んだもの全体を全体として批評的に受け取る事が出來ない性分を殘念に思ひます。「ウォーレン夫人の職業」の批評も私にはどれほど努力してもそれに對する部分的の感想しか浮ばない事が物足りなくてなりません。

併し單に感想と云ふ方面から考へて見ると可成いろ〳〵の問題が今私の腦中に集つてゐる事を感じます。その中の重大なものを擧げて見ますと、社會組織對女、生活難對女、道德と經濟問題、職業と女の生活といつたやうなものですけれども、どれも皆あまり大きすぎてまゐりますから適當しません。

此の戲曲の內的根抵と云つたやうなものに對してはどうしても社會問題になりますから惡い事と思はれます。それよりも直接面白い感想は、ギヽーの生活を、私自身の生活の中に發見しやうとする事です、それが私にとつて一層意義の多い事だと信じられます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

唯一寸卒讀したばかりの印象ですから見當違ひな事を申す事でせうが、その種の趾は修養になるに相違ありません。

私にはこの戯曲の取り扱つてゐる、母と娘との生活の爭鬪が對岸の火事のやうには思はれません。英國社會の作りあげた此の種の母の娘との關係が、今はもう私どもの觀察圏内にはいくらもある事を云ひたいと思ひます。ウォーレン夫人のやうな母親、牧師のやうな父親、それに對するヸヽーのやうな娘、フランクのやうな息子、クロフワのやうな人爵、その人たちが、私たちの眼に見えて居ります。たゞ私たちはかう云ふ事を思ひます。

私たちの國では、ざらに生れてゐる、ヸヽーさんがまだ生長しきつて居りません。ヸヽーさんはまだ戰を始めて居りません、自分自身の生活を意識して、惡い（無智と云ふ意味の）生活に對して分裂を始めて居りません。唯それだけの時の問題にすぎません。

私は私の眼の前に多くのヸヽーさんを感じます、その一人は用意してゐます、その一人は假睡してゐます、然しその假睡が今にさめて來る事でせう。少くとも今にヸヽーさんはその足を進めて來るでせう、それはさうなくてはならない事です、そしてそれが決して惡

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い事ではないのです、むしろそれをしないと云ふ事が先方に對して不親切な惡い事です。英國のギヽーさんがさう云つてゐます。

○

私は(私を語ると)私の自活を初めてから數へて見るともう殆ど十年になります、十代の時から今日まで、私には母と娘と云ふ關係が、可成英國式だつたと思ひます。私は私の血肉に對しての遠慮と云ふ事を知らないと云つていゝ位です、母は母の生活、父は父の生活そして私は私自身の生活をいとなんで來ました、そしてそれはお互にとつてきはめて幸福な事でありました。

私は私の境遇の閲歷からギヽーの生活に對して、可成深く同感する事が出來ます、それとともに、ギヽーが戰ふ可きものと戰ひ、分裂すべきものとは分裂し、內に對し、外に對してあくまでも強い態度で征服していつた、生きてゆきぶりが愉快でたまりません。

ギヽーが假りに實在の婦人として、今私の目の前にゐたら、私はきつと好きです、然し若し私がギヽーのやうな境遇におかれたら、私にはとてもあのやうな命令者のやうな剛い調子で分裂はしなかつたでせう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ヸヽーの分裂のしかたは直線的です、もし私ならばあそこを圓線でゆきます、さう思つてヸヽーる性格を通じて私は私自身を感じてゐました。

○

此の戯曲を讀んで格別私の感じる事は、分裂す可き事實のものが分裂を遂げてゆく事の美しさです。別れるべきものの別れてゆく樂しみです、殺すべきものを殺してゆく喜びです、此頃の私どもは、私どもの感動をひきおこすものが常にその種の征服の美感といつたやうなものゝ多いのを感じます。これを讀みおへた私の心は反對的に、私の生活を見下して殺す可きものを殺さずにゐはしないか、戰ふ可きものと戰はずにゐはしないかと反省して、それをたしかめねば心が落着きませんでした。

何も知らない無智の人達はかう云ふ戰の價値を少しも知つてゐません。それがその人達の生活の不幸である事を知つてゐません。ヸヽーは勝ちました。然しこの戰ひの價値はヸヽーの得るだけの是とひとしい幸福が、まけたウォーレン夫人の生活にももたらされました。ウォーレン夫人は投げ棄てられて自分の生活を與へられました、ウォーレン夫人にそれを告げてあげたいものだと思つたりします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ギヽーの緊張してゐた貌が弛む、その嚴格な顏付が嬉しさうな滿足の顏付にかはり、やつと安心したあまりの息づかひ荒く、半はすゝりなき、半は笑とも聞える歡聲をもらす、

母を追ひ出して了つた後のギヽーです、ギヽーの生活の焦點の美しさが私の心をふはせます、私たちの所有する事の出來る快感の中で、このやうな場合の快感ほど好い氣持のものはありません。

○

一幕内に出て來るブレードとギヽーとの對話を見てゐました時、私はギヽーを非藝術的な粗野な、事務員肌の女のかはいた心持のするやさしみ等のちつともない女だと思ひました、然し、二幕目でしたか、あの母と激しく云ふ合つた末、母の生命力(實際上の)に威厭されて表情が變り、心持が移つてゆくのを見て、本當に、これは眞の柔しみのある女性の型(タイプ)だと思つて來ました、母の身の上話を聞いてる間のギヽーの様子をあげますと、

「今はしんみりと聞耳を立て………

「こゝに至つて全く氣を奪はれてしまつて………

「益々深く感動して………

「魅せられたやうになつて母を見つめて………

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「かうなると寢られないのは私らしいわ、」食器臺(ドレッサー)へ近づいて手燭に火をともし、ランプを消してすつと室内を暗くする、「閉める前に新鮮な空氣を入れませうよ」入口の扉(ドアー)を開けると外は一面の月夜である「何て美しい晩でせう御覽なさい」室のカーテンを引く、前景一帶今しもブラックダウンの上に上りつゝある收穫時の月の光をあげてゐる。

ポヽーは自分で自分に藝術のあるのを知りません、私はそれを非常に面白く思ひました。ポヽーが自分自身詩人であり、眞の美を見、眞の生活をいとなみ、眞の優しみを持つてゐながら、天才が自分の天才である事を知らないやうに知らずにゐる事が本當にいゝ氣持です。それで一番尊敬します。

ポヽーの見てゐる美が、私たち新しい女の渇仰する美です、ポヽーの感じてゐる世界が私たちの求める藝術です、ポヽーの樂しむ喜び、(實務の間の休憩)が、私たちの得やうと思ふ喜びです、ブレードが悚然(ぞつ)としてしまひますよ、あなたは一生ローマンスをも美をも經驗しないですますつもりですかと云ふのに對して、

どつちも要(い)りませんの、全く、私は働いてその報酬を得るのが好きです、仕事が嫌になつた時分には掛心のいい椅子に掛けて葉卷(シーガー)を一本、ウイスキーを少し、さうして面白い探偵小說が讀むんです、それが好きよ

と云つてゐます、私は、(また私を引き合ひに出しますか) 私が日本の職業婦人の一人として、このポヽーの生活と同じ心持の生活をいとなもうとしてゐる點から、このポヽーの

生活、乃至私の昨今の事務生活の中に、立派に美があり、眞があり、從つて、哲學があり文藝が在る事を信じてゐます、それが本當のものです、ギヽーの藝術が本當の生命の藝術です、月夜に感情的になつたと云ふところにギヽーの人格が光つてゐるではありませんか。

○

大分長くなりましたが最後にギヽーの戀愛の事が考へたいのです、私はギヽーの戀愛にも可成共鳴を感じます、そしてギヽーはさうは云つてゐませんが、私たち新しい女に對する對手のないと云ふ境地の心持が、永久の獨身である事が賛成におもはれます。殊に男が不信であり輕薄である場合に於ては（男の方にもそれ相當の理由はあるのです、フランクがブレードに云つたやうな經濟的な理由が、特に非人格的な理由がその場合、女が男を殺してゆくのは當然さうしなければならぬ男に對する愛情です。

ギヽーは書記卓子の自分の席へ快活に歩てゆき電氣ランプを押しのけ書類の大たばねを引寄せインキ壺へペンを浸さうとするとたんにフランクの置手紙を見付ける、何氣なく開いて卒讀し、中に書いてある文句が妙なので一寸笑ひながら

「ぢや、さよなら、フランク」

その手紙をずた〳〵に裂いて二度とは考へないで紙屑籠へ抛入れそれから勢ひこんで仕事にとりかゝり數字に心をうばはれて了ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ポ、ーのこの仕事三昧は、神の心持です、神はこう云ふ時、人の内部に存在するものと信じられます。

○

最後にかう云ふ事が云はれます、ポ、ーの生活は、私たちの生活です、少くとも私にとつては、私自身の生活の表現されたものゝやうにおもはれて微笑されて來ます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「ウォーレン夫人の職業」をみて――K

I――

かうやつて何か書いて見やうとして考へると今更にその出發點となる兩者――脚本で讀んだ劇そのものと、有樂座で擴げて見せられた劇と――の相違が餘り違いので一寸まごつかされる。

ショー氏はあれによつてあの母子の交渉は全く絶たれて終つて、二人が別々に自分々々の生活の道を行くことを明示して居る。又事實二人は自分の道を行くであらう。今やうやつと私共少數のこの國の婦人に經驗されて居る自給の生活はヸヸーにも尊いものであらうし、性慾との爭で年と共に襲ふて來る淋しさも絶え間ない勞働から汲みとられるよろこびに消されて終うであらうから。

終にカーテンが下りる前にヸヸーが「フランクや、さよふなら」と云つてあの紙片をさいてタイプライチングを初めると見物は盛に拍手した。私はあの時に見物が何に拍手したかを見ることが出來なかつた。木下氏の舞臺上の技倆を賞贊したのか、又はショー氏が命

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

令するヂヂーの强い決心に同情したものか、木下氏の覗ひ處を外れた理解を始終もの足りなく見せられて居た私は、寧ろ後者としてどり度い氣持がして仕方がなかつた。

さうすれば見物は又ミセスヲーレンの娘を捨てゝ出て行く氣持に同情せねばなるまい。ミセスヲーレンの又自分の持場に歸つて行く勇氣と決心は娘のそれに劣ることはあるまい

私達はもうあゝした職業に對して單純に善惡を云々することの出來ぬほど、いきつまつた生活を見せられて居る。ショー氏の云ふ通に『鉛白工場』の死よりもつと恐しい地獄の存在を認むることの出來なかつた現代人に、私共はどうして工場の堅パンの一片がヲーレン夫人の晩餐の一皿より尊いことを說くことが出來樣。私共日本人が有り餘るほどの實例をたへず見せつけて居る樣に、美貌と男の對照となる性と備へて居る者には、遂にあゝした道に行くことは非常に陷りやすい罠であるのであらう。生活と自分の性との間に立つて私は今こんな解決をしなければならないほどな經驗をもつて居る、そして他の多くの人々が殆ど同じことを經驗して來て居ることを疑はぬ。が然し又私共にはどうかして鉛白工場の麁末な晝飯が山莊の贅澤な御馳走にまさつたものであることを私共に信じさせることの出來る或物が或事の到着を待ち、又その到着を來らせんとする努力をして居ることを明言出來る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「とりで」社の人々は初興行としては大變にいゝ脚本を選んだ。然し殘念なことには一生懸命の努力の割に、人物がプレード、サミエルガアドナア、を除いては原作と非常にかけ放れたものとなつて終つて居たことであつた。それに又女達二人の着附は、木下氏花田氏の好みであつたかどうかは知らぬが不愉快なもので、劇の落着をすつかりなくして居た。それに比べてはクロフツのすつきり仕過ぎた色男めいたのは、又それほど大きなパートを劇にとつてない丈、事實程見ざわりではなかつた。

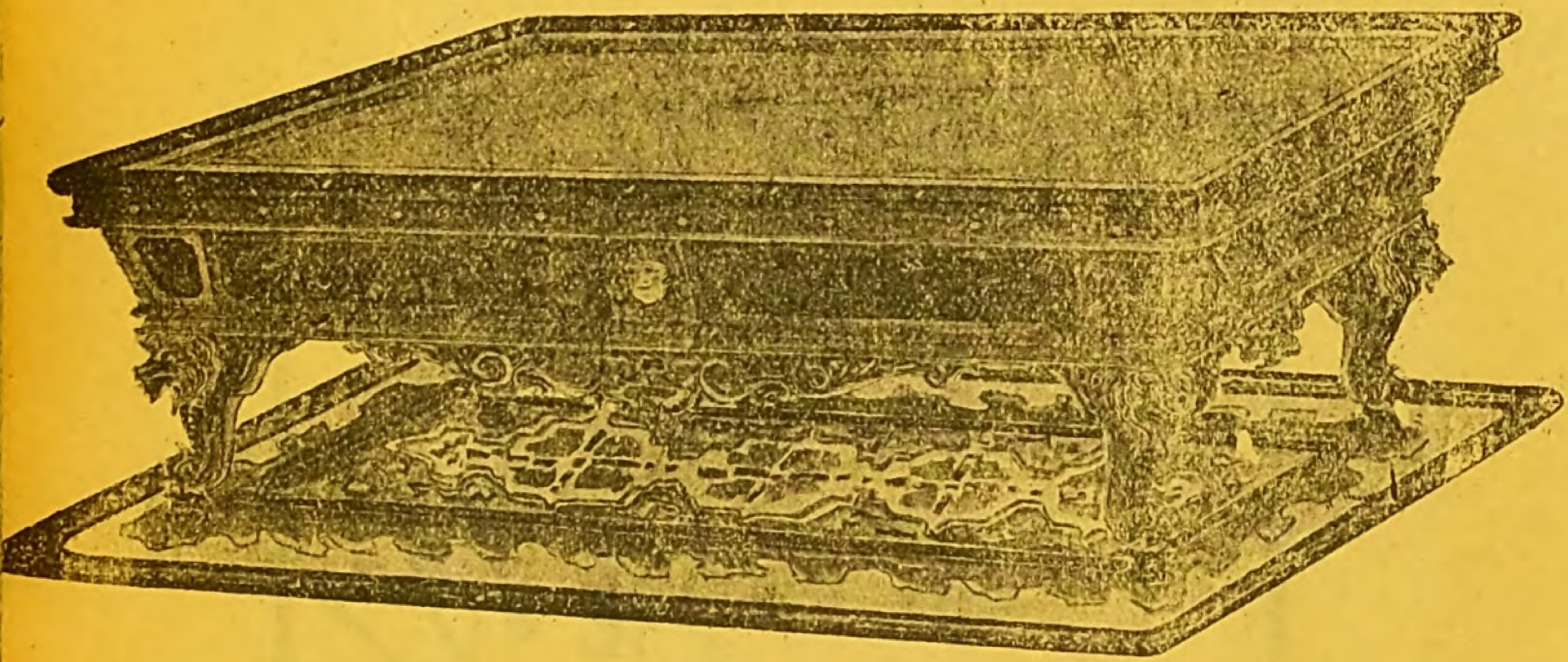
舞臺の上の效果は別として、私共は面白い劇を紹介して貰へたことを大變に幸として居ることを終に云ひ添へておく。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最新式玉突臺



玉突臺附屬品一式

御一報次第「カタログ」送呈仕候

製造販賣所

東京市京橋區鎗屋町一番地

中村商店玉突臺販賣所

電話京橋一九六七番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回 一日發行
一冊金二十五錢 郵税一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

百六十三號（一月一日發行）

六冊前金 郵税共金 一圓五十錢
十二冊同上 金二圓八十錢

脚本「稲妻」（ストリンドベルヒ作）……………森鷗外譯
ストリンドベルヒ自己の經歴に基いて書いた脚本の一ツで、昔離別した妻が主人の住んでゐる家の階上へ新しい夫と共に引越して來る時から又そこを明けて立ち退くまでの事を書いたものである。「ギヨツツ」は前號に引續いて出づ。

檜山事件の鑑定書……………坪内逍遥
著作權についての訴訟は目下劇界に於ける大恐慌なり、本號は坪内博士が横濱區裁判所に提出せる鑑定書を掲げて斯界の參考に供せんとす。

京阪歌舞伎年代記（慶長八―承應二）……………伊原青々園
江戸の歌舞伎年代記は烏焉馬、豊芥子、及び只誠翁の著あれど、京阪は未だ此種の書あるを聞かず、著者が三十年の苦心によりて成れるもの此稿なり。

「海の夫人」に就て…島村抱月

「夜の宿」の疑義……松居松葉

帝劇の「サロメ」……芹影女

勸進張の秘訣 杵屋六左衛門

續無線電話……………室田武里

默阿彌著作解題…河竹繁俊

續編「大風の一員」……………坪内士行
逍遥博士の令息たる同氏がローレンス、アアギングと共に倫敦の舞臺に立ちたる實驗記なり外國の名優の裏面を描きて微に入る。

和泉町の親方……………饗庭篁村
寅年に因みて大幸四郎の逸事を例の一流の筆にてものさる、輕妙の裡に諷刺あり。

「曾我の對面」の型……………尾上梅幸
九代目團十郎に手を取りて教へられし秘訣を洩さず語れるもの、當春歌舞伎座と市村座に於ける實演を比較して興味津々。

脚本「大風」……………戸田一外譯
日本人を主人公としたる外國劇にして目下歐洲に大當りつゝある脚本なり、譯者は獨逸の原作より譯し且つ倫敦の實際を見て之を捕ふ。

東京本郷湯島切通坂町書報社内

歌舞伎發行 ◉

電話下谷二四八三 振替口座一八一〇六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私の仕事と『相對』

私は性的生活の研究を主なる仕事の一つと致して居ります。

同時に又た性的生活に關聯した諸問題、例へば性的特徴、婦人問題、家庭問題の如きものをも研究致して居ります。

私は此の方面に於ける自分の研究を發表したり、他人の研究を紹介したりするために、研究錄『相對』を大正二年度から發行致して居ります。

「相對」は非賣品として、相對會員に限り配布致します。

分量は菊版三百頁内外を以て一年分とし、之れを十二集に分割して發行致します。時には二集或は三集を合本として發行することもあります。

相對會費は一年分一圓八十錢、半年分九十錢と定めてあります。前納して頂きます。

此の仕事に對して、相當の理解と興味とを有せらるゝ方は、會員となる事が出來ます。

入會御希望の方は私まで御申越しを願ひます。

時を定めて相對會研究會を開きます。相對會員に限り參會することが出來ます。

一般有志者のために、時を定めて、相對社講演會を開きます。

東京本郷駒込林町二三〇

小倉清三郎

相對會研究會

（相對會員に限る）

於小石川上富坂普及福音教會夕六時

一月分豫定題目

第一月曜（五日午後二時）

「表現された春的經驗」

（談話交換、參考品展覽）

第三木曜（十五日午後六時）

「野枝子の動搖に表はれた女性的特徴」（二）

（小倉）

相對社講演會

（會費一回十錢）

（一般有志者のため）

會場同上　午后二時

一月分豫定題目

第二土曜（十日午後二時）

「女は疲れ易い。其れには深い意義がある」

（小倉）

第四土曜（二十四日午後六時）

「病と死とに對する女の抵抗力」

（小倉）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

賣文社々長 堺利彦先生譯

バアナード・ショウ作 人と超人

三六判美本 定價九十錢 郵税八錢

飜譯界、演劇界、出版界に多くの問題を提供せむとす

ショウ熱全盛の今彼の最大作の譯書出づ彼れの生命哲學彼の兩性觀彼の皮肉彼の諷刺彼の滑稽彼の冷嘲彼の熱罵悉く此の一篇の中に在り

譯書内容 本文の外、譯者の序、原著の序及原著通俗版の序、ショウ人物月旦、著作、革命家必携及其座右銘、私が倫敦で見た人と超人（松居松葉等あり）

堺利彦先生著書數種

▲樂天四人 定價六十錢 郵税八錢

▲ルソー自傳 赤裸の人 定價壹圓 郵税八錢

▲賣文集 定價壹圓 郵税八錢

▲社會主義倫理學 定價壹圓 郵税八錢

東京小石川區原町 振東京一五六八六 丙午出版社 東京小石川區原町 振東京一三五三番 雜聲堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みづゑ

一月三日發兌

新年號 廿

送料共金廿五錢

■月刊美術雜誌■

□挿畫

□溪流(水彩畫原色版)……瀧澤邦行
□GRETABRIDGE(同)……COTMAN
□英國風景……丸山晩霞
□雲……大下藤次郎
□圖案……織田一磨
□風景(水彩畫寫眞版)……赤城泰舒
□伊豆山(同)……相田直彦
□其他寫眞版數葉

□記事

□年頭所感に代へて……森林太郎
□畫壇一班……石川欽一郎
□若し水彩畫を發展せしむべきならば……中澤弘光
□英國の水彩畫……鵜澤四丁
□繪畫の觀方に於いて……磯部忠一
□進路……坂本繁次郎
□圖案に就いて……織田一磨
□廣重の五十三次錦繪……小島烏水
□年頭雜話……鵜澤四丁
□子供の描いた畫……山崎紫紅
□旅……赤城泰舒

■みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩研究專問雜誌なり

■水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は一日も坐右に本誌を欠く可らず

發行所 東京小石川關口駒井町三 振替口座東京六九六三番 春鳥會

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

MAISON KONOSU

開業御披露

■私共では此度當木原店へさゝやかなる店を開く事になりました

■毎土曜日には夕刻から「サタデーナイトデナー」を催しまして一般のお客様へ金一圓で澤山のお料理を差上げます

■殊に小宴會を御催し下さる方へはいかやうこも御相談に任せ御便利を計ります

鴻の巣主人敬白

日本橋通壹丁目白木屋横丁きはらだな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

化粧水とクリーム
効能を完全に併有する
“ハイン”

水クリーム
東京ハイン商會
電話本局三九八番

賀正

東京市麹町區飯田町五丁目六番地
大正社印刷所

御婦人向文房具

伊東屋の階上には、進歩的な智識的な
御婦人向文房具が澤山陳列有之候
御高覧願はしく御待受申上候

銀座

伊東屋

電話京橋 三二九
七九六
振替口座 五一一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

セイヨーケンホテル

築地精養軒ホテルは帝都社交界の中心たるの光榮を有せり、弊軒本店は勿論カフエーにクイツクランチに社交の花の咲誇りつゝあるは弊軒主以下一同深く御得意樣方に御禮申上候、此上は一つに諸事輕便に勉强を以て江湖の御愛顧に酬ひ奉るこそ弊軒の義務と一同大車輪に營業振りに向つて一層の努力可仕候

今般弊軒西入口內（農商務省前）に歐米風に則り高尚なるアイスクリームパーラーを新設し最も御簡便に

□アイスクリーム　□アイスカツヒー

□アイスチー　□サンドウヰツチ

□各種洋酒類洋菓子

其他を即席調進可仕候間御散策の砌り御休憩旁御家族樣御同伴の上御立寄被下度此段御披露申上候

弊軒ホテルの設備は最新式に依り萬端の調度簡易を旨とし寢室は專用浴室と接續し室內電話を全通し夏季中は煽風器に依り冬季は蒸氣暖房にて温度を調和し料理酒類は當ホテル特長の一にして給仕に至るまで其道堪能なるものを使用し自働車を常備し音樂團は晩餐中和洋の樂を奏し專ら家庭的趣味を添ゆるに務め申候

本店築地　**精養軒ホテル**

電話新橋
- 四六二　ホテル部
- 四六三　西洋料理部
- 四六四　同仕出し部
- 六四八　食堂車部
- 一五六三　洋酒食料品雜貨部

支店上野公園　精養軒ホテル

分店新橋際　カフエー、シンバシ

右同所內　クイツクランチ

分店銀座角　カフエーライオン

新橋、神戸、下ノ關間直通列車食堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

奥村博氏畫會

奥村氏の作品油畫をほしいと云ふ人が大分にあるし、それにまだそれ程多くの人に知られてゐない君を、一部高級な藝術愛好者の間に是非紹介したいといふ希望から、茲に吾々が發起して同氏の畫會を起した次第です。

奥村氏の作品に就ては愛好者諸氏の鑑賞に任せて、多く語るのを欲しませんが、唯その隱健なブラッシに氏の好んで用ふる黒は自ら獨創的品位と氏の個性を表現してゐると思ひます。氏の藝術に同感し共鳴を感ずる人々に、是非此畫會に入會していただきたいと思ひます。

猶氏は大正三年春東京(會場未定)に於て作品展覽會を開かれる筈です。

■甲	八號	額縁付	十二ケ月拂	毎月	貳圓
■乙	スケッチ板	同	八ケ月拂	毎月	壹圓五拾錢
■丙	スケッチ板(小)	同	五ケ月拂	毎月	壹圓

■拂込の最後の月に、申込順に作品をお送り致します。

■申込所。(申込とともに最初の分を拂込んで下さればよろしいです)

東京府下大久保西大久保二〇一白日社内
奥村博氏畫會

東京府下巣鴨町三ノ三
奥村博氏畫會

發起人
前田夕暮
津田青楓
山村暮鳥
田村俊子
岩野清子
平塚明子

贊助員
相馬御風
宇和川通喩
朝倉文夫
保持白雨
中野初子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

MAISON. KONOSU

AKEMASHITE OMEDETO

鴻乃巣が小網町で産聲を揚げてからモー五ッになります。モット育つ筈で御座いましたのに小さくなつて當木原店へ現れました。

料理は以前よりもズットうまくなりました。それは小さい鴻乃巣になつたからです。大きくなるとます〱なるかも知れません。

チヨトした宴會をお催し下さる方はいか樣にも御望みに任せ御便利を計ります。

日本橋區壹ノ七木原だな

メーゾン 鴻乃巣

Digitized by Google   Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

カフヱープランタン

此度當プランタンは二階を擴げて食堂を新設致しました一度御來遊を願ひます、私の嗜好は私の店を街中と云ふ感から離し度思つてゐした、そして此度新設した食堂は多少成功したと存じます。

海邊の樣な氣持のするヴエランダで日吉町の暗い通を見下ろしながら召上るコーヒーは趣味の無いものではありません。

階下は著名な文士書家の落書が壁の殆全部をうづめてます、不用意の間にそれ〳〵面目が表はれる所或は極端に皮肉なカリカチユアー一度では見つくせぬ程興味のあるものです。

ドーぞ御來遊の程祈ります、そしてプランタンは常に趣味の上に立つてる事を御覽下さい。

カフヱープランタン

松山省三

營業時間　午前十時頃ヨリ午前一時頃迄

テーブルドツト　金壹圓

ランチ　午前十一時ヨリ午後二時迄及午後五時ヨリ七時迄

A 三十錢　B 五十錢

ハンバクステキサンドウ井ツチ
カキフライサンドウ井ツチ　金十二錢

年末年始の御贈答になる樣茶菓券を發賣致します

來れ習ふは一時習はざるは一生の損

入會は今日只今思ひ立つ日が吉日

正二位勳一等伯爵土方久元閣下
從二位勳一等子爵川村景明閣下
前文部大臣長谷場純孝閣下
其他賛助員朝野一流ノ學者博士數十名

神田區錦町三丁目六番地（正則英語學校前）

速成日本習字學會

電話本局五二七二番
振替口座東京二五八一五番

主事 文學士 原龍豐
主任教授 高橋九皐

束修全免
會費校費共
一ヶ月金六十錢
小學兒童ニ限リ
一ヶ月金五十錢

見よ會費の低廉

習字は如何にして速達するか

習字速達の良法は字劃を原理的に分解して一々其運筆を會得せしめながら結體を構成するの一あるのみ。是れ最初より手本のみに就き練習すると其遲速の差幾何ぞや。本會主任教授高橋九皐先生は數年の實驗上此良法を案出し未だ運算の素養なき小學兒童に至るまで實地に手を把り懇切叮嚀必ず六ヶ月間に能筆たらしむる事を保證す。請ふ論より證據速に御實驗あらん事を希望いたします。

端書又は電話にて御申込次第規則呈送

地方の會員には本會獨特の通信式教授をなす

賜有功賞牌

最も優ぐれたる御婦人用髪油ハ

本舗 東京市人形町通堺町 井筒屋香油店

『三越に委せ都の人となり』（文藝の三越當選川柳）

三越呉服店は現代流行品の總てを販賣いたして居ります。日本の流行は東京より出で、東京の流行は三越より出づるのでありますから、三越呉服店に御調製を仰せ付けくださりますれば、頭の先きから踵まで時代に後るゝ樣な事はございません。東京式の服裝は此を三越より求めらるべく、安心して御買物に出來ます店は我が三越呉服店であります。

東京駿河町

三越呉服店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年2月28日発行　【第8回配本】

青鞜第4巻　1月号

編著者　平塚らいてう
発行者　藤原正人
発行所　(株)明治文献
印刷　江明印刷
製本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.4
no.1

University of Colorado at Boulder
U18304 6746377

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER